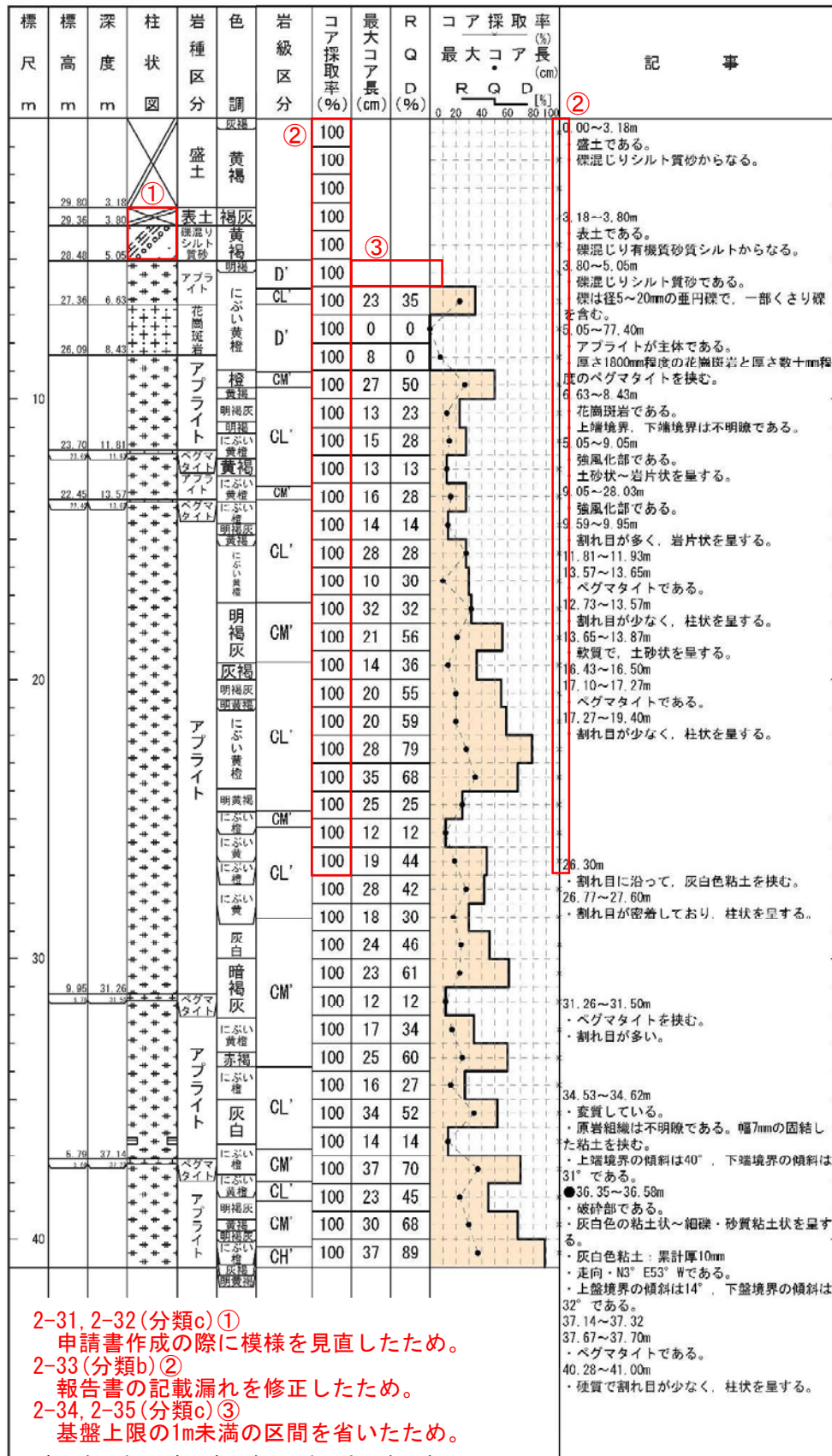


第7.4.4.181図 (6) D-6 破砕帯及びD-5 破砕帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No. 4)  
 2-26(分類b)①  
 報告書の記載漏れを修正したため。



H19-No. 12

孔口標高	I.P.	32.05m	掘削長	250.00m
------	------	--------	-----	---------



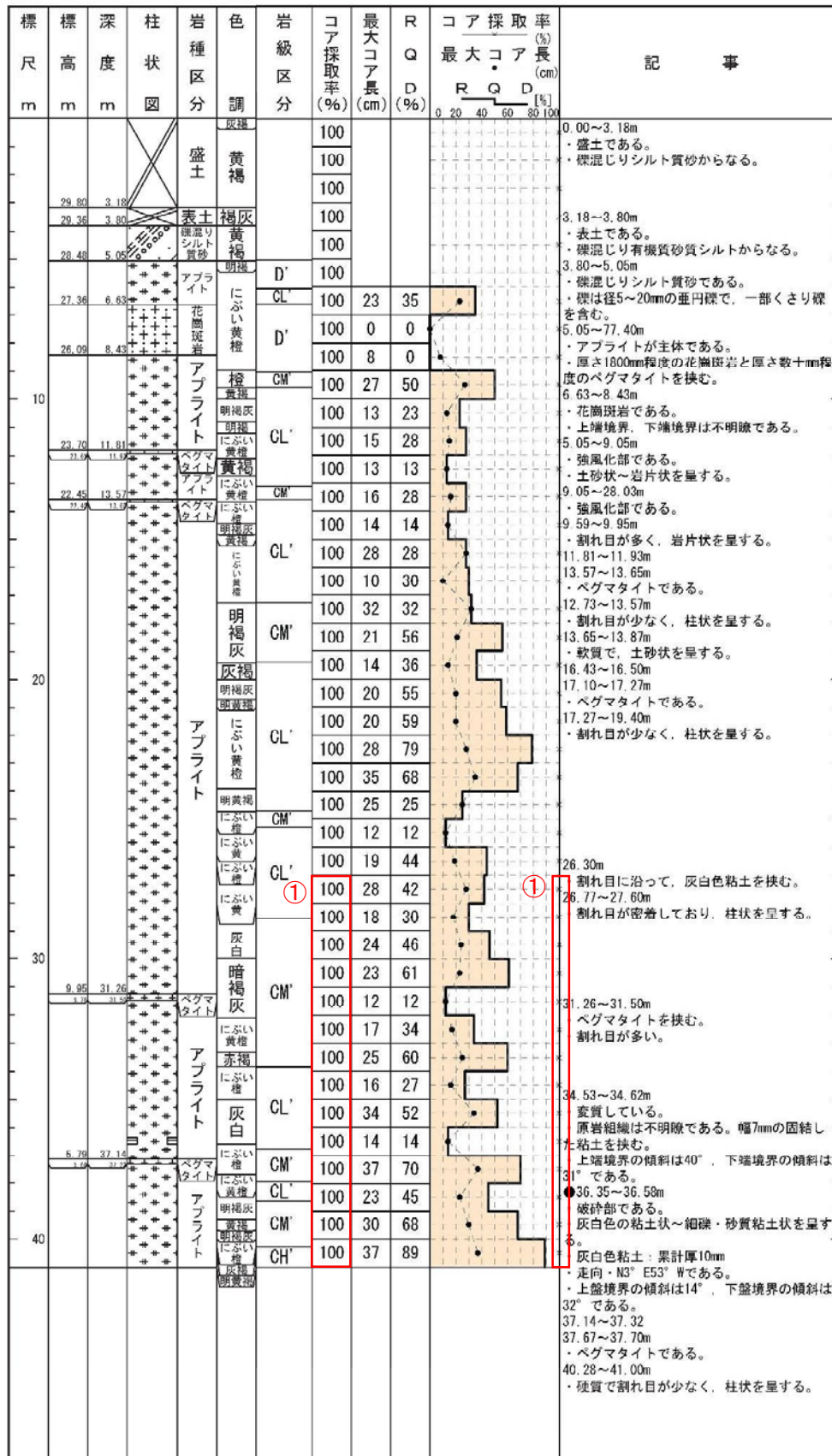
2-31, 2-32 (分類c) ①  
申請書作成の際に模様を見直したため。  
2-33 (分類b) ②  
報告書の記載漏れを修正したため。  
2-34, 2-35 (分類c) ③  
基盤上限の1m未満の区間を省いたため。

6-7-4-1068

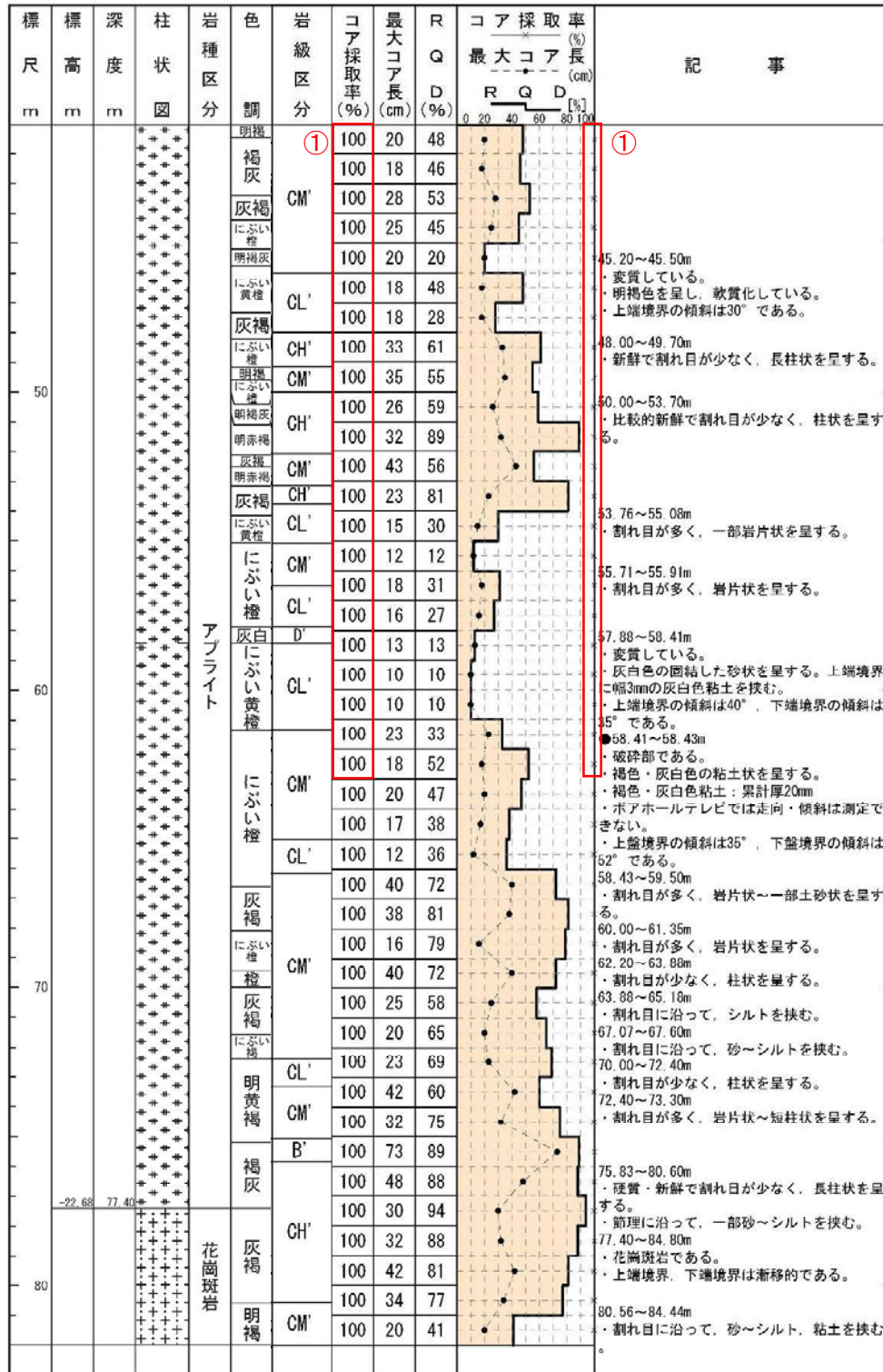
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩盤区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入試験 ) 試験					室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアカチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)		
																( N 値 ~ 深度 )															
		9.95 9.78		アプライト	にぶい黄	Dg	IIg IVg	cg			深度28.03m以深、風化の程度が弱くなる。	28 42	142	CL	[CL]		9/22 27.75	100	114 / ケーシング												
		31.26 31.50		アプライト	暗褐灰	Cg	IVg IVg	bg			ベグマタイトを挟む。節理多い。 斑状に岩芯まで褐色化する。	18 24 26 34	148	CM	[CM]		9/23 32.10	104													
		37.14 37.30		アプライト	赤褐	Dg	IIIg IVg	cg			深度34.53~34.62m: 変質帯。上盤40度、下盤31度。変質により原岩組織不明瞭。幅7mmの固結粘土を挟む。	12 17 34	162	CL	[CL]			103													
		5.79 5.66		アプライト	にぶい橙	Cg	IIg IVg	bg			深度36.35~36.50m: 破砕帯(Hb)。上盤14度、下盤32度。細粒~砂状。深度36.52~36.53m: 傾斜37度。幅10mmの褐色・灰白色粘土を挟む。深度36.58m以深: 節理に沿って黄褐色化進む。 深度37.14~37.32、37.67~37.70m: ベグマタイトを挟む。	14 26 37	170	CM	[CM]		9/25 36.55	103													
				アプライト	明褐灰	Dg	IIg IVg	cg			深度39.43m: シーム。傾斜41度。幅5mm。褐色粘土状。	30	160	CM	[CM]			92													
				アプライト	明褐	Bg	IIg IVg	cg			深度40.28~41.00m: 節理少なく柱状硬質コア。 深度41.00~45.20m: 節理に沿って褐色化進む。一部岩芯まで斑状に風化する。	27 37	189	CH	[CH]			92													
				アプライト	褐灰	Cg	IIIg IVg	bg			深度43.60~44.20m: やや石英の斑晶が多い。	28 45	153	CM	[CM]		9/26 44.35	92													
				アプライト	明褐灰	Eg	VIg IIg	dg			深度45.20~45.50m: 変質帯。上盤30度。軟質化する。	29	180					75													
				アプライト	にぶい黄橙	Dg	IVg IIIg	cg			深度46.00~47.33m: 全体に変質強く脆い。	18	148	CL	[CL]			92													
				アプライト	灰褐	Cg	IVg	cg			深度48.00~49.70m: 節理少ない新鮮岩。斑状に褐色化する。	18	141	CH	[CH]		9/27 48.70	92													
				アプライト	明褐	Cg	IVg	bg			深度49.15~49.60m: 節理多いが、密着している。	33	150	CM	[CM]			101													
				アプライト	明褐灰	Bg	IIg IVg	cg			深度50.00~53.70m: 柱状コア。比較的新鮮で節理に沿って褐色を帯びる。	46	150	CH	[CH]			101													
				アプライト	明赤褐	Bg	IIg	cg										101													
				アプライト	灰褐	Cg	IIIg	bg										101													
				アプライト	明赤褐	Bg	IIIg	cg			深度53.76~55.08m: やや変質進む。節理多く、一部細礫状をなす。	26	181	CH	[CH]			101													
				アプライト	にぶい黄橙	Dg	IVg	cg										101													
				アプライト	にぶい黄橙	Cg	IVg	bg			深度55.71~55.91m: 角礫状をなし、幅2cm程度の砂を挟む。	12 12	152	CM	[CM]		9/28 55.15	101													
				アプライト	にぶい橙	Dg	IIIg IVg	cg										119													
				アプライト	灰白	Eg	VIg Vg	dg			深度57.88~58.41m: 変質帯。上盤40度、下盤35度。原岩組織不明瞭。固結砂状。上盤幅5mmの灰白色粘土を挟む。	10	183					119													
				アプライト	にぶい黄橙	Dg	IVg IVg	cg			深度58.41~58.43m: 破砕帯(Hc)。上盤35度、下盤32度。幅15~20mm。褐色・灰白色粘土状。 深度58.43~59.50m: 角礫~細礫状をなし一部砂状を挟む。 深度60.00~61.35m: 角礫~短柱状コア。節理多く、全体に脆い。	10 10	190	CL	[CL]			119													
				アプライト	にぶい黄橙	Dg	IVg	bg			深度61.35~62.20m: やや節理多いが柱状コアをなす。	12 18	183	CM	[CM]			119													
				アプライト	にぶい黄橙	Cg	IVg	bg			深度62.20~63.88m: 柱状コア。硬質であるが、やや節理多く、節理に沿って褐色を帯びる。	18	152	CM	[CM]			119													

H19-No. 12

孔口標高	I.P.	32.05m	掘削長	250.00m
------	------	--------	-----	---------



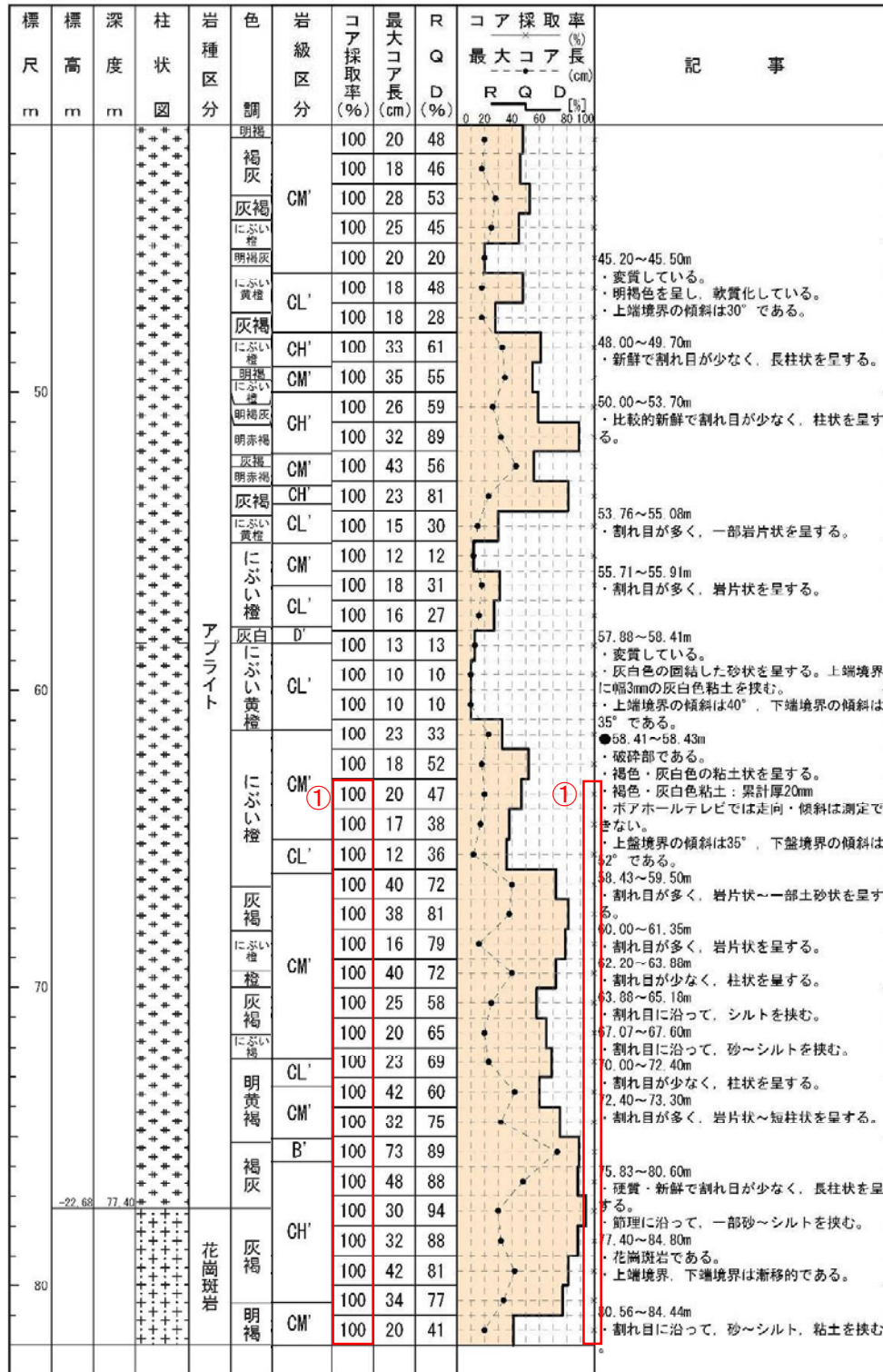
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 — (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩盤区分	孔内水位(測定月日) (N) 値	( 標準貫入試験 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 )					原位置試験 孔内水平載荷	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)				
															0	10	20	30	40												50			
30	9.95	31.26	ベグマタイト	アブライト	にぶい黄	Dg	IIg	cg			2	深度28.03m以深、風化の程度が弱くなる。 ベグマタイトを挟む。節理多い。 斑状に岩芯まで褐色化する。	28 (42) 18 (40) 14 (48) 20 (41)	CL [CL]								9/22 27.75	100	114 / ケーシング										
	9.78	31.50																													IVg IIIg IVg IVg IVg	104		
40	5.79	37.14	ベグマタイト	アブライト	にぶい黄	Dg	IIg	cg			2	深度34.53~34.62m: 変質帯。上盤40度、下盤31度。変質により原岩組織不明瞭。幅7mmの固結粘土を挟む。	34 (27) 34 (52)	CL [CL]							9/23 32.10	103												
	5.66	37.30																												IVg IIIg IVg IVg IVg	103			
50				アブライト	にぶい黄	Dg	IIg	cg			3	深度36.35~36.50m: 破砕帯(Hb)。上盤14度、下盤32度。細粒~砂状。深度36.52~36.53m: 傾斜37度。幅10mmの褐色・灰白色粘土を挟む。深度36.58m以深: 節理に沿って黄褐色化進む。深度37.14~37.32、37.67~37.70m: ベグマタイトを挟む。	36 (44) 37 (100) 37 (48)	CM [CM]						9/25 35.55	92													
																																		IVg IVg IVg IVg IVg
60				アブライト	にぶい黄	Dg	IIg	cg			2	深度39.43m: シーム。傾斜41度。幅5mm。褐色粘土状。 深度40.28~41.00m: 節理少なく柱状硬質コア。 深度41.00~45.20m: 節理に沿って褐色化進む。一部岩芯まで斑状に風化する。	39 (60) 37 (89) 41 (48)	CM [CM]						9/26 44.35	75	90 / ケーシング												
																																IVg IVg IVg IVg IVg	75	
60				アブライト	にぶい黄	Dg	IIg	cg			3	深度43.60~44.20m: やや石英の斑晶が多い。 深度45.20~45.50m: 変質帯。上盤30度。軟質化する。 深度46.00~47.33m: 全体に変質強く脆い。 深度48.00~49.70m: 節理少ない新鮮岩。斑状に褐色化する。	43 (53) 45 (45) 48 (48) 48 (41)	CM [CM]						9/27 48.70	101													
																																		IVg IVg IVg IVg IVg
60				アブライト	にぶい黄	Dg	IIg	cg			2	深度49.15~49.60m: 節理多いが、密着している。 深度50.00~53.70m: 柱状コア。比較的新鮮で節理に沿って褐色を帯びる。 深度53.76~55.08m: やや変質進む。節理多く、一部細粒状をなす。	49 (50) 50 (50) 53 (81)	CM [CM]						9/28 55.15	119													
																																	IVg IVg IVg IVg IVg	119
60				アブライト	にぶい黄	Dg	IIg	cg			4	深度57.88~58.41m: 変質帯。上盤40度、下盤35度。原岩組織不明瞭。固結砂状。上盤幅5mmの灰白色粘土を挟む。 深度58.41~58.43m: 破砕帯(Hc)。上盤35度、下盤32度。幅15~20mm。褐色・灰白色粘土状。 深度58.43~59.50m: 角礫~細礫状をなし一部砂状を挟む。 深度60.00~61.35m: 角礫~短柱状コア。節理多く、全体に脆い。 深度61.35~62.20m: やや節理多いが柱状コアをなす。 深度62.20~63.88m: 柱状コア。硬質であるが、やや節理多く、節理に沿って褐色を帯びる。	57 (40) 58 (40) 60 (40) 61 (40) 62 (52)	CL [CL]					9/28 55.15	119														



2-33 (分類b) ①  
報告書の記載漏れを修正したため。

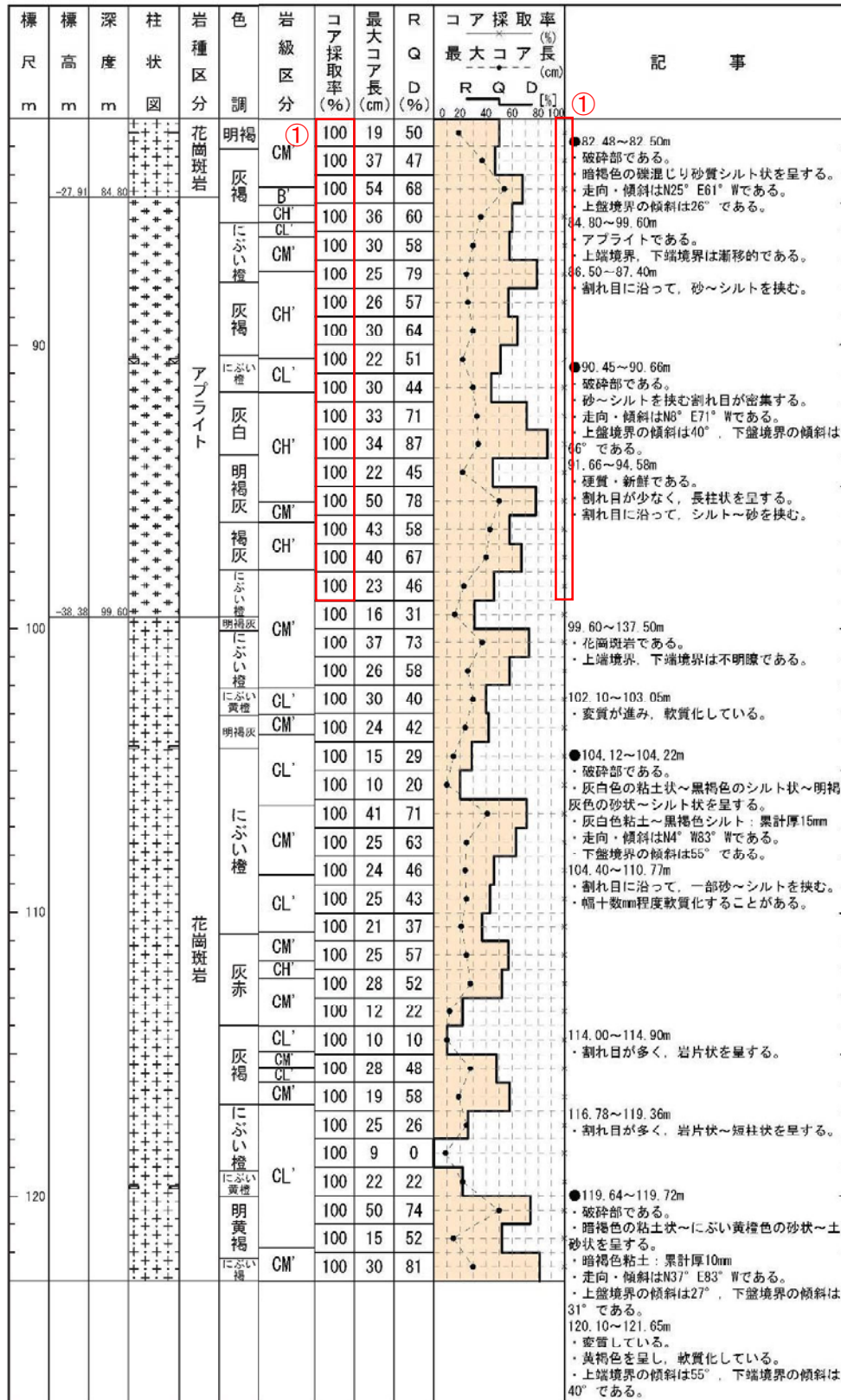
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩盤区分	岩級分類	孔内水位 (m) / 測定日	( 標準貫入試験 ) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)					
																( N 値 ~ 深度 )																				
70	-22.68	77.40		アプライト	にぶい橙	IIIg	bg				深度63.88~65.18m: 節理に沿って緑灰色シルトを挟む。	123 141	OM			9/29 84.05	119	30.0	200																	
					灰褐	IVg	γ				深度65.18~66.13m: 節理に沿って褐色化し、角礫~砂状をなす。	17 38	OL				176	15.0																		
					にぶい橙	IIIg	bg				深度67.07~67.60m: 節理に沿って砂~シルトをはさみ、やや脆くなる。	40 38	OM			9/30 86.25																				
					アプライト	にぶい橙	IIIg	β			深度68.88~69.37m: 節理に沿って変質部を挟む。変質部は固結砂状、境界部に褐色シルトを挟む。	46 46	OM	[CM]			93	30.0																		
					灰褐	IIIg	cg				深度70.00~72.40m: 柱状コア、節理に沿って褐色化。	45 59	OM			10/4 87.45																				
					アプライト	にぶい橙	IIIg	γ			深度70.60m以深、アプライトの石基が径0.2~0.5mm程度と大きくなり、載在程度に斑晶も含む(1%以下)。	20 63	OM																							
					明黄褐	IVg					深度72.40~73.30m: 全体に褐色化し節理多い。	28 60	CL																							
					明黄褐	IIg							OM																							
					褐灰	Ig					深度75.83~80.60m: 新鮮な柱状コア。節理少ないが、節理に沿って酸化し、所々に砂~シルトを挟む。	47 67	B'			10/5 87.70																				
					花崗斑岩	IIg	bg				花崗斑岩、上位との境界漸移的。深度77.40~84.80m: 花崗斑岩。径3~5mmの石英、長石及び径1~2mmの黒雲母の斑晶を10~40%含み、石基は径0.2~0.5mm程度である。組織は全体に不均質で、流理は傾斜約30度程度である。	50 60	CH	[CH]				88																		
					花崗斑岩	IIIg							CH																							
					明褐	IIIg	γ				深度80.56~84.44m: 全体に酸化の進んだ柱状~短柱状コア。節理に沿って砂~灰白色固結シルト、粘土を挟む。	47 61	OM	[CM]			10/6 88.10																			
					明褐	IVg	cg				深度82.48~82.50m: 破砕帯(Hj)。傾斜26度。幅15~20mmの暗褐色凝滞しり砂質シルト状。	33 30	OM	[CM]																						
					灰褐	IIIg					深度84.00~84.44m: 節理に沿って淡緑色変質鉱物を挟む。黄鉄鉱あり。アプライト、上位との境界漸移的。	34 63	B'																							
					灰褐	IVg	cg				深度84.90~90.60m: アプライト。石基は径0.1mm程度であり、斑晶は点在程度である(0.5%以下)。	33 60	CH																							
					にぶい橙	IIIg	cg				深度86.50~87.40m: 変質を受け、やや脆い。節理に沿って砂~シルトを挟む。	30 58	OM																							
					灰褐	IIIg	bg						CH																							
					アプライト	にぶい橙	IVg	β			深度90.45~90.66m: 破砕帯(Hj)。上盤40度、下盤66度。節理密集し、節理に沿って砂~シルトを挟む。	22 51	OL	[CH]																						
					アプライト	灰白	IIg	bg			深度91.66~94.58m: 節理少なく新鮮な柱状コア。節理に沿って濃緑色シルト~砂を挟む。	30 34	CH																							
					明褐灰	IVg	cg				深度94.58~96.25m: やや節理多くなり、褐色化顕著。	27 43	OM																							
					明褐灰	IIIg	bg				深度96.15m・96.10~96.18mに続く傾斜68~80度の節理が見かけ2cm逆断層的にずれる。	46 58	CH																							
					にぶい橙	IVg	γ				深度97.93~102.10m: 全体に褐色化進み、節理多い。	26 48	OM	[CM]			10/12 96.40																			





2-33 (分類b) ①  
報告書の記載漏れを修正したため。

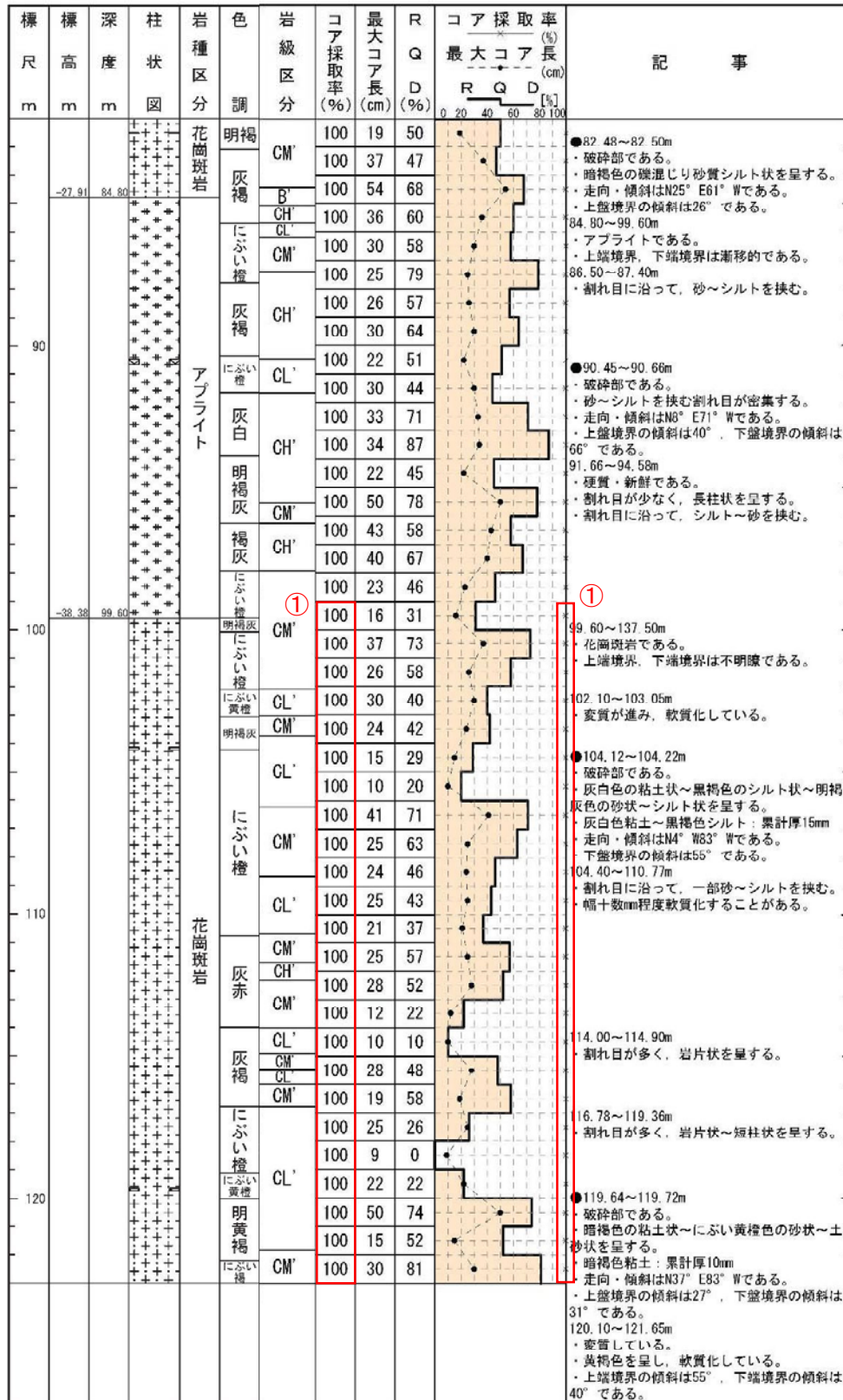
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 — (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩盤区分	岩級分類	孔内水位(測定日)	(標準貫入試験)試験					原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進進度(時)	掘進速度(CM/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(1/分)	排水量(1/分)					
																N値~深度																				
70				アプライト	にぶい橙	IIIg	bg				深度63.88~65.18m: 節理に沿って緑灰色シルトを挟む。	123 141 17 381	OM			9/29 84.05	119	30.0	200																	
				アプライト	灰褐	IVg	γ				深度65.18~66.13m: 節理に沿って褐色化し、角礫~砂状をなす。	11 361	OL				176	15.0																		
				アプライト	灰褐	IIIg	bg				深度67.07~67.60m: 節理に沿って砂~シルトをはさみ、やや脆くなる。	40 38 81 172	OM				9/30 86.25	93	30.0																	
				アプライト	にぶい橙	IIIg	β				深度68.88~69.37m: 節理に沿って変質部を挟む。変質部は固結砂状、境界部に褐色シルトを挟む。	46 46 79 172	OM	[CM]																						
				アプライト	灰褐	IIIg	cg				深度70.00~72.40m: 柱状コア、節理に沿って褐色化。	45 59 172	OM					10/4 70.45																		
				アプライト	にぶい橙	IIIg	γ				深度70.60m以深、アプライトの石基が径0.2~0.5mm程度と大きくなり、散在程度に斑晶も含む(1%以下)。	20 63 172	OM																							
				アプライト	明黄褐	IVg	γ				深度72.40~73.30m: 全体に褐色化し節理多い。	28 60 172	OL																							
				アプライト	明黄褐	IIg							OM																							
				アプライト	褐灰	Ig							B'																							
				アプライト	灰褐	IIIg	β				深度75.83~80.60m: 新鮮な柱状コア。節理少ないが、節理に沿って酸化し、所々に砂~シルトを挟む。	47 47 89 172	OM				10/5 76.70	88																		
				花崗斑岩	灰褐	IIIg	bg				花崗斑岩。上位との境界漸移的。深度77.40~84.80m: 花崗斑岩。径3~5mmの石英、長石及び径1~2mmの黒雲母の斑晶を10~40%含み、石基は径0.2~0.5mm程度である。組織は全体に不均質で、流理は傾斜約30度程度である。	50 60 172	CH	[CH]																						
				花崗斑岩	明褐	IIIg	γ				深度80.56~84.44m: 全体に酸化の進んだ柱状~短柱状コア。節理に沿って砂~灰白色固結シルト、粘土を挟む。	32 47 81 172	OM																							
				花崗斑岩	灰褐	IIIg	cg				深度82.48~82.50m: 破砕帯(Hj)。傾斜26度。幅15~20mmの暗褐色凝滞しり砂質シルト状。	33 47 81 172	OM	[CM]				10/6 83.10	84																	
				花崗斑岩	灰褐	IIIg	cg				深度84.00~84.44m: 節理に沿って淡緑色変質鉱物を挟む。黄鉄鉱あり。アプライト、上位との境界漸移的。	34 63 172	B'																							
				花崗斑岩	にぶい橙	IIIg	cg				深度84.90~90.60m: アプライト。石基は径0.1mm程度であり、斑晶は点在程度である(0.5%以下)。	33 47 81 172	CH																							
				花崗斑岩	にぶい橙	IIIg	cg				深度86.50~87.40m: 変質を受け、やや脆い。節理に沿って砂~シルトを挟む。	30 59 172	OM																							
				花崗斑岩	灰褐	IIIg	bg						CH																							
				花崗斑岩	にぶい橙	IIIg	β				深度90.45~90.66m: 破砕帯(Hj)。上盤40度、下盤66度。節理密集し、節理に沿って砂~シルトを挟む。	33 47 81 172	OL	[CH]																						
				花崗斑岩	灰白	IIIg	cg				深度91.66~94.58m: 節理少なく新鮮な柱状コア。節理に沿って濃緑色シルト~砂を挟む。	30 34 63 172	CH																							
				花崗斑岩	明褐灰	IIIg	cg				深度94.58~96.25m: やや節理多くなり、褐色化顕著。	34 63 172	CH																							
				花崗斑岩	褐灰	IIIg	bg				深度96.15m・96.10~96.18mに続く傾斜68~80度の節理が見かけ2cm逆断層的にずれる。	34 63 172	OM																							
				花崗斑岩	にぶい橙	IIIg	γ				深度97.93~102.10m: 全体に褐色化進み、節理多い。	34 63 172	OM	[CM]				10/12 96.40	74	55.0																



2-33(分類b)①  
報告書の記載漏れを修正したため。

6-7-4-1070

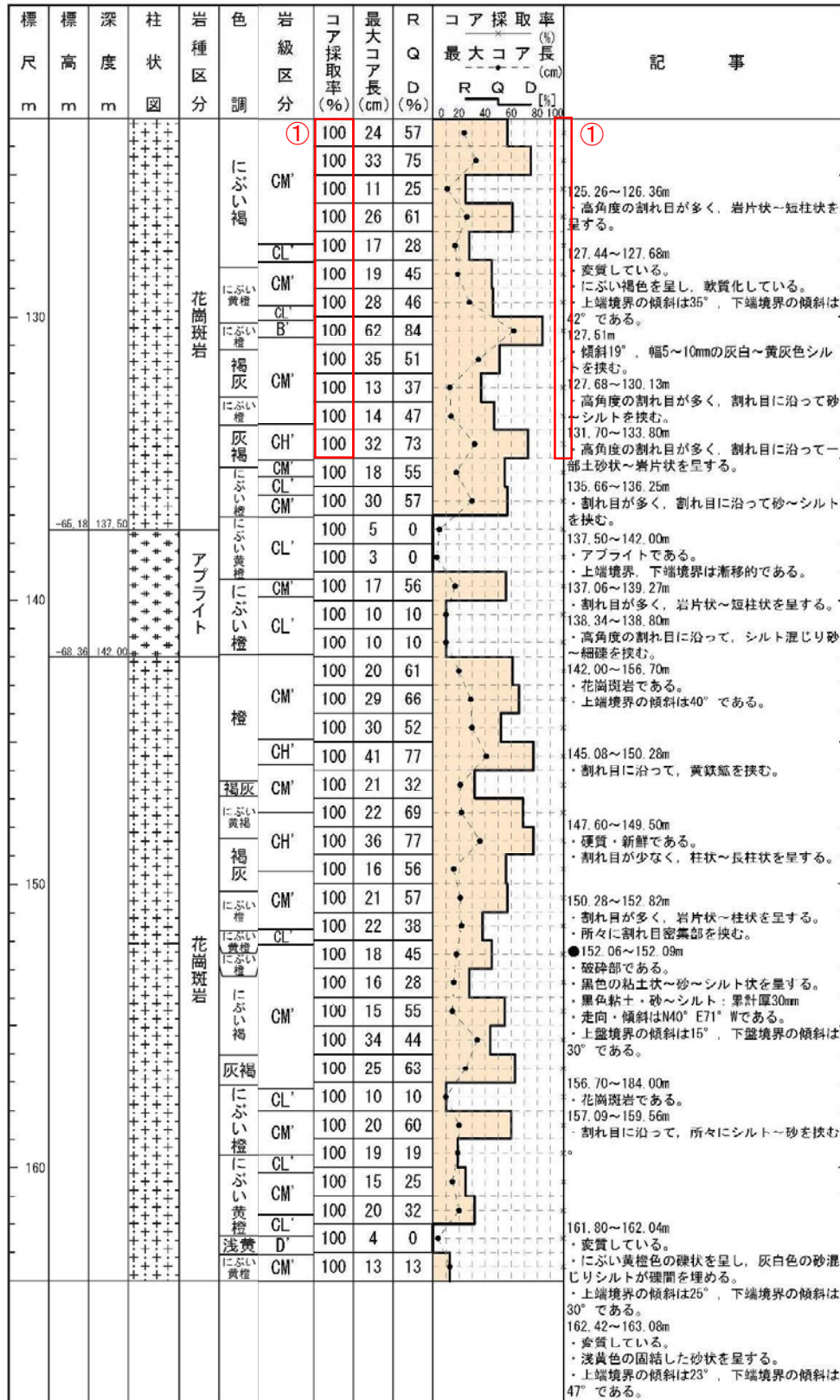




2-33(分類b)①  
 報告書の記載漏れを修正したため。

6-7-4-1070



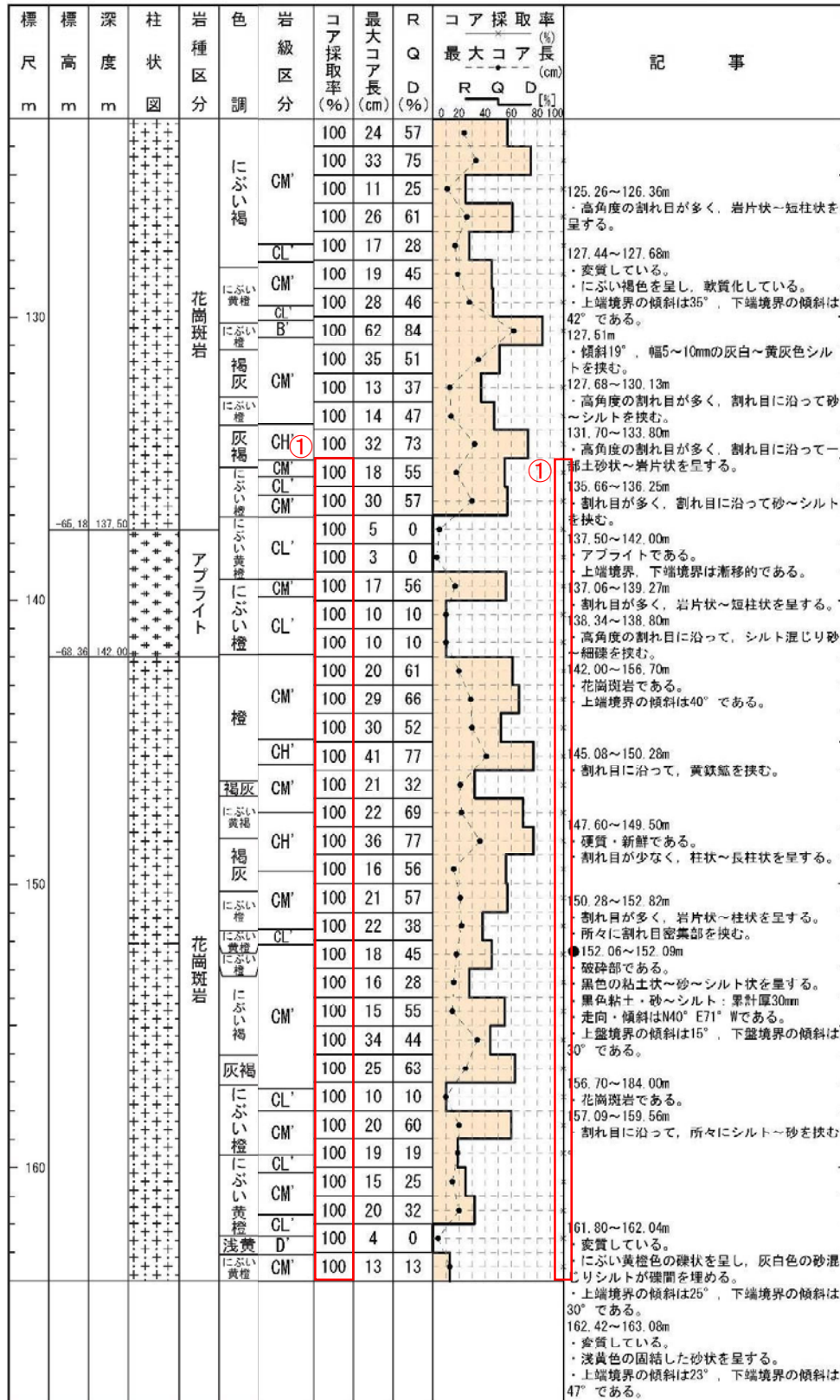


2-33(分類b)①  
報告書の記載漏れを修正したため。

6-7-4-1071

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の形状	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [ % ]	岩盤区分	孔内水位(測定月日)	( 標準貫入試験 ) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進進度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (l/分)	排 水 量 (l/分)		
														( N 値 ~ 深度 )																	
				花崗斑岩	にぶい橙	IIIg	bg	β		深度135.66~136.25m: 節理多く、節理に沿って砂~シルトを挟む。	18 50 30 50	OM		0	10	20	30	40	50												
		65.18	137.50	花崗斑岩	にぶい橙	IVg	bg				60 50 50	OM																			
		68.36	142.00	アプライト	にぶい黄橙	Vg	bg			アプライト。上位との境界漸移的。深度137.50~142.00m: アプライト。石基は径0.1mm程度であり、珪晶は石英・長石主体で点在程度である(0.5%以下)。	60 50 50	CL																			
				アプライト	にぶい橙	IIIg	cg	γ		深度137.06~139.27m: 節理多く、角礫~短柱状。	60 50 50	OM																			
				アプライト	にぶい橙	IVg	cg	2		深度138.34~138.80m: 高角度な節理に沿ってシルト混じり砂~細礫を挟む。	60 50 50	CL																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度140.85~140.86m: シーム。傾斜54度。幅5~10mmの褐色粘土状。	60 50 50	CL																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			花崗斑岩。上位との境界傾斜40度。深度142.00~142.70m: 花崗斑岩。径3~5mm程度の石英・長石・黒雲母の珪晶を1~40%含み、石基は径0.1~0.5mm程度である。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IVg	cg			深度145.08~150.28m: 節理に沿って黄鉄鉱を挟む。	60 50 50	CH																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg	β			60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度145.08~150.28m: 節理に沿って黄鉄鉱を挟む。	60 50 50	CH																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg	1		深度150.28~152.82m: 節理多く、所々に節理密集部を挟む。全体に褐色化している。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、一部角礫状をなす。	60 50 50	OM																			
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.06~152.09m: 破砕帯(Hc)。上盤15度。下盤30度。幅30mm砂~シルト状及び黒色粘土状。	60 50 50	CL	[CM]																		
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIIg	cg			深度152.82~157.09m: 節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く、																					





2-33(分類b)①  
報告書の記載漏れを修正したため。

6-7-4-1071

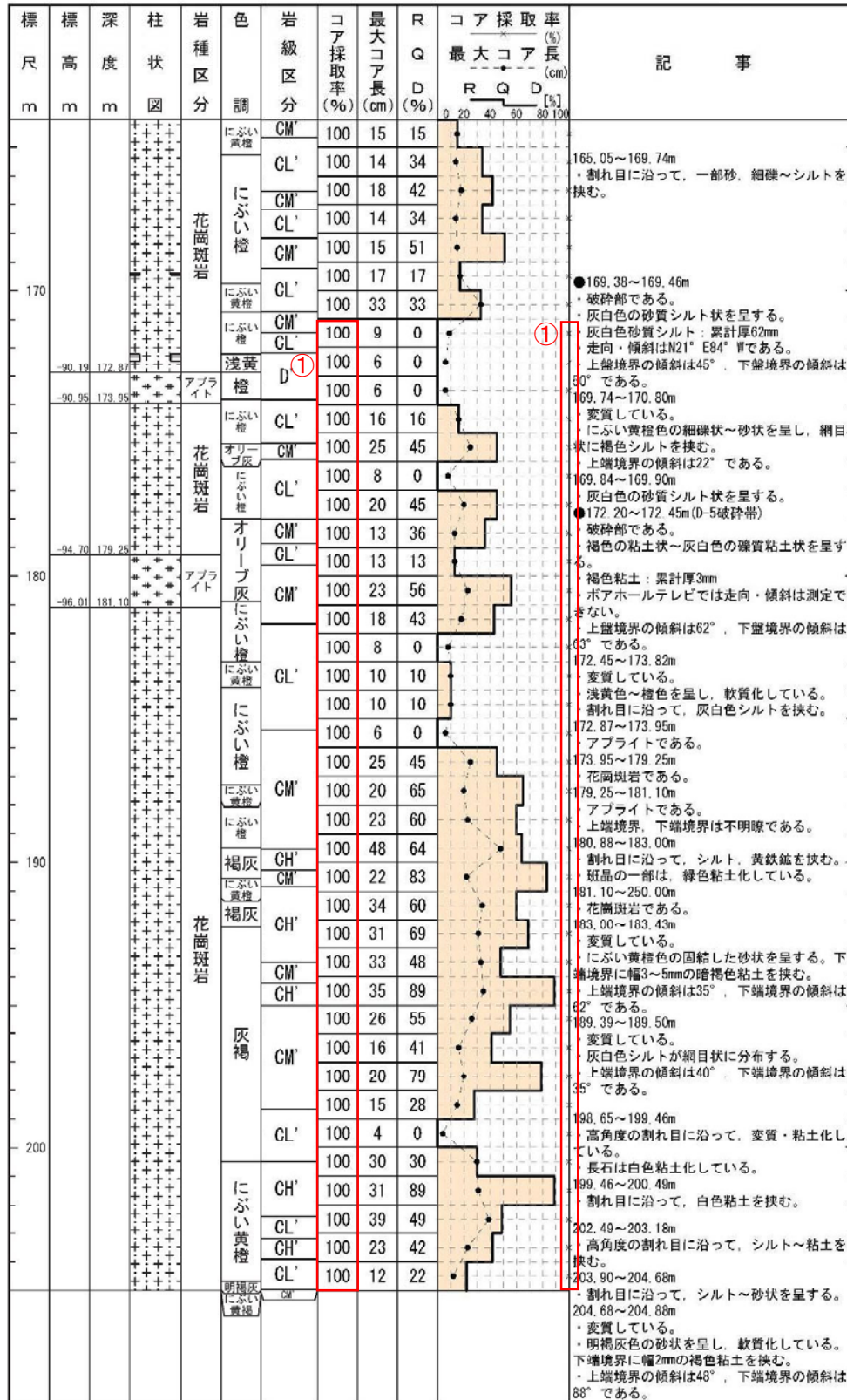


標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%) 最大コア 長 (cm)	記 事
				花崗斑岩	にぶい 黄橙	CM'	100	15	15		<p>① 165.05~169.74m ・割れ目に沿って、一部砂、細礫~シルトを挟む。</p> <p>●169.38~169.46m ・破砕部である。 ・灰白色の砂質シルト状を呈する。 ・灰白色砂質シルト：累計厚62mm ・走向・傾斜はN21° E84° Wである。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は50°である。</p> <p>169.74~170.80m ・変質している。 ・にぶい黄橙色の細礫状~砂状を呈し、網目状に褐色シルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は22°である。</p> <p>169.84~169.90m ・灰白色の砂質シルト状を呈する。</p> <p>●172.20~172.45m(D-5破砕帯) ・破砕部である。 ・褐色の粘土状~灰白色の礫質粘土状を呈する。 ・褐色粘土：累計厚3mm ・ポアホールテレビでは走向・傾斜は測定できない。 ・上盤境界の傾斜は62°、下盤境界の傾斜は63°である。</p> <p>172.45~173.82m ・変質している。 ・浅黄色~橙色を呈し、軟質化している。 ・割れ目に沿って、灰白色シルトを挟む。</p> <p>172.87~173.95m ・アブライトである。</p> <p>173.95~179.25m ・花崗斑岩である。</p> <p>179.25~181.10m ・アブライトである。 ・上端境界、下端境界は不明瞭である。</p> <p>180.88~183.00m ・割れ目に沿って、シルト、黄鉄鉱を挟む。 ・班晶の一部は、綠色粘土化している。</p> <p>181.10~250.00m ・花崗斑岩である。</p> <p>183.00~183.43m ・変質している。 ・にぶい黄橙色の固結した砂状を呈する。下端境界に幅3~5mmの暗褐色粘土を挟む。 ・上端境界の傾斜は35°、下端境界の傾斜は62°である。</p> <p>189.39~189.50m ・変質している。 ・灰白色シルトが網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は40°、下端境界の傾斜は35°である。</p> <p>198.65~199.46m ・高角度の割れ目に沿って、変質・粘土化している。 ・長石は白色粘土化している。</p> <p>199.46~200.49m ・割れ目に沿って、白色粘土を挟む。</p> <p>202.49~203.18m ・高角度の割れ目に沿って、シルト~粘土を挟む。</p> <p>203.90~204.68m ・割れ目に沿って、シルト~砂状を呈する。</p> <p>204.68~204.88m ・変質している。 ・明褐色の砂状を呈し、軟質化している。 ・下端境界に幅2mmの褐色粘土を挟む。 ・上端境界の傾斜は48°、下端境界の傾斜は88°である。</p>
					にぶい 橙	CL'	100	14	34		
					にぶい 黄橙	CM'	100	18	42		
					にぶい 橙	CL'	100	14	34		
					にぶい 黄橙	CM'	100	15	51		
					にぶい 橙	CL'	100	17	17		
					にぶい 黄橙	CM'	100	33	33		
					にぶい 橙	CL'	100	9	0		
					浅黄 橙	D'	100	6	0		
					アブラ イト	橙	100	6	0		
				花崗斑岩	にぶい 橙	CL'	100	16	16		
					オリ ブ 灰	CM'	100	25	45		
					にぶい 橙	CL'	100	8	0		
					にぶい 橙	CL'	100	20	45		
					オリ ブ 灰	CM'	100	13	36		
					オリ ブ 灰	CL'	100	13	13		
					アブラ イト	CM'	100	23	56		
					にぶい 橙	CL'	100	18	43		
					にぶい 黄橙	CL'	100	10	10		
					にぶい 橙	CL'	100	10	10		
				にぶい 橙	CL'	100	6	0			
				にぶい 黄橙	CM'	100	25	45			
				にぶい 黄橙	CM'	100	20	65			
				にぶい 黄橙	CM'	100	23	60			
				褐 灰	CH'	100	48	64			
				にぶい 黄橙 褐 灰	CM'	100	22	83			
				にぶい 黄橙 褐 灰	CH'	100	34	60			
				にぶい 黄橙 褐 灰	CH'	100	31	69			
				灰 褐	CM'	100	33	48			
				灰 褐	CH'	100	35	89			
				灰 褐	CM'	100	26	55			
				灰 褐	CM'	100	16	41			
				灰 褐	CM'	100	20	79			
				灰 褐	CL'	100	15	28			
				灰 褐	CL'	100	4	0			
				にぶい 黄橙	CH'	100	30	30			
				にぶい 黄橙	CH'	100	31	89			
				にぶい 黄橙	CL'	100	39	49			
				にぶい 黄橙	CH'	100	23	42			
				にぶい 黄橙	CL'	100	12	22			
				明褐色 にぶい 黄橙	CM'						

2-33(分類b)①  
報告書の記載漏れを修正したため。

6-7-4-1072





2-33(分類b)①  
報告書の記載漏れを修正したため。

6-7-4-1072



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩 級 区 分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 最大コア長 (%)	記事
	210			花崗斑岩	青灰 明黄褐色	GM'	100	23	63		①
		CH'				100	43	95			
		CL'				100	18	18			
		CH'				100	27	59			
		CL'				100	23	55			
		CM'				100	20	77			
		CM'				100	28	74			
		CH'				100	48	77			
		CH'				100	40	85			
		GL'				100	11	22			
		CL'		100	17	28					
		CL'		100	16	37					
		CL'		100	23	73					
		CM'		100	24	78					
		CM'		100	15	39					
		CM'		100	23	56					
		CM'		100	24	51					
		CM'		100	20	48					
		CL'		100	7	0					
		CL'		100	5	0					
		CL'	100	8	0						
		CL'	100	6	0						
		CL'	100	8	0						
		CL'	100	10	10						
		CM'	100	20	65						
		CM'	100	32	61						
		CM'	100	18	56						
		CM'	100	18	18						
		CM'	100	15	29						
		CM'	100	14	52						
		CM'	100	20	52						
		CL'	100	15	25						
		CL'	100	9	0						
		CL'	100	23	39						
		CL'	100	30	48						
		CL'	100	30	53						
		CL'	100	32	32						
		CL'	100	25	37						
		CL'	100	22	64						
		CL'	100	28	54						
		CL'	100	24	45						
											<p>207.32~208.33m ・高角度の割れ目が多く、岩片状~短柱状を呈する。</p> <p>215.41~218.70m ・割れ目に沿って、一部褐色・灰白色シルトを挟む。</p> <p>222.85~222.88m ・破砕部である。 ・褐色の粘土状~黄褐色の砂質シルト状を呈する。 ・褐色粘土~黄褐色砂質シルト：累計厚23mm ・走向・傾斜はN14° E85° Wである。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は55°である。</p> <p>222.88~224.67m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。 ・割れ目に沿って、シルト~粘土を挟む。</p> <p>224.67~225.08m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・緑灰色の粘土状~灰白色の塊混じりシルト質砂状を呈する。 ・緑灰色粘土：累計厚10mm ・ポアホールテレビでは走向・傾斜は測定できない。 ・上盤境界の傾斜は38°、下盤境界の傾斜は36°である。</p> <p>225.08~228.53m ・割れ目に沿って、砂~シルトを挟む。</p> <p>228.53~228.79m ・破砕部である。 ・灰白~灰褐色の砂質シルト状~粘土混じり塊状を呈する。 ・灰白色砂質シルト：累計厚15mm ・ポアホールテレビでは走向・傾斜は測定できない。 ・上盤境界の傾斜は38°、下盤境界の傾斜は35°である。</p> <p>232.20~233.00m ・高角度の割れ目に沿って、砂~シルトを挟む。</p> <p>238.31~238.50m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。</p> <p>244.94~245.09m ・変質している。 ・灰褐色の岩片混じり砂質シルト状を呈する。灰白~黒褐色粘土を挟む。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は51°である。</p>

2-33(分類b)①  
報告書の記載漏れを修正したため。

6-7-4-1073





標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩 級 区 分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記事	
				花崗斑岩	にぶい黄褐	GM'	100	23	63		<p>①</p> <p>207.32~208.33m 高角度の割れ目が多く、岩片状~短柱状を呈する。</p> <p>215.41~218.70m 割れ目に沿って、一部褐色・灰白色シルトを挟む。</p> <p>●222.85~222.88m 破砕部である。 褐色の粘土状~黄褐色の砂質シルト状を呈する。 褐色粘土~黄褐色砂質シルト：累計厚23mm 走向・傾斜はN14° E85° Wである。 上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は55°である。</p> <p>222.88~224.67m 割れ目が多く、岩片状を呈する。 割れ目に沿って、シルト~粘土を挟む。</p> <p>●224.67~225.08m (D-6破砕帯) 破砕部である。 緑灰色の粘土状~灰白色の塊混じりシルト質砂状を呈する。 緑灰色粘土：累計厚10mm ポアホールテレビでは走向・傾斜は測定できない。 上盤境界の傾斜は38°、下盤境界の傾斜は36°である。</p> <p>225.08~228.53m 割れ目に沿って、砂~シルトを挟む。</p> <p>●228.53~228.79m 破砕部である。 灰白~灰褐色の砂質シルト状~粘土混じり塊状を呈する。 灰白色砂質シルト：累計厚15mm ポアホールテレビでは走向・傾斜は測定できない。 上盤境界の傾斜は38°、下盤境界の傾斜は35°である。</p> <p>232.20~233.00m 高角度の割れ目に沿って、砂~シルトを挟む。</p> <p>238.31~238.50m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。</p> <p>244.94~245.09m ・変質している。 ・灰褐色の岩片混じり砂質シルト状を呈する。 ・灰白~黒褐色粘土を挟む。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は51°である。</p>	
						CH'①	100	43	95			
						CL'	100	18	18			
						CH'	100	27	59			
						CH'	100	23	55			
						青灰	CM'	100	20			77
						明黄褐	CM'	100	28			74
						にぶい黄褐	CH'	100	48			77
						灰褐	GL'	100	40			85
						にぶい褐	GL'	100	11			22
					にぶい黄	CM'	100	17	28			
					にぶい黄	CM'	100	16	37			
					灰赤	CM'	100	23	73			
					灰褐	CM'	100	24	78			
					灰褐	CM'	100	15	39			
					灰褐	CM'	100	23	56			
					にぶい黄褐	GL'	100	24	51			
					灰白	GL'	100	20	48			
					にぶい黄	GL'	100	7	0			
					にぶい橙	GL'	100	5	0			
				にぶい橙	GL'	100	8	0				
				にぶい黄	CM'	100	6	0				
				にぶい黄	CM'	100	8	0				
				にぶい黄	CM'	100	10	10				
				にぶい黄	CM'	100	10	10				
				にぶい黄	CM'	100	20	65				
				にぶい黄	CM'	100	20	65				
				にぶい黄	CM'	100	32	61				
				にぶい黄	CM'	100	18	56				
				にぶい黄	CM'	100	18	18				
				にぶい黄	CM'	100	15	29				
				にぶい黄	CM'	100	14	52				
				にぶい黄	CM'	100	20	52				
				にぶい黄	CL'	100	15	25				
				にぶい黄	CL'	100	9	0				
				にぶい黄	CL'	100	23	39				
				にぶい黄	CL'	100	30	48				
				にぶい黄	CL'	100	30	53				
				にぶい黄	CL'	100	32	32				
				にぶい黄	CL'	100	25	37				
				にぶい黄	CL'	100	22	64				
				にぶい黄	CL'	100	28	54				
				にぶい黄	CL'	100	24	45				

2-33(分類b)①  
報告書の記載漏れを修正したため。

6-7-4-1073

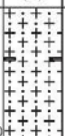



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記事
210			+	花崗斑岩	青灰 明黄褐色	GM'	100	23	63		207.32~208.33m ・高角度の割れ目が多く、岩片状~短柱状を呈する。
						CH'	100	43	95		
						CL'	100	18	18		
						CH'	100	27	59		
						CH'	100	23	55		
						CM'	100	20	77		
						CM'	100	28	74		
						CH'	100	48	77		
						CH'	100	40	85		
						GL'	100	11	22		
						GL'	100	17	28		
						220			+		
CH'	100	23	73								
CH'	100	24	78								
CM'	100	15	39								
CM'	100	23	56								
CM'	100	24	51								
CM'	100	20	48								
GL'	100	7	0								
GL'	100	5	0								
GL'	100	8	0								
GL'	100	6	0								
230			+	花崗斑岩	明黄褐色					GM'	100
						CH'	100	10	10		
						CH'	100	20	65		
						CH'	100	32	61		
						CM'	100	18	56		
						CM'	100	18	18		
						CM'	100	15	29		
						CM'	100	14	52		
						CM'	100	20	52		
						CL'	100	15	25		
						CL'	100	9	0		
						240			+	花崗斑岩	明黄褐色
GM'	100	30	48								
GM'	100	30	53								
GM'	100	32	32								
GM'	100	25	37								
GM'	100	22	64								
GM'	100	28	54								
GM'	100	24	45								

2-33(分類b)①  
報告書の記載漏れを修正したため。

6-7-4-1073



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分①	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記事
		-144.73 250.00		花崗斑岩	灰褐色 重粒	CM'	100	15	68		① ●247.57~247.64m ・破碎部である。 ・灰褐色のシルト混じり礫状を呈する。幅1~5mmの灰白色砂質シルトを網目状に挟む。 ・ボアホールテレビでは走向・傾斜は測定できない。 ・上盤境界の傾斜は41°、下盤境界の傾斜は47°である。
						CL'	100	13	35		
						CM'	100	17	32		
						灰褐色	100	30	77		

2-33(分類b)①  
報告書の記載漏れを修正したため。



H20-①-9

孔口標高	T.P. 29.37m	掘削長	75.00m
------	-------------	-----	--------

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事
										R	Q	D	
	29.17	0.35		黒褐色 腐植土			100						0.00~0.35m 腐植土である。
	28.65	1.00		灰黄褐色 腐植土			100						0.35~1.00m 腐植土である。
	25.24	5.74	①	硬泥じりシルト質砂	明黄褐色		100						1.00~5.74m 硬泥じりシルト質砂である。
	24.77	6.40		硬泥じり砂	浅黄褐色		100						5.74~6.40m 硬泥じり砂である。
10				花崗斑岩	明黄褐色	D'	100	0	0				6.40~13.75m 花崗斑岩である。
				花崗斑岩	にぶい黄褐色	CL'	100	9	0				6.40~8.75m 強風化しており、軟質である。 土砂状を呈する。
				花崗斑岩	にぶい黄褐色	CL'	100	13	37				
				花崗斑岩	にぶい黄褐色	D'	100	7	0				
				花崗斑岩	にぶい黄褐色	CL'	100	8	0				11.19~11.39m 変質し、軟質化している。 上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は68°である。
				花崗斑岩	にぶい黄褐色	CL'	100	9	0				
				花崗斑岩	浅黄褐色	CM'	100	8	0				13.70~14.91m 硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
				花崗斑岩	浅黄褐色	CM'	100	16	16				13.75~17.73m アプライトである。 上端境界に、幅10~15mm程度の石英脈を挟む。
				花崗斑岩	にぶい黄褐色	CL'	100	14	14				
				花崗斑岩	にぶい黄褐色	CL'	100	8	0				14.37~14.55m 花崗斑岩である。 上端境界に、幅5~8mm程度の石英脈を挟む。
20				花崗斑岩	にぶい黄褐色	CL'	100	4	0				14.55~17.73m アプライトである。
				花崗斑岩	浅黄褐色	CM'	100	12	23				17.73~34.60m 花崗斑岩である。 上端境界は漸移的である。
				花崗斑岩	にぶい黄褐色	CL'	100	8	0				18.71~18.77m 変質している。 灰黄色の粘土が網目状に分布する。 上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は64°である。
				花崗斑岩	浅黄褐色	CM'	100	6	0				
				花崗斑岩	浅黄褐色	CM'	100	9	0				20.44~20.71m 変質している。 灰黄色を呈し、軟質化している。 上端境界の傾斜は29°、下端境界の傾斜は64°である。
				花崗斑岩	浅黄褐色	CM'	100	16	16				
				花崗斑岩	にぶい黄褐色	CM'	100	10	10				20.90~24.65m 硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
				花崗斑岩	明黄褐色	CM'	100	9	0				25.39~25.60m 変質している。
				花崗斑岩	淡茶褐色	CH'	100	14	14				27.52~35.40m 灰黄色を呈し、軟質化している。 上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は70°である。
				花崗斑岩	淡茶褐色	CH'	100	16	42				
30				花崗斑岩	にぶい黄褐色	CH'	100	28	55				33.02~34.34m 割れ目が少なく、主として柱状を呈する。
				花崗斑岩	にぶい黄褐色	CH'	100	15	35				34.60~34.83m アプライトである。 上端境界は漸移的である。
				花崗斑岩	にぶい黄褐色	CH'	100	24	44				34.83~37.15m 花崗斑岩である。 上端境界は漸移的である。
				花崗斑岩	にぶい黄褐色	CH'	100	14	14				

- 2-36~2-38(分類c)①  
申請書作成の際に模様を見直したため。
- 2-39(分類b)②  
報告書の記載漏れを修正したため。
- 2-40, 2-41(分類c)③  
基盤上限の1m未満の区間を省いたため。

6-7-4-1085

第7.4.4.185図(1) D-5 破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図(H20-No.①-9孔)





H20-①-9

孔口標高	T.P. 29.37m	掘削長	75.00m
------	-------------	-----	--------

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事	
										最大 コア 長 (cm)	R	Q		D
	29.12	0.35		腐植土	黒褐色		100						0.00~0.35m ・腐植土である。	
	28.65	1.00		腐植質砂	灰黄褐色		100						0.35~1.00m ・腐植質砂である。	
				硬泥じりシルト質砂	明黄褐色		100						1.00~5.74m ・硬泥じりシルト質砂である。	
	25.24	5.74		硬泥じり砂	浅黄褐色		100						5.74~6.40m ・硬泥じり砂である。	
	24.77	6.40		硬泥じり砂	明黄褐色	D'	100	0	0				6.40~13.75m ・花崗斑岩である。	
10				花崗斑岩	明黄褐色	D'	100	12	12				6.40~8.75m ・強風化しており、軟質である。 ・土砂状を呈する。	
				花崗斑岩	にぶい黄褐色	CL'	100	9	0					
				花崗斑岩	にぶい黄褐色	CL'	100	13	37					
				花崗斑岩	にぶい黄褐色	D'	100	7	0					
				花崗斑岩	にぶい黄褐色	CL'	100	8	0				11.19~11.39m ・変質し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は68°である。	
		19.48	13.75		アプライト	浅黄褐色	CM'	100	8	0				13.70~14.91m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
		19.03	14.37		アプライト	浅黄褐色	CM'	100	16	16				13.75~17.73m ・アプライトである。 ・上端境界に、幅10~15mm程度の石英脈を挟む。
		16.62	17.73		アプライト	浅黄褐色	CM'	100	9	0				14.37~14.55m ・花崗斑岩である。 ・上端境界に、幅5~8mm程度の石英脈を挟む。
					花崗斑岩	にぶい黄褐色	CL'	100	8	0				
					花崗斑岩	にぶい黄褐色	CL'	100	4	0				
20				花崗斑岩	浅黄褐色	CM'	100	11	11				14.55~17.73m アプライトである。	
				花崗斑岩	浅黄褐色	CM'	100	12	23				17.73~34.60m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。	
				花崗斑岩	浅黄褐色	CL'	100	8	0					
				花崗斑岩	浅黄褐色	CL'	100	8	0					
				花崗斑岩	浅黄褐色	CM'	100	4	0				18.71~18.77m ・変質している。 ・灰黄色の粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は54°である。	
				花崗斑岩	浅黄褐色	CL'	100	6	0					
				花崗斑岩	浅黄褐色	CL'	① 100	9	0				① 20.44~20.71m ・変質している。 ・灰黄色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は29°、下端境界の傾斜は44°である。	
				花崗斑岩	浅黄褐色	CM'	100	16	16					
				花崗斑岩	浅黄褐色	CM'	100	10	10					
				花崗斑岩	浅黄褐色	CM'	100	9	0				20.90~24.65m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。	
30				花崗斑岩	明褐色	CH'	100	24	44				25.39~25.60m ・変質している。 ・灰黄色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は70°である。	
				花崗斑岩	淡茶褐色	CH'	100	14	14					
				花崗斑岩	淡茶褐色	CH'	100	16	42					
				花崗斑岩	淡茶褐色	CH'	100	16	42					
				花崗斑岩	淡茶褐色	CH'	100	28	55				27.52~35.40m ・硬質である。	
		4.48	34.60		アプライト	浅黄褐色	CM'	100	15	35				33.02~34.34m ・割れ目が少なく、主として柱状を呈する。
	4.22	34.60		アプライト	浅黄褐色	CM'	100	15	35				34.60~34.83m ・アプライトである。 ・上端境界は漸移的である。	
				花崗斑岩	浅黄褐色	CM'	100	15	35				34.83~37.15m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。	

2-39(分類b)①  
報告書の記載漏れを修正したため。

6-7-4-1085

第7.4.4.185図(1) D-5 破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図(H20-No.①-9孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 → ( % ) 最大コア長 → cm R Q D □ [ % ]	岩盤分類		孔内水位 (m) / 測定月日 ( N ) 値	( 標準貫入試験 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 )					原位置試験 孔内水平載荷 ( )	掘進速度 (cm / 時)	掘進月日	室内試験	給圧 (KN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l / 分)	排水量 (l / 分)																																																																																																																																																																																																																																																													
													岩級	盤区分		0	10	20	30	40										50																																																																																																																																																																																																																																																												
30	4.48 4.32	34.60 34.83	[+]	花崗斑岩	浅黄橙	Dg	IVg	cg	3	γ	26.69~38.12m: コアは硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。	0	26.69	CL'	5/13	25, 28	105	5/13	25, 28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																												
																															40	2.65 2.47	37.15 37.40	[+]	花崗斑岩	橙	Bg	IVg	bg	2	34.60~34.83m: 斑晶の含有量が2~3%程度のアブライトを挟む。花崗斑岩との境界は漸移的である。 34.83~38.82m: 花崗斑岩。径1~10mm程度の石英、長石の斑晶を10~15%程度含む。アブライトとの境界は漸移的である。	34.60	34.83	CM'	5/14	33, 36	69	5/14	33, 36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																														
																																																													50	1.45	38.82	[+]	花崗斑岩	橙	Dg	IIIg	cg	3	37.15~37.40m: 斑晶の含有量が5%程度のアブライトを挟む。 38.12~38.79m: コアはやや軟質で、ハンマーで高音を発する。全体に風化し、黄褐色化している。 38.79~42.88m: コアは硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 38.82~43.17m: アブライト主体。径1~10mm程度の石英、長石の斑晶を3~5%程度含む。花崗斑岩との境界は漸移的である。 39.28m: 幅5mm程度の石英脈を挟む。マンガンを伴う。 40.86~41.56m: 斑晶の含有量が5~7%程度の花崗斑岩を挟む。	37.15	38.12	CL'	5/15	40, 22	98	5/15	40, 22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																															
																																																																																												60	-0.02 -0.53	40.86 41.56	[+]	アブライト	Bg	IVg	cg	2	γ	42.68~46.35m: コアはやや硬質で、ハンマーでふい金属音を発することが多い。 43.17~58.93m: 花崗斑岩。径1~15mm程度の石英、長石の斑晶を10~20%程度含む。アブライトとの境界は漸移的である。 43.17~43.24m: 破砕帯 (Hb, Hc)。上盤68° 下盤67°。幅3cm程度。輝混じり灰黄色粘土。暗褐色粘土からなる。 45.52~45.54m: 破砕帯 (Hj)。上盤18° 下盤10°。幅2cm程度。原岩組織が認められるが、灰白色粘土を伴う。周辺の節理を切っている。 46.35~50.49m: コアは硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 48.65m: シーム。傾斜74°。幅0.6cm程度の輝混じり灰褐色粘土からなる。	40.86	42.68	CM'	5/16	50, 40	140	5/16	50, 40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																														
																																																																																																																													50	-1.68	43.17	[+]	アブライト	Bg	IVg	cg	2	δ	51.50~51.53m: 破砕帯 (Hc)。上盤20° 下盤20°。幅2.8cm程度。灰白色粘土からなる。周辺の節理を切っている。	43.17	46.35	CL'	5/17	57, 30	140	5/17	57, 30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																
																																																																																																																																																											50	-13.02 -13.25	58.93 59.25	[+]	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IIIg	cg	2	54.20~54.75m: 変質帯。上盤64° 下盤不明瞭。幅24cm程度。節理密集部からなる。	58.93	59.25	D'	5/17	57, 30	143	5/17	57, 30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																		
																																																																																																																																																																																									60	-13.93	60.20	[+]	アブライト	Bg	IVg	cg	2	56.43~56.68m: 変質帯。上盤20° 下盤24°。幅23cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。	60.20	60.20	CL'	5/17	57, 30	140	5/17	57, 30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																				
																																																																																																																																																																																																																							60	-13.93	60.20	[+]	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IIIg	cg	2	58.93~59.25m: ベグマタイト脈を挟む。径10~30mm程度の石英、長石からなる。 59.25~60.20m: アブライト。径3mm程度の石英、長石の斑晶を3%程度含む。花崗斑岩との境界は漸移的である。 60.14~60.15m: 変質帯。上盤20° 下盤20°。幅0.9cm程度。灰白色シルトからなる。 60.20~75.00m: 花崗斑岩。径1~12mm程度の石英、長石、径3mm以下の黒雲母の斑晶を10~20%程度含む。アブライトとの境界は漸移的である。	60.20	60.20	CL'	5/17	57, 30	140	5/17	57, 30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																			
																																																																																																																																																																																																																																																								60	-13.93	60.20	[+]	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IIIg	cg	2	60.20~75.00m: 花崗斑岩。径1~12mm程度の石英、長石、径3mm以下の黒雲母の斑晶を10~20%程度含む。アブライトとの境界は漸移的である。	60.20	60.20	CL'	5/17	57, 30	140	5/17	57, 30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
																																																																																																																																																																																																																																																																																							60	-13.93	60.20	[+]
60	-13.93	60.20	[+]	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IIIg	cg	2	60.20~75.00m: 花崗斑岩。径1~12mm程度の石英、長石、径3mm以下の黒雲母の斑晶を10~20%程度含む。アブライトとの境界は漸移的である。	60.20	60.20	CL'	5/17	57, 30	140	5/17	57, 30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																												
																															60	-13.93	60.20	[+]	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IIIg	cg	2	60.20~75.00m: 花崗斑岩。径1~12mm程度の石英、長石、径3mm以下の黒雲母の斑晶を10~20%程度含む。アブライトとの境界は漸移的である。	60.20	60.20	CL'	5/17	57, 30	140	5/17	57, 30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																														
																																																													60	-13.93	60.20	[+]	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IIIg	cg	2	60.20~75.00m: 花崗斑岩。径1~12mm程度の石英、長石、径3mm以下の黒雲母の斑晶を10~20%程度含む。アブライトとの境界は漸移的である。	60.20	60.20	CL'	5/17	57, 30	140	5/17	57, 30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																															
																																																																																												60	-13.93	60.20	[+]	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IIIg	cg	2	60.20~75.00m: 花崗斑岩。径1~12mm程度の石英、長石、径3mm以下の黒雲母の斑晶を10~20%程度含む。アブライトとの境界は漸移的である。	60.20	60.20	CL'	5/17	57, 30	140	5/17	57, 30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																
																																																																																																																											60	-13.93	60.20	[+]	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IIIg	cg	2	60.20~75.00m: 花崗斑岩。径1~12mm程度の石英、長石、径3mm以下の黒雲母の斑晶を10~20%程度含む。アブライトとの境界は漸移的である。	60.20	60.20	CL'	5/17	57, 30	140	5/17	57, 30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																
																																																																																																																																																											60	-13.93	60.20	[+]	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IIIg	cg	2	60.20~75.00m: 花崗斑岩。径1~12mm程度の石英、長石、径3mm以下の黒雲母の斑晶を10~20%程度含む。アブライトとの境界は漸移的である。	60.20	60.20	CL'	5/17	57, 30	140	5/17	57, 30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																		
																																																																																																																																																																																									60	-13.93	60.20	[+]	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IIIg	cg	2	60.20~75.00m: 花崗斑岩。径1~12mm程度の石英、長石、径3mm以下の黒雲母の斑晶を10~20%程度含む。アブライトとの境界は漸移的である。	60.20	60.20	CL'	5/17	57, 30	140	5/17	57, 30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																				

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%) 最大コア 長 (cm)	記 事
				花崗斑岩	にぶい 橙	① CM'	100	19	32		<p>①</p> <p>37.15~37.40m アフライトである。 上端境界は漸移的である。</p> <p>37.40~38.82m 花崗斑岩である。 上端境界は漸移的である。</p> <p>38.82~40.86m アフライトである。 上端境界は漸移的である。</p> <p>39.02~42.60m 硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。</p> <p>40.86~41.56m 花崗斑岩である。 上端境界は漸移的である。</p> <p>41.56~43.17m アフライトである。 上端境界は漸移的である。</p> <p>43.17~58.93m 花崗斑岩である。 上端境界は漸移的である。</p> <p>●43.17~43.24m 破砕部である。 灰黄~暗褐色の礫混じり粘土状を呈する。 灰黄~暗褐色礫混じり粘土・累計厚30mm 走向・傾斜はN14° E76° Eである。 上盤境界の傾斜は68°、下盤境界の傾斜は67°である。</p> <p>●45.52~45.54m 破砕部である。 灰白色の粘土混じり礫状を呈する。 走向・傾斜はN42° W59° Wである。 上盤境界の傾斜は18°、下盤境界の傾斜は10°である。</p> <p>●61.50~61.53m 破砕部である。 灰白色の粘土状を呈する。 灰白色粘土・累計厚26mm 走向・傾斜はN36° W61° Wである。 上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は20°である。</p> <p>54.20~54.75m 変質している。 ・にぶい黄橙色の割れ目密集状を呈する。 ・上端境界の傾斜は64°、下端境界の傾斜は不明瞭である。</p> <p>56.43~56.60m 変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は24°である。</p> <p>58.93~59.25m ・ベグマタイトである。</p> <p>59.25~60.20 ・アフライトである。</p> <p>60.20~75.00m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。</p> <p>62.01~62.25m 変質している。 ・灰白色の粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は55°、下端境界の傾斜は30°である。</p> <p>65.69~66.11m 変質している。 ・灰白色の粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は67°、下端境界の傾斜は80°である。</p> <p>66.55~66.68m 変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は33°、下端境界の傾斜は30°である。</p> <p>67.68~67.76m 変質している。 ・微細な割れ目が分布する。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は75°である。</p>
		2.65		アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	11	11		
		37.15		花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	13	33		
		38.82		アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	28	65		
		40.86		花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	10	10		
		41.56		アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	8	0		
		43.17		花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	11	11		
				アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	8	0		
				花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	8	0		
				アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	7	0		
				花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	8	0		
				アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	12	23		
				花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	34	49		
				アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	41	41		
				花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	41	41		
				アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	19	34		
				花崗斑岩	にぶい 橙	CH'	100	33	58		
				アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	13	55		
				花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	12	32		
				アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	19	19		
				花崗斑岩	にぶい 橙	CH'	100	19	66		
				アフライト	にぶい 黄橙	D'	100	7	0		
				花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	7	0		
				アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	8	0		
				花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	6	0		
				アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	8	0		
				花崗斑岩	にぶい 橙	CH'	100	9	0		
				アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	25	44		
				花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	24	72		
				アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	6	0		
				花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	7	0		
				アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	4	0		
				花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	7	0		
				アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	6	0		
				花崗斑岩	にぶい 橙	CH'	100	8	0		
				アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	8	0		
				花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	8	0		
				アフライト	にぶい 黄橙	CL'	100	4	0		

2-39(分類b)①  
報告書の記載漏れを修正したため。







標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記事
		-24.58 75.00		花崗斑岩	明褐色 明褐色 明褐色 灰白 明褐色	CL' D'	① 100 100 100 100	6 3 7 7 9	0 0 0 0 0	0 20 40 60 80 100 R Q D [%]	① 1.43~71.58m ・変質している。 ・明黄褐色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は8°、下端境界の傾斜は7°である。 2.58~72.80m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は56°、下端境界の傾斜は38°である。 73.39~73.62m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は17°である。 ●73.91~74.75m(D-5破砕帯) ・破砕部である。 ・暗灰色の粘土状~灰白色の粘土混じり塊状を呈する。 ・暗灰色粘土：累計厚29mm ・走向・傾斜はN9°W84°Wである。 ・上盤境界の傾斜は3°、下盤境界の傾斜は70°である。

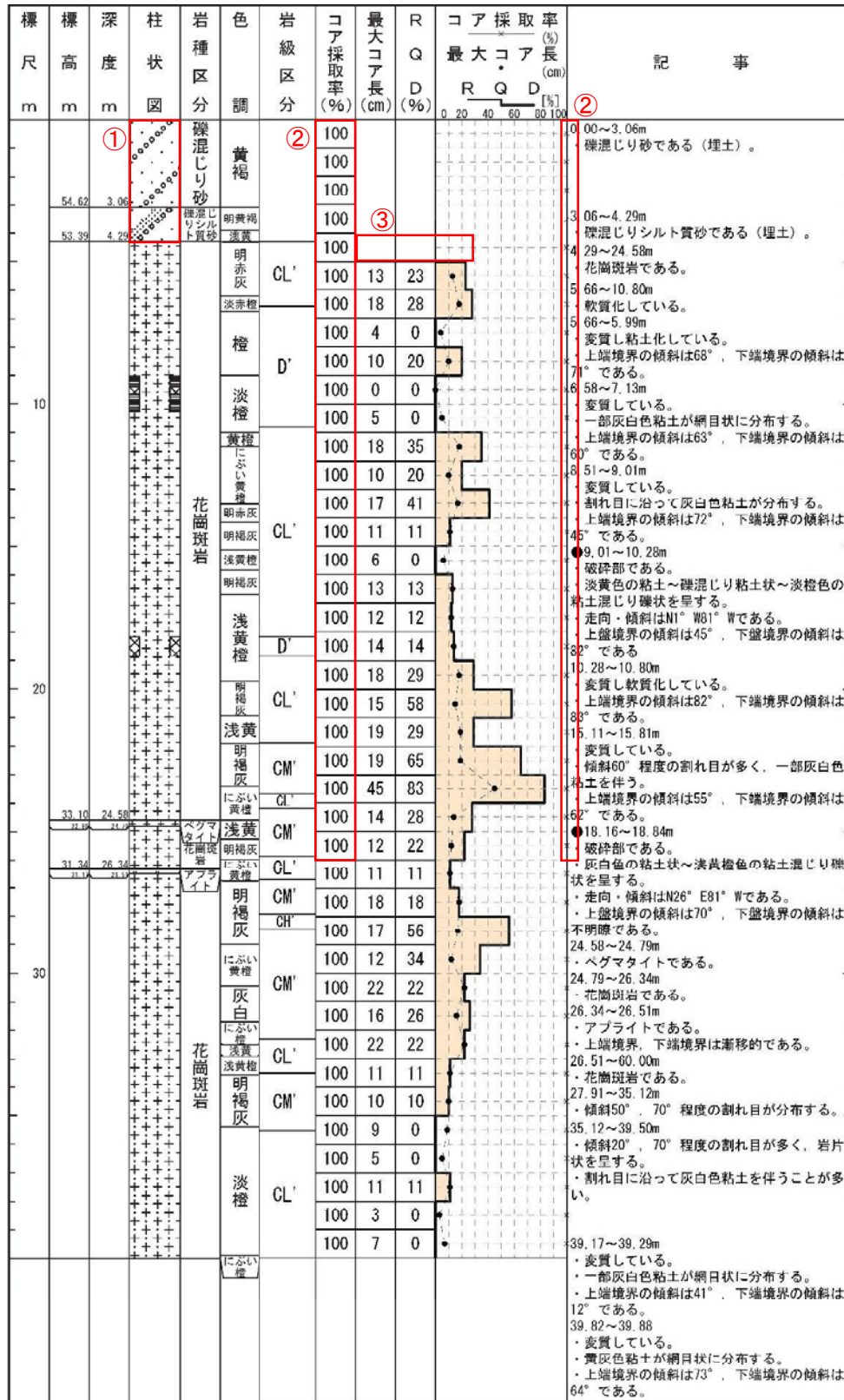
2-39(分類b)①  
報告書の記載漏れを修正したため。





H20-①-10

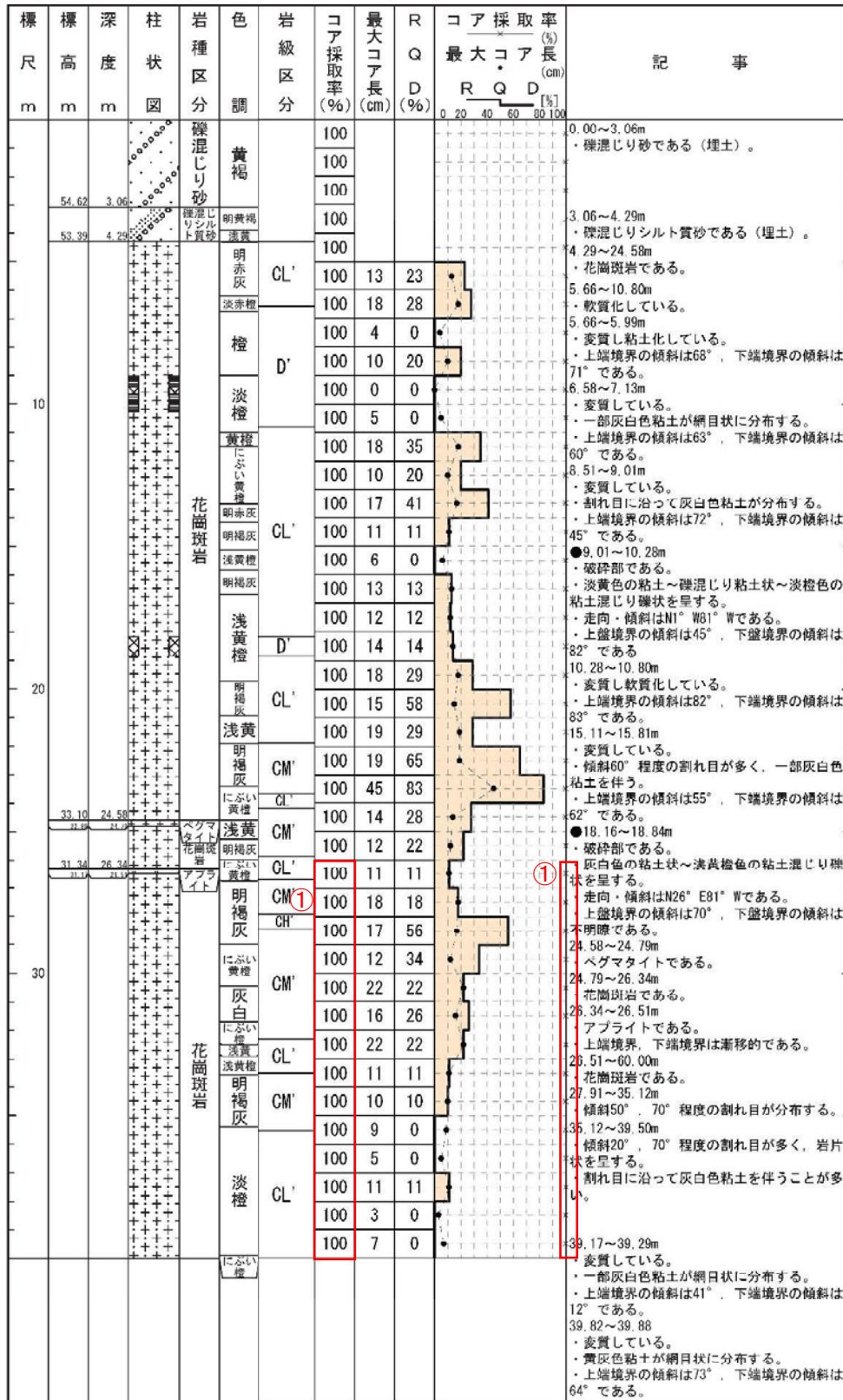
孔口標高	T.P. 57.68m	掘削長	60.00m
------	-------------	-----	--------





H20-①-10

孔口標高	T.P. 57.68m	掘削長	60.00m
------	-------------	-----	--------



6-7-4-1102

第7.4.4.189図(1) D-5 破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋南方) コア柱状図(H20-No. ①-10孔) 2-44(分類)① 報告書の記載漏れを修正したため。



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 最大コア長 (%)	記事
		50		花崗斑岩	にぶい 橙 にぶい 橙	CL' ①	100	10	10		<p>①</p> <p>40.65~41.00m ・変質している。 ・黄灰色粘土が網目状に分布する。</p> <p>42.09~46.20m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。</p> <p>48.10~48.26m ・破砕部である。 ・暗灰色の礫混じりシルト状を呈する。 ・走向・傾斜はN6° E77° Wである。 ・上端境界の傾斜は70°、下端境界の傾斜は70°である。</p> <p>50.90~52.95m (D-5破砕帯) ・破砕部である。 ・黄灰~灰白色の粘土~礫混じり粘土状~浅黄色の粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はNS71° Wである。 ・上端境界の傾斜は68°、下端境界の傾斜は70°である。</p> <p>53.48~53.55m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は36°、下端境界の傾斜は56°である。</p> <p>53.95~54.20m ・変質している。 ・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 ・上端境界の傾斜は58°、下端境界の傾斜は70°である。</p> <p>55.48~55.55m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は64°、下端境界の傾斜は45°である。</p> <p>55.99~56.05m ・破砕部である。 ・黄白色の粘土状を呈する。 ・黄白色粘土：累計厚13mm ・走向・傾斜はN34° E83° Wである。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は77°である。</p> <p>56.05~56.77m ・変質している。 ・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は53°である。</p> <p>57.95~58.85m ・変質している。 ・割れ目が密集しており、割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 ・上端境界の傾斜は58°、下端境界の傾斜は76°である。</p> <p>59.35~59.56m ・変質している。 ・一部灰白色粘土を伴う。 ・上端境界の傾斜は85°、下端境界の傾斜は不明瞭である。</p>
					灰白	CM'	100	17	31		
					明褐灰	CH'	100	19	37		
							100	29	76		
							100	21	52		
						CM'	100	20	20		
					にぶい 黄橙	CL'	100	4	0		
							100	9	0		
							100	8	0		
							100	10	10		
					浅黄	D'	100	4	0		
							100	2	0		
						CL'	100	8	0		
					浅黄橙	D'	100	5	0		
				にぶい 黄橙	CL'	100	12	12			
				明褐灰	CL'	100	7	0			
						100	10	10			
				明黄褐	CL'	100	4	0			
						100	21	21			

2-44(分類b)①  
報告書の記載漏れを修正したため。

H24-D1-4

孔口標高	T.P.	6.95m	掘削長	70.00m
------	------	-------	-----	--------

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%) 最大コア 長 (cm)	R Q D [%]	記事				
													0	20	40	60
		4.87	[X-pattern]	埋土	黒緑 にぶい褐色		100					0.00~2.94m ・埋土である。				
		2.94						100								
		2.94						100								
		1.56		改良土	明褐色 にぶい黄褐色		100						2.94~7.62m ・改良土である。			
		7.62						100								
		7.62						100								
10			[+-pattern]	花崗斑岩	にぶい橙 明褐色	明褐色灰	CL'	100	7	0			7.62~17.89m ・花崗斑岩である。			
							CL'	100	3	0						
							CL'	100	3	0						
							CL'	100	4	0						10.76~10.88m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
							CL'	100	7	0						●10.91~10.93m(D-1破碎帯) ・破碎部である。 ・正断層センスである。 ・浅黄褐色~灰白~浅黄色の礫混り粘土状を呈する。
							CL'	100	6	0						・浅黄褐色~灰白~浅黄色粘土：累計厚18mm ・走向・傾斜はN13° W78° Wである。
							CL'	100	7	0						11.22~17.89m ・割れ目が少なく、短柱状を呈する。
							CL'	100	8	0						
							CL'	100	6	0						
							CL'	100	7	0						
20			[+-pattern]	花崗岩	にぶい橙	明褐色灰	D'	100	6	0			17.89~18.44m ・黒雲母花崗岩である。			
							D'	100	7	0						18.44~70.00m ・花崗斑岩である。
							D'	100	7	0						
							CL'	100	18	36						
							CL'	100	10	10						
							CL'	100	8	0						
							CL'	100	9	0						23.40~23.77m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
							CL'	100	9	0						
							CL'	100	5	0						
							D'	100	3	0						●27.75~28.43m ・破碎部である。 ・右ずれ正断層センスである。
30			[+-pattern]	花崗斑岩	明褐色灰	明褐色灰	CL'	100	5	0			・明褐色灰~灰白~明赤灰色の礫混り粘土状~粘土混り礫状を呈する。			
							CL'	100	9	0						・灰黄褐色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN6° E83° Wである。
							CL'	100	12	12						
							CL'	100	7	0						
							CM'	100	9	0						
							CH'	100	13	34						
							CL'	100	9	0						34.57~34.63m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
							CM'	100	9	0						
							CL'	100	6	0						
							CL'	100	6	0						
			にぶい橙	明褐色灰	明褐色灰	明褐色灰	CM'	100	9	0						
							CL'	100	4	0						
			にぶい橙	明褐色灰	明褐色灰	明褐色灰	CL'	100	7	0			42.37~42.61m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。			
							CL'	100	7	0						

6--7-4-1018

第7.4.4.170図(1) D-1 破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

# H24-D1-4

## 柱状図(0.00m~30.00m)

H24-D1-4

孔 口 標 高	T. P.	6.95m	掘 削 長	70.00m
---------	-------	-------	-------	--------

標 尺 m	標 高 m	深 度 m	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	コ ア 採 取 率 (%)			記 事		
										最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D [%]	D [%]			
		4.87		埋 土	黒褐 にぶい褐		100					0.00~2.94m ・埋土である。			
		2.94					100							2.94~7.62m ・改良土である。	
		7.62					100								
		1.56			改良土	明黄褐 にぶい黄橙		100					7.62~17.89m ・花崗斑岩である。		
		7.62						100							
		7.62						100							
		7.62	100												
		7.62	100												
		7.62	100												
10					花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	7	0	●	10.76~10.88m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。			
								100	3	0	●	●10.91~10.93m(D-1破碎帯) ・破碎部である。 ・正断層センスである。 ・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.8cmである。 ・走向・傾斜はN13° W78° Wである。			
								100	3	0	●	11.22~17.89m ・割れ目が少なく、短柱状を呈する。			
								100	4	0	●				
				100				7	0	●					
				100				6	0	●					
				100				7	0	●					
				100				8	0	●					
				100				6	0	●					
				100				7	0	●					
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	6	0	●	17.89~18.44m ・黒雲母花崗岩である。				
							100	7	0	●	18.44~70.00m ・花崗斑岩である。				
							100	7	0	●					
							100	7	0	●					
							100	18	36	●					
							100	10	10	●					
							100	8	0	●	23.40~23.77m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。				
							100	9	0	●					
							100	9	0	●					
							100	5	0	●					
				灰褐	CL'	100	3	0	●	●27.75~28.43m(D-35破碎帯) ・破碎部である。 ・正断層センスである。 ・主に明褐灰色の固結礫状部からなる。 ・灰黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.4cm ・走向・傾斜はN6° E83° Wである。					
						100	5	0	●						
						100	9	0	●						
						100	9	0	●						

- 3-1(分類d)①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)
- 3-2(分類c)②  
敦賀サイトの岩種名と整合するように記載を適正化したもの。

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事
										最大 コア 長 (cm)	R	Q	
						CL'	100	10	10	0	20	80	
						CM'	100	7	0	0	0	100	
							100	7	0	0	0	100	
						CL'	100	12	12	0	0	100	
							100	6	0	0	0	100	
							100	5	0	0	0	100	
						CH'	100	12	33	0	0	100	
							100	18	34	0	0	100	
						CL'	100	9	0	0	0	100	
							100	8	0	0	0	100	
						CM'	100	9	0	0	0	100	
							100	14	35	0	0	100	
						D'	100	8	0	0	0	100	
							100	2	0	0	0	100	
						CL'	100	4	0	0	0	100	
							100	4	0	0	0	100	
						CM'	100	6	0	0	0	100	
							100	9	0	0	0	100	
						CL'	100	4	0	0	0	100	
							100	4	0	0	0	100	
						D'	100	3	0	0	0	100	
						CL'	100	9	0	0	0	100	
							100	5	0	0	0	100	
							100	4	0	0	0	100	
							100	2	0	0	0	100	
							100	3	0	0	0	100	
							100	5	0	0	0	100	

49.83~52.07m  
・緑灰色に変色する。

52.07~52.97m  
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

52.97~53.46m  
●52.97~53.46m  
・破砕部である。カタクレーサイトからなる。  
・灰白色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。

56.57~59.47m  
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

60.06~60.38m  
●60.06~60.38m  
・破砕部である。  
・右ずれセンスである。  
・灰褐色~灰白色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。

60.38~61.39m  
・暗緑灰色粘土：累計厚8mm  
・走向・傾斜はN18° E86° Wである。

61.39~61.47m  
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

61.47~61.52m  
●61.47~61.52m  
・破砕部である。  
・右ずれ正断層センスである。

61.52~63.67m  
・灰白色の粘土状~礫質粘土状を呈する。  
・暗緑灰色粘土：累計厚2mm  
・走向・傾斜はN27° W83° Wである。

63.67~63.90m  
●63.67~63.90m  
・破砕部である。カタクレーサイトからなる。

63.90~66.65m  
・灰白~赤灰色の粘土状~礫混じり粘土状を呈する。  
・赤灰色粘土：累計厚10mm  
・走向・傾斜はN19° W89° Wである。

66.65~67.05m  
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

6-7-4-1019

第7.4.4.170図(2) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)



# H24-D1-4

## 柱状図(30.00m～60.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事		
										最大 コア 長 (cm)	R Q D [%]	D			
40			+	花崗斑岩		灰褐	CL'	100	12	12	0	20	40	60	34.57~34.63m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
							CL'	100	7	0	0	0	0		
							CM'	100	9	0	0	0	0		
							CH'	100	13	34	0	0	0		
							CL'	100	9	0	0	0	0		
							CM'	100	9	0	0	0	0		
							CM'	100	6	0	0	0	0		
							CL'	100	6	0	0	0	0		
							CM'	100	4	0	0	0	0		
							CL'	100	7	0	0	0	0		
						にぶい橙	CM'	100	10	10	0	0	0	42.37~42.61m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	
							CM'	100	7	0	0	0	0		
							CM'	100	7	0	0	0	0		
							CL'	100	12	12	0	0	0		
							CL'	100	6	0	0	0	0		
							CL'	100	5	0	0	0	0		
							CH'	100	12	33	0	0	0		
							CH'	100	18	34	0	0	0		
							CL'	100	9	0	0	0	0		
							CL'	100	8	0	0	0	0		
灰褐 にぶい橙	CM'	100	9	0	0	0	0	●52.97~53.46m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・褐灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN41° E50° NWである。							
	CM'	100	14	35	0	0	0								
50			+	花崗斑岩		灰褐	D'	100	8	0	0	0	0	56.57~59.47m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	
							CL'	100	2	0	0	0	0		
							CL'	100	4	0	0	0	0		
							CL'	100	4	0	0	0	0		
							CL'	100	12	12	0	0	0		
						灰褐	CM'	100	6	0	0	0	0	●60.06~60.38m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・暗緑灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN18° E86° Wである。	
							CM'	100	9	0	0	0	0		
							CL'	100	7	0	0	0	0		
							CL'	100	7	0	0	0	0		
							CL'	100	7	0	0	0	0		

3-3(分類d)①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破砕部模様の変更)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事
										最大 コア 長 (cm)	R	Q	
						CL'	100	10	10	0	20	80	
						CM'	100	7	0	0	0	100	
							100	7	0	0	0	100	
						CL'	100	12	12	0	0	100	
							100	6	0	0	0	100	
							100	5	0	0	0	100	
						CH'	100	12	33	0	0	100	
							100	18	34	0	0	100	
						CL'	100	9	0	0	0	100	
							100	8	0	0	0	100	
						CM'	100	9	0	0	0	100	
							100	14	35	0	0	100	
						D'	100	8	0	0	0	100	
							100	2	0	0	0	100	
						CL'	100	4	0	0	0	100	
							100	4	0	0	0	100	
						CM'	100	6	0	0	0	100	
							100	9	0	0	0	100	
						CL'	100	4	0	0	0	100	
							100	4	0	0	0	100	
						D'	100	3	0	0	0	100	
						CL'	100	9	0	0	0	100	
							100	5	0	0	0	100	
						明褐 灰	100	4	0	0	0	100	
						灰褐	100	2	0	0	0	100	
						明褐 灰	100	3	0	0	0	100	
						明褐 灰	100	5	0	0	0	100	

49.83~52.07m  
・緑灰色に変色する。

52.07~52.97m  
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

56.57~59.47m  
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

60.06~60.38m  
・破砕部である。カタクレーサイトからなる。

60.38~61.39m  
・右ずれセンスである。

61.47~61.52m  
・破砕部である。

63.67~63.90m  
・破砕部である。カタクレーサイトからなる。

66.65~67.05m  
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

6-7-4-1019

第7.4.4.170図(2) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

# H24-D1-4

## 柱状図(60.00m～70.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記事
		①		花崗斑岩	灰褐	CL'	100	4	0		<p>60.38～61.39m</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目が多く、角礫状を呈する。</li> <li>●61.47～61.52m (f-d1-4-5破碎帯)</li> <li>・破碎部である。</li> <li>・右ずれ正断層センスである。</li> <li>・主に灰白色の固結礫状部からなる。</li> <li>・暗緑灰色の未固結粘土状部；累計幅0.1cm</li> <li>・走向・傾斜はN27° W83° Wである。</li> </ul> <p>●63.67～63.90m</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・破碎部である。</li> <li>・逆断層センスである。</li> <li>・灰白色の固結礫状部及び赤灰色の固結粘土状部からなる。</li> <li>・走向・傾斜はN19° W89° Wである。</li> </ul> <p>66.65～67.05m</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目が多く、角礫状を呈する。</li> </ul>
		①					100	4	0		
							100	3	0		
							100	3	0		
							100	9	0		
							100	5	0		
							100	4	0		
							100	2	0		
							100	3	0		
							100	5	0		
	-42.55	70.00									

- 3-4, 3-5 (分類d) ①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)
- 3-6, 3-7 (分類b) ②  
誤記の修正。



# H24-D1-5

## 柱状図(0.00m~30.00m)

H24-D1-5

孔 口 標 高	T. P.	7.03m	掘 削 長	54.00m
---------	-------	-------	-------	--------

標 尺 m	標 高 m	深 度 m	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	コ ア 採 取 率 (%)		記 事	
										最 大 コ ア 長 (cm)	最 大 コ ア 長 (cm)		
10	4.73	3.00	[埋土]	埋土	にぶい黄褐		100					0.00~3.00m ・埋土である。	
							100						
							100						
							100						
	7.41	1.35	7.41	[改良土]	改良土	黄褐 灰黄褐 にぶい黄褐 にぶい黄褐 にぶい黄褐 にぶい黄褐		100					3.00~7.41m ・改良土である。
								100					
								100					
								100					
								100					
								100					
20			[花崗斑岩]	花崗斑岩	にぶい橙 にぶい黄橙	D'	100	2	0			7.41~54.00m ・花崗斑岩である。 7.41~8.51m ・強風化部である。 ●8.51~8.71m(f-d1-5-1破碎帯) ・破碎部である。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・明赤灰色の未固結粘土状部：累計幅0.6cm ・走向・傾斜はN7° W80° Wである。	
							100	2	0				
							100	5	0				
							100	5	0				
							100	11	11				
							100	4	0				
							100	14	48				
							100	22	73				
							100	18	28				
							100	7	0				
							100	8	0				
							100	12	12				
							100	7	0				
										[灰褐]	灰褐		明褐灰 褐灰 明褐灰 明褐灰 明褐灰 明褐灰 明褐灰 明褐灰
100	4	0											
100	14	48											
100	22	73											
100	18	28											
100	7	0											
100	8	0											
100	12	12											
100	7	0											
			[にぶい橙]	にぶい橙	明褐灰 明褐灰 明褐灰 明褐灰 明褐灰 明褐灰	CM' CH' CM' CH' CM' CH'	100	21	21			18.17~19.11m ・風化部である。 19.11~20.10m ・硬質で短柱状を呈する。 19.56~19.67m ・ペグマタイト質である。	
							100	14	35				
							100	16	52				
							100	16	54				
							100	13	13				
							100	11	22				
			[にぶい橙]	にぶい橙	明褐灰 明褐灰	CH' CH'	100	42	62			27.20~28.48m ・硬質で長柱状を呈する。	
							100	29	58				
							100	12	22				

3-8(分類d)①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)

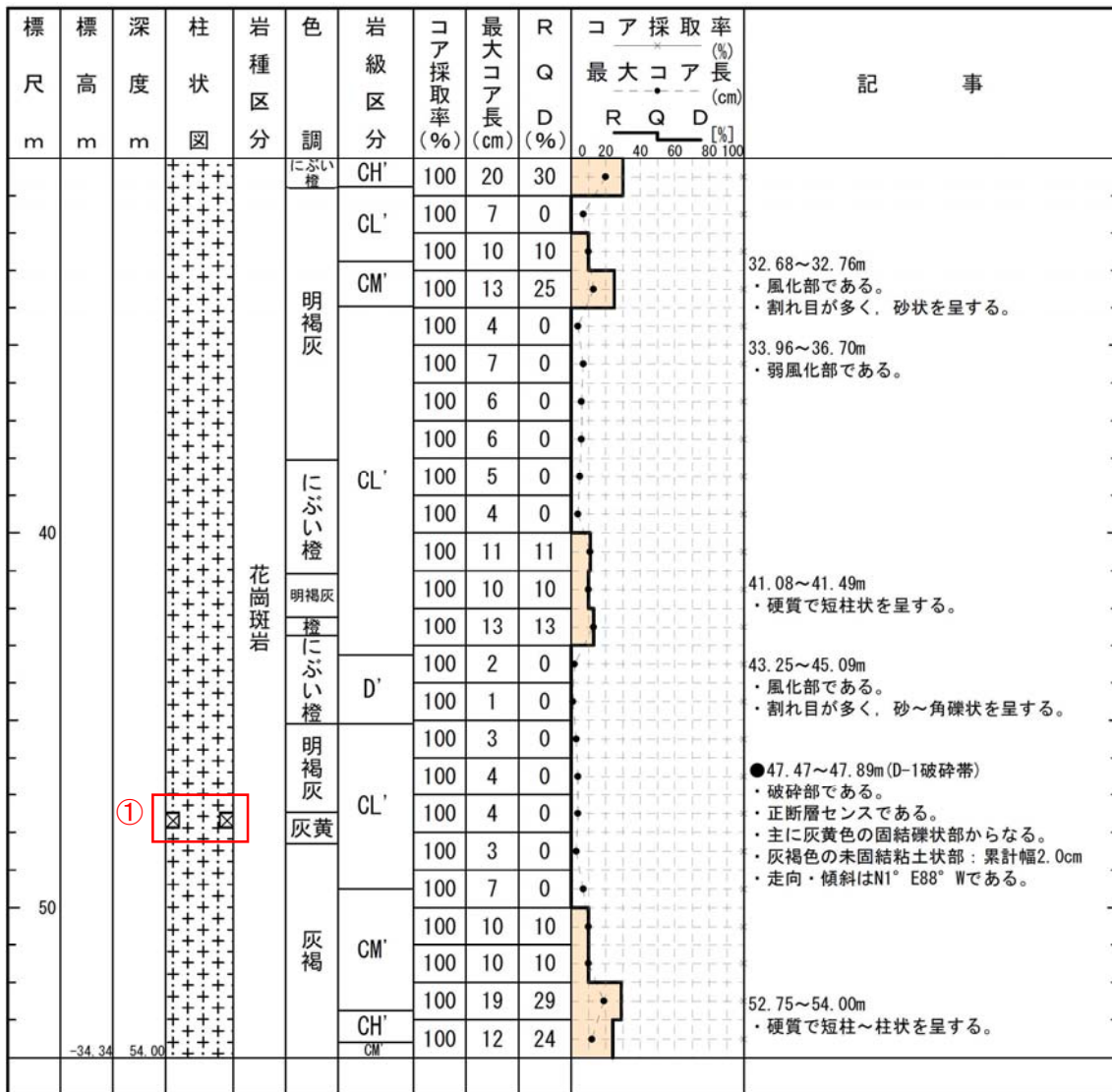
標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事			
										最大 コア長 (cm)	R	Q		D		
				花崗斑岩	にぶい 橙 明褐灰 橙	CL'	100	11	11		<p>41.08~41.49m ・硬質で短柱状を呈する。</p> <p>43.25~45.09m ・風化部である。 ・割れ目が多く、砂~角礫状を呈する。</p> <p>●47.47~47.89m(D-1破碎帯) ・破碎部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰黄~黄灰色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・灰褐~褐灰色粘土：累計厚6mm ・走向・傾斜はN1° E88° Wである。</p> <p>52.75~54.00m ・硬質で短柱~柱状を呈する。</p>					
						明褐灰 灰黄	CL'	100	2			0				
						明褐灰 灰黄	CL'	100	1			0				
						明褐灰 灰黄	CL'	100	3			0				
						明褐灰 灰黄	CL'	100	4			0				
					明褐灰 灰黄	CL'	100	4	0							
					明褐灰 灰黄	CL'	100	3	0							
					明褐灰 灰黄	CL'	100	7	0							
					明褐灰 灰黄	CL'	100	10	10							
					明褐灰 灰黄	CL'	100	10	10							
					明褐灰 灰黄	CL'	100	19	29							
					明褐灰 灰黄	CL'	100	7	0							
					明褐灰 灰黄	CL'	100	10	10							
					明褐灰 灰黄	CL'	100	10	10							
					明褐灰 灰黄	CL'	100	19	29							
					明褐灰 灰黄	CL'	100	12	24							

6-7-4-1021

第7.4.4.171図(2) D-1破碎帯 ポーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図(H24-D1-5孔)

# H24-D1-5

## 柱状図(30.00m～54.00m)



3-9(分類d)①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)

H27-B-3

孔口標高	T.P.	7.06m	掘削長	180.00m
------	------	-------	-----	---------

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事
										最大 コア 長 (cm)	R	Q	
	5.36	1.70		埋土	重埋 にふい 黄褐色 灰黄緑		100						0.00~10.05m ・盛土である。 ・よく締まる粗砂~砂礫からなる。 ・0.00~1.70mはボーリング掘削前に実施した試掘の埋戻土である。
				盛土	にふい 黄褐色		100						
					オリ ブ灰 区黄緑		100	4	0				10.05~119.14m ・花崗斑岩である。
				明褐色		CL'	100	7	0				
						D'	100	3	0				12.96~14.62m ・所々に灰白色の粘土を斑点~脈状に含む。
						CL'	100	6	0				
						D	100	10	10				15.33~15.43m ・軟質化著しい。
						CL'	100	7	0				
				にふい 色		CL'	100	8	0				18.05~18.47m ・珪質化している。
				明褐色		CL'	100	5	0				
						D	100	9	0				
				にふい 色		CM'	100	14	24				20.04~20.93m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。
						D	100	3	0				
				明褐色		CL'	100	5	0				22.50~22.64m ・軟質化著しい。 ・上端に褐色の粘土脈、下端に褐色の砂を伴う。
						D	100	6	0				
						CL'	100	10	10				一部に灰白色の粘土を脈状に含む。
						D	100	18	18				●26.70~26.90m ・破碎部である。 ・左ずれセンスである。 ・淡黄色の粘土状~灰白色の礫質粘土状を呈する。
				灰白		D'	100	5	0				・淡黄色粘土：1mm ・走向・傾斜はN18° E61° Wである ・傾斜は43°である。 ・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は54°である。
				明褐色		CL'	100	6	0				●28.12~28.14m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。
						D	100	17	40				・浅黄色の粘土状~にふい黄褐色の粘土混じり礫状~粘土質礫状を呈する。
						CL'	100	5	0				・浅黄色粘土：3mm ・N15° E64° W ・傾斜は43°である。
						D	100	9	0				・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は45°~55°である。
						CL'	100	26	36				●29.10~29.12m ・破碎部である。 ・左ずれセンスである。
				にふい 色		CH'	100	19	43				・灰白~灰黄褐色の粘土状~灰白色の礫質粘土状を呈する。
						D	100	16	16				・灰白~灰黄褐色粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN31° E51° Wである。 ・傾斜は49°である。
						CL'	100	10	10				・上盤境界の傾斜は49°、下盤境界の傾斜は45°~50°である。
						D	100	10	10				30.56~32.21m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
						CL'	100	10	10				34.20~35.94m ・硬質だが、密着度の低い割れ目が多い。
						D	100	10	10				35.94~37.30m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
						CL'	100	10	10				37.69~37.81m ・割れ目沿いに、砂状化している。 ・白色の粘土脈を伴う。

6-7-4-1022

第7.4.4.172図 (1) D-1 破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)



# H27-B-3

## 柱状図(0.00m~30.00m)

H27-B-3

孔 口 標 高	T.P.	7.06m	掘 削 長	180.00m
---------	------	-------	-------	---------

標 尺 m	標 高 m	深 度 m	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	コ ア 採 取 率 (%)			記 事	
										最 大 コ ア 長 (cm)	R	Q		D
		5.36		埋土	黒褐色に 含む 黄褐色 灰黄褐色		100						0.00~10.05m ・盛土である。 ・よく締まる粗砂~砂礫からなる。 ・0.00~1.70mはボーリング掘削前に実施した試掘の埋土である。	
		1.70		盛土	にぶい 黄褐色		100							
						100								
						100								
						100								
						100								
						100								
						100								
						100								
10		2.98		埋土	オリーブ 灰黄褐色		100	4	0				10.05~180.00m ・花崗斑岩である。	
		10.05		明褐 灰	明褐 灰	CL'	100	7	0				12.96~14.62m ・所々に灰白色の粘土を斑点~脈状に含む。	
			D'			100	3	0						
			CL'			100	6	0						
			D'			100	6	0						
				花崗 斑岩	にぶい 橙	CL'	100	10	10				15.33~15.43m ・軟質化が著しい。	
			CL'			100	7	0						
			CL'			100	8	0						
			CL'			100	5	0						
				明褐 灰	にぶい 橙	CM'	100	14	24				18.05~18.47m ・珪質化している。	
			CM'			100	3	0						
				明褐 灰	にぶい 橙	CL'	100	5	0				20.04~20.93m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。	
			CL'			100	3	0						
			CL'			100	5	0						
			CL'			100	6	0						
				明褐 灰	にぶい 橙	CL'	100	10	10				22.50~22.64m ・軟質化が著しい。 ・上端に褐色の粘土脈、下端に褐色の砂を伴う。 ・一部に灰白色の粘土を脈状に挟む。	
			CL'			100	18	18						
			CL'			100	8	0						
			CL'			100	5	0						
				明褐 灰	灰白	D'	100	5	0				●26.70~26.90m ・破碎部である。 ・左ずれセンスである。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・淡黄色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN18° E61° Wである。 ・上端境界の傾斜は43°、下端境界の傾斜は54°である。	
			CL'			100	6	0						
			CL'			100	4	0						
			CL'			100	4	0						
				明褐 灰	にぶい 黄褐色	CL'	100						●28.12~28.14m ・破碎部である。 ・左ずれセンスである。 ・主ににぶい黄褐色の固結砂状部からなる。 ・浅黄色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN15° E64° Wである。 ・上端境界の傾斜は43°、下端境界の傾斜は45°~55°である。	
			CL'			100								
			CL'			100								
			CL'			100								
				明褐 灰	にぶい 黄褐色	CL'	100						●29.10~29.12m ・破碎部である。 ・左ずれセンスである。 ・主に灰白色の固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN31° E51° Wである。 ・上端境界の傾斜は49°、下端境界の傾斜は45°~50°である。	
			CL'			100								
			CL'			100								
			CL'			100								

3-10~3-12(分類d)①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア 長 (cm)	R Q D [%]	記 事	
													0
50				花崗斑岩		明褐灰	CL'	100	11	11			40.79~41.83m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ●42.85~42.91m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・灰白色の砂・礫混じり粘土状~明褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白色粘土：累計厚25mm ・走向・傾斜はNS71° Wである。 ・傾斜は45°である。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は66°である。 46.14~48.61m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・上部は長石の多くが白濁化する。 ・一部で割れ目沿いに、砂状~細片化している。 53.10~55.82m ・割れ目が多く、一部割れ目沿いに砂状化し白色粘土を伴う。 ●56.69~56.72m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・淡黄色の粘土状~浅黄~黄灰色の砂・粘土混じり礫状を呈する。 ・淡黄色粘土：累計厚1mm ・走向・傾斜はN2° W36° Wである。 ・傾斜は31°である。 ・上盤境界の傾斜は30°、下盤境界の傾斜は31°である。 ●58.89~58.96m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・灰白色の礫混じり粘土状~にぶい黄褐色の礫質粘土状~褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白色礫混じり粘土：累計厚15mm ・走向・傾斜はN11° W54° Wである。 ・傾斜は25°である。 ・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は25°である。 ●59.69~59.75m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・黄褐色の粘土状~にぶい橙色の砂混じり礫状を呈する。 ・黄褐色粘土：1mm ・走向・傾斜はN37° E48° Wである。 ・傾斜は52°である。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は37°である。 60.00~62.23m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに、砂状化している。 62.82~62.93m ・砂礫状を呈し、白色粘土脈を伴う。 64.52~66.39m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに、薄く砂状化している。 68.06~68.93m ・砂礫状を呈する。 70.10~71.72m ・著しく軟質化している。 ・粘土~砂状化が進み、白色粘土脈を伴う。 72.65~73.38m ・著しく軟質化している。 ・一部、細砂礫状を呈する。 ●76.59~76.89m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・明黄褐色の粘土状~灰白~にぶい橙色の礫質粘土~粘土混じり礫状を呈する。 ・明黄褐色粘土：累計厚1mm ・走向・傾斜はN41° E30° Wである。 ・傾斜は47°である。 ・上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は37°である。 79.15~85.03m ・粘土化が進み、著しく軟質化している。 ・原岩組織と割れ目の一部は残っている。
							CM'	100	9	0			
							CL'	100	8	0			
							CL'	100	13	33			
							CM'	100	11	11			
							CL'	100	12	12			
							CM'	100	11	21			
							CL'	100	11	11			
							CM'	100	6	0			
							CL'	100	7	0			
							CL'	100	4	0			
							CL'	100	4	0			
60				花崗斑岩		明褐灰	CL'	100	6	0			
							CL'	100	6	0			
							CL'	100	5	0			
							CL'	100	3	0			
							CL'	100	2	0			
							D'	100	3	0			
							CL'	100	2	0			
							CL'	100	5	0			
							CL'	100	5	0			
							CL'	100	3	0			
							CL'	100	5	0			
							CL'	100	5	0			
70				花崗斑岩		明褐灰	CL'	100	7	0			
							CL'	100	4	0			
							CM'	100	7	0			
							CL'	100	9	0			
							CL'	100	6	0			
							D'	100	2	0			
							CL'	100	4	0			
							D'	100	2	0			
							D'	100	2	0			
							CL'	100	3	0			
							D'	100	5	0			
							CL'	100	5	0			
				花崗斑岩		明褐灰	CL'	100	7	0			
							CL'	100	5	0			
							D'	100	2	0			
							CL'	100	8	0			
							CL'	100	4	0			
							D'	100	4	0			

第7.4.4.172図 (2) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

柱状図(30.00m~60.00m)



3-13~3-16(分類d)①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記 事
m	m	m												
50				花崗斑岩		明褐灰	CL'	100	11	11				40.79~41.83m ・硬質であるが、割れ目が多い。
							CM'	100	9	0				
							CL'	100	8	0				
							CM'	100	13	33				●42.85~42.91m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・灰白色の砂・礫混じり粘土状~明褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白色粘土:累計厚25mm ・走向・傾斜はNS71° Wである。 ・傾斜は45°である。 ・上盤境界の傾斜は45°, 下盤境界の傾斜は66°である。
							CL'	100	12	12				
							CM'	100	11	21				
							CM'	100	11	11				
							CM'	100	6	0				46.14~48.61m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・上部は長石の多くが白濁化する。 ・一部で割れ目沿いに、砂状~細片化している。
							CL'	100	7	0				
							CL'	100	4	0				
							CL'	100	4	0				
							CL'	100	6	0				
							CL'	100	6	0				53.10~55.82m ・割れ目が多く、一部割れ目沿いに砂状化し白色粘土を伴う。
							CL'	100	5	0				
							CL'	100	3	0				
60				花崗斑岩		灰褐	D'	100	2	0				●56.69~56.72m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。
							D'	100	3	0				
							CL'	100	2	0				・淡黄色の粘土状~浅黄~黄灰色の砂・粘土混じり礫状を呈する。 ・淡黄色粘土:累計厚1mm ・走向・傾斜はN2° W36° Wである。 ・傾斜は31°である。 ・上盤境界の傾斜は30°, 下盤境界の傾斜は31°である。
							CL'	100	5	0				
							CL'	100	5	0				
							CM'	100	3	0				
							CM'	100	5	0				
							CL'	100	5	0				●58.89~58.96m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・灰白色の礫混じり粘土状~にぶい黄褐色の礫質粘土状~褐色の粘土混じり礫状を呈する。
							CL'	100	7	0				
							CL'	100	4	0				
							CM'	100	7	0				
							CL'	100	9	0				・灰白色礫混じり粘土:累計厚15mm ・走向・傾斜はN11° W54° Wである。 ・傾斜は25°である。 ・上盤境界の傾斜は20°, 下盤境界の傾斜は25°である。
							D'	100	2	0				●59.69~59.75m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・黄褐色の粘土状~にぶい橙色の砂混じり礫状を呈する。
							D'	100	2	0				・黄褐色粘土:1mm ・走向・傾斜はN37° E48° Wである。 ・傾斜は52°である。 ・上盤境界の傾斜は52°, 下盤境界の傾斜は37°である。
							CL'	100	5	0				60.00~62.23m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに、砂状化している。
70				花崗斑岩		明褐灰	D'	100	2	0				62.82~62.93m ・砂礫状を呈し、白色粘土脈を伴う。
							D'	100	2	0				
							CL'	100	6	0				64.52~66.39m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに、薄く砂状化している。
							D'	100	2	0				
							CL'	100	4	0				68.06~68.93m ・砂礫状を呈する。
							D'	100	5	0				70.10~71.72m ・著しく軟質化している。 ・粘土~砂状化が進み、白色粘土脈を伴う。
							CL'	100	8	0				72.65~73.38m ・著しく軟質化している。 ・一部、細砂礫状を呈する。
							D'	100	4	0				●76.59~76.89m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・明黄褐色の粘土状~灰白~にぶい橙色の礫質粘土~粘土混じり礫状を呈する。 ・明黄褐色粘土:累計厚1mm ・走向・傾斜はN41° E30° Wである。 ・傾斜は47°である。 ・上盤境界の傾斜は47°, 下盤境界の傾斜は37°である。
							CL'	100	4	0				79.15~85.03m ・粘土化が進み、著しく軟質化している。 ・原岩組織と割れ目の一部は残っている。
							D'	100	4	0				

6-7-4-1023

第7.4.4.172図 (2) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

H27-B-3

柱状図(60.00m~90.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事
										最大 コア 長 (cm)	R Q D [%]	D [%]	
70			+			灰褐	CM'	100	5	0	●	60.00~62.23m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに砂状を呈する。	
							CL'	100	7	0			
			+		にぶい 橙	灰褐	CM'	100	7	0	●	62.82~62.93m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに薄く砂状を呈する。	
							CL'	100	9	0			
			+		にぶい 橙	明褐 灰	D'	100	2	0	●	64.52~66.39m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに薄く砂状を呈する。	
							CL'	100	6	0			
			+		にぶい 橙	明褐 灰	D'	100	2	0	●	68.06~68.93m ・砂礫状を呈する。	
							CL'	100	4	0			
			+		にぶい 橙	明褐 灰	D'	100	2	0	●	70.10~71.72m ・著しく軟質化している。 ・粘土状~砂状を呈し、白色粘土脈を伴う。	
							CL'	100	2	0			
			+		にぶい 橙	明褐 灰	D'	100	3	0	●	72.65~73.38m ・著しく軟質化している。 ・一部、細砂礫状を呈する。	
							CL'	100	5	0			
			+		にぶい 橙	明褐 灰	D'	100	2	0	●	76.59~76.89m(H-3c破碎帯) ・破碎部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・明黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・上端境界の傾斜は47°、下端境界の傾斜は37°である。	
							CL'	100	8	0			
			+		にぶい 橙	明褐 灰	D'	100	4	0	●	79.15~85.03m ・粘土状を呈し、著しく軟質化している。 ・原岩組織と割れ目の一部は残っている。	
							CL'	100	4	0			
			+		にぶい 橙	明褐 灰	D'	100	5	0	●	84.54~84.71m ・砂状を呈し、軟質粘土を伴う。	
							CL'	100	4	0			
			+		にぶい 橙	明褐 灰	D'	100	4	0	●	85.61~93.25m ・著しく軟質化している。	
							CL'	100	3	0			
			+		にぶい 橙	明褐 灰	D'	100	3	0	●	87.18~91.35m ・砂礫状を呈する。	
							CL'	100	3	0			
			+		にぶい 橙	明褐 灰	D'	100	3	0	●		
							CL'	100	3	0			

①

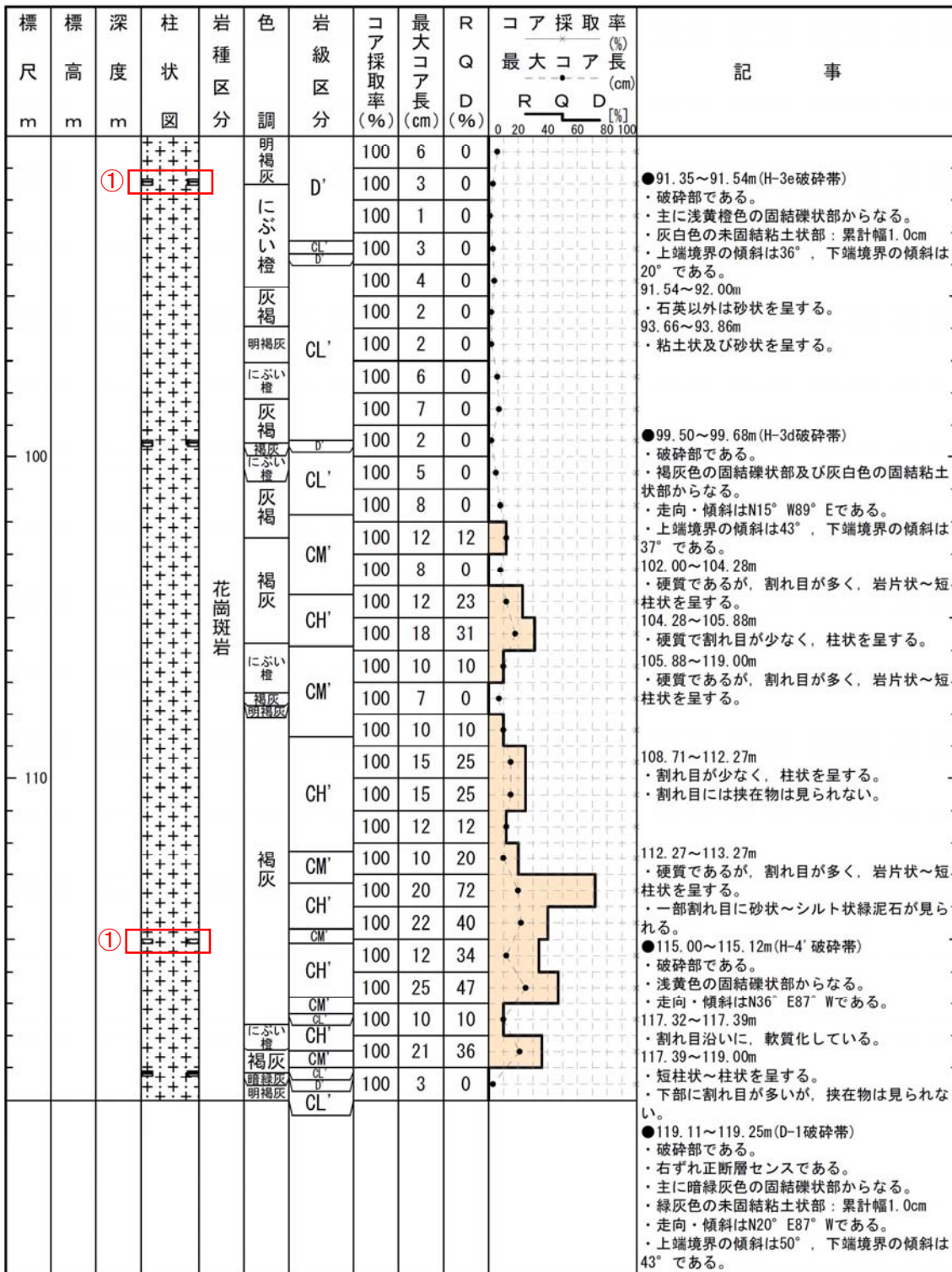
3-17(分類d)①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)

標 尺 m	標 高 m	深 度 m	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	コ ア 採 取 率 (%) 最 大 コ ア 長 (cm)	記 事
90			+	花崗斑岩	明褐灰	D'	100	5	0	0	84.54~84.71m ・砂状化が進み、軟質粘土を伴う。  85.61~93.25m ・若しく軟質化している。 87.18~91.35m ・砂礫状を呈する。  ●91.35~91.54m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰白色の粘土状~灰白~にぶい黄橙~浅黄 橙色の礫質粘土状~にぶい橙色の粘土混じり 礫状を呈している。 ・灰白色粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN64° W20° Sである。 ・傾斜は25°である。 ・上盤境界の傾斜は36°、下盤境界の傾斜は 20°である。 91.54~92.00m ・石英以外は砂状化している。 93.66~93.86m ・粘土化及び砂状化が著しい。 ●99.50~99.68m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰白色の砂混じり粘土状~明黄褐~褐灰色 の粘土・砂混じり礫状を呈する。 ・灰白色砂混じり粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN15° W89° Eである。 ・傾斜は38°である。 ・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は 37°である。 102.00~104.28m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱 状を呈する。 104.28~105.88m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。 105.88~119.00m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱 状を呈する。 108.71~112.27m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。 ・割れ目には、挟在物は見られない。 112.27~113.27m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱 状を呈する。 ・一部割れ目に、砂~シルト状緑泥石が見ら れる。 113.27~117.32m ・短柱~柱状を呈する。 ・一部割れ目沿いに、砂~片状化している。 117.32~117.39m ・割れ目沿いに、軟質化している。 117.39~119.00m ・短柱~柱状を呈する。 ・下部に割れ目が多いが、挟在物は見られ ない。 119.14~119.30m ・暗緑灰色の礫状を呈する。 ●119.11~119.25m(D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・緑灰色の粘土状~にぶい橙~暗緑灰色の粘 土混じり礫状を呈する。 ・緑灰色粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN20° E87° Wである。 ・傾斜は60°である50。 ・上盤境界の傾斜は°、下盤境界の傾斜は43° である。
					明褐灰	D'	100	4	0	0	
					明黄褐	D'	100	3	0	0	
					明褐灰	D'	100	3	0	0	
					明黄褐	D'	100	3	0	0	
					灰褐	D'	100	3	0	0	
					にぶい橙	CL'	100	3	0	0	
					褐灰	CL'	100	2	0	0	
					にぶい橙	CL'	100	2	0	0	
					にぶい黄橙	D'	100	3	0	0	
					明褐灰	D'	100	3	0	0	
					明褐灰	D'	100	6	0	0	
					明褐灰	D'	100	3	0	0	
					にぶい橙	CL'	100	1	0	0	
					にぶい橙	CL'	100	3	0	0	
					灰褐	CL'	100	4	0	0	
					明褐灰	CL'	100	2	0	0	
					にぶい橙	CL'	100	2	0	0	
					にぶい橙	CL'	100	6	0	0	
					灰褐	CL'	100	7	0	0	
灰褐	CL'	100	2	0	0						
にぶい橙	CL'	100	5	0	0						
灰褐	CL'	100	8	0	0						
明褐灰	CM'	100	12	12	0						
明褐灰	CH'	100	8	0	0						
明褐灰	CH'	100	12	23	0						
明褐灰	CH'	100	18	31	0						
明褐灰	CM'	100	10	10	0						
明褐灰	CM'	100	7	0	0						
明褐灰	CM'	100	10	10	0						
明褐灰	CH'	100	15	25	0						
明褐灰	CH'	100	15	25	0						
明褐灰	CH'	100	12	12	0						
明褐灰	CM'	100	10	20	0						
明褐灰	CH'	100	20	72	0						
明褐灰	CM'	100	22	40	0						
明褐灰	CH'	100	12	34	0						
明褐灰	CM'	100	25	47	0						
明褐灰	CH'	100	10	10	0						
明褐灰	CH'	100	10	10	0						
明褐灰	CM'	100	21	36	0						
明褐灰	CL'	100	3	0	0						

6-7-4-1024

第7.4.4.172図 (3) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

柱状図(90.00m~120.00m)

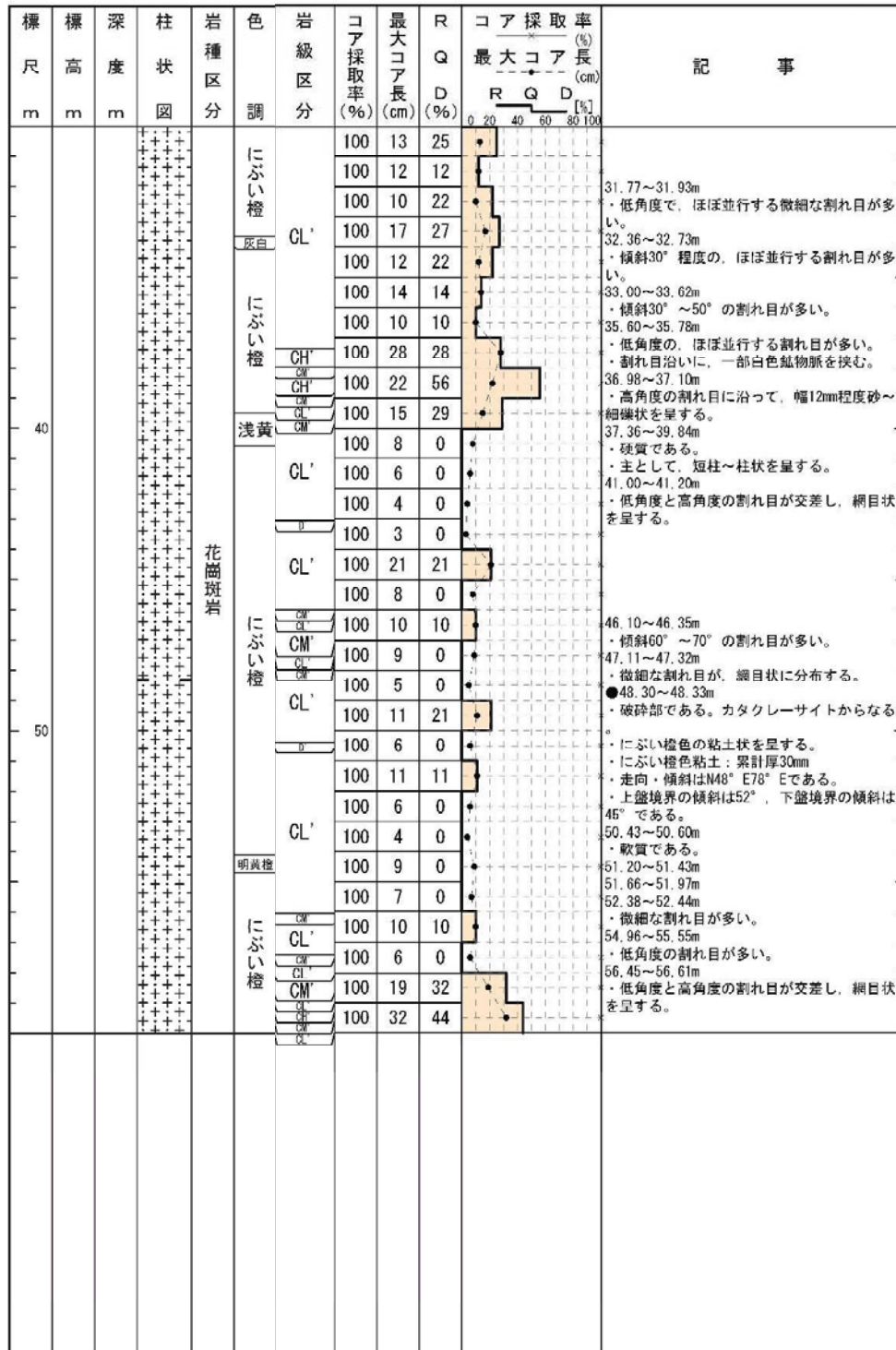


3-18, 3-19(分類d)①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)









6-7-4-1028

第7.4.4.173図 (2) D-1 破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

# H27-B-4

## 柱状図(30.00m~60.00m)



3-22(分類d)①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D [%]	記 事								
													0 20 40 60 80 100							
70			+	花崗斑岩		にぶい橙	CL'	100	4	0		60.07~60.45m 60.82~61.72m ・微細な割れ目が多い。								
							CL'	100	3	0										
							CL'	100	3	0										
							CL'	100	6	0										
							CL'	100	4	0										
							CL'	100	3	0										
							CL'	100	3	0										
							CL'	100	3	0										
							CL'	100	2	0										
							CL'	100	3	0										
							CL'	100	9	0										
							CL'	100	5	0										
							CL'	100	5	0										
							CL'	100	8	0										
							CL'	100	7	0										
							CL'	100	6	0										
							CL'	100	8	0										
							80			+			花崗斑岩		淡橙	CL'	100	13	13	67.28~67.75m ・変質している。 ・灰白色を呈し、粘土化している。 68.97~69.08m ・砂~細礫状を呈する。 74.19~74.34m ・傾斜30°~50°の割れ目が多い。 75.05~75.29m ・傾斜20°~40°の、ほぼ並行する低角度の割れ目が多い。 80.13~80.29m ・傾斜35°~55°の、同方向の割れ目が多い 83.32~84.05m ・硬質であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。 84.09~84.77m ・割れ目が多く、軟質化している。 86.14~88.26m ・硬質である。 ・主として、柱状~長柱状を呈する。 89.27~89.44m ・微細な割れ目が多い。
																CL'	100	14	14	
																CL'	100	13	24	
CL'	100	15	26																	
CL'	100	13	13																	
CL'	100	12	34																	
CL'	100	8	0																	
CL'	100	9	0																	
CL'	100	13	23																	
CL'	100	23	62																	
			+	花崗斑岩		浅黄橙	CL'	100	13	24										
							CL'	100	8	20										

6-7-4-1029

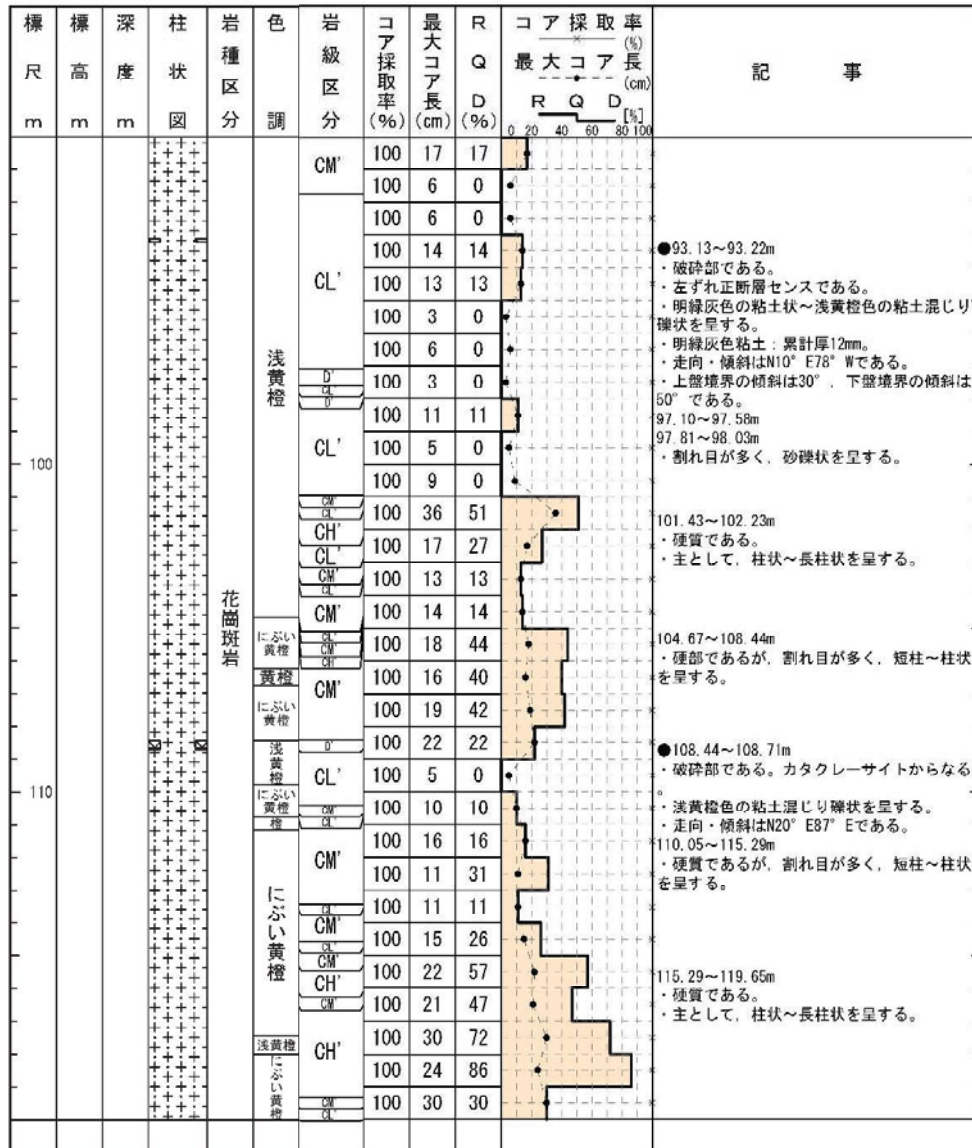
第7.4.4.173図 (3) D-1 破砕帯 ポーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

# H27-B-4

## 柱状図(60.00m~90.00m)



3-23, 3-24 (分類d) ①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)

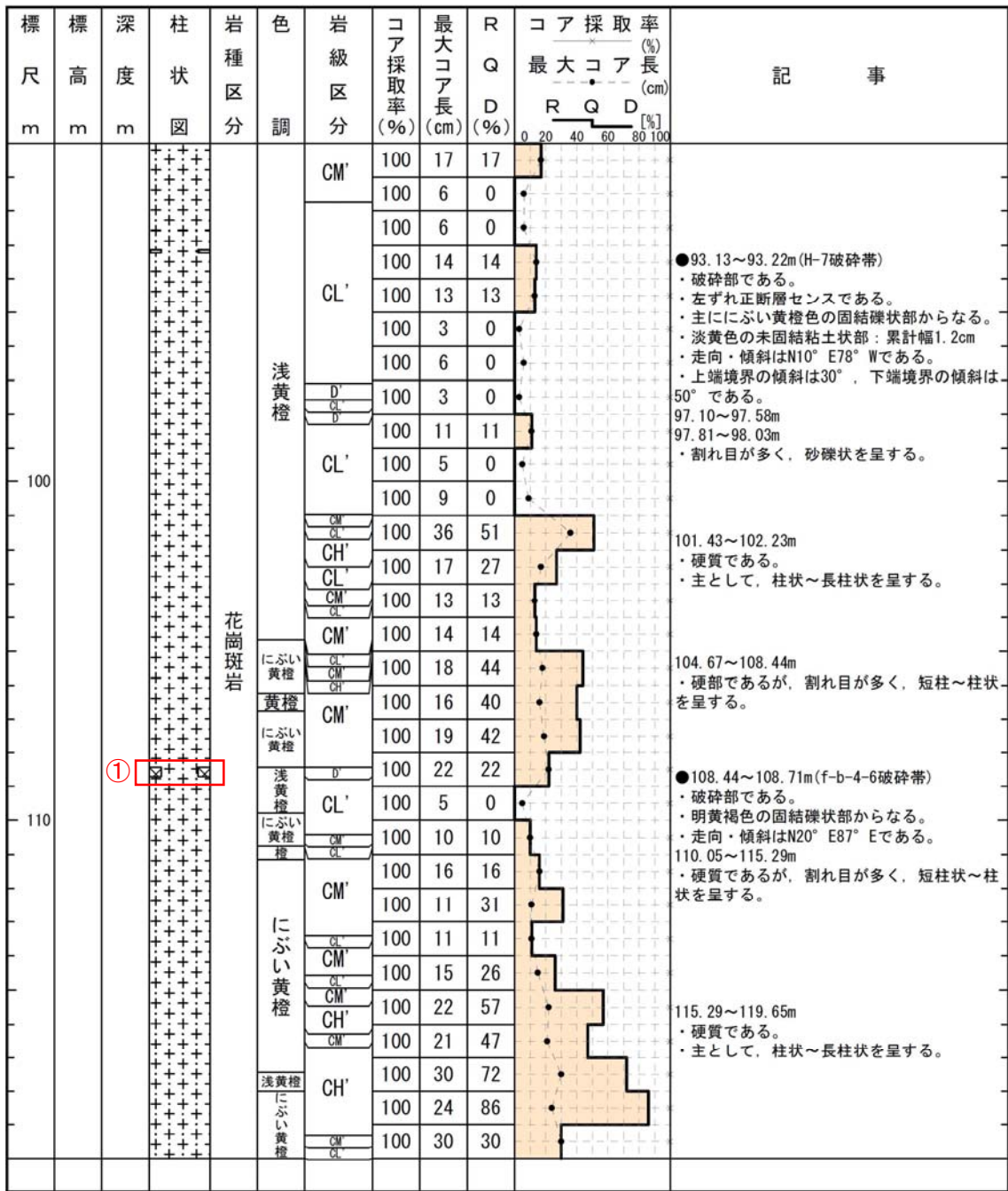


6-7-4-1030

第7.4.4.173図 (4) D-1 破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

# H27-B-4

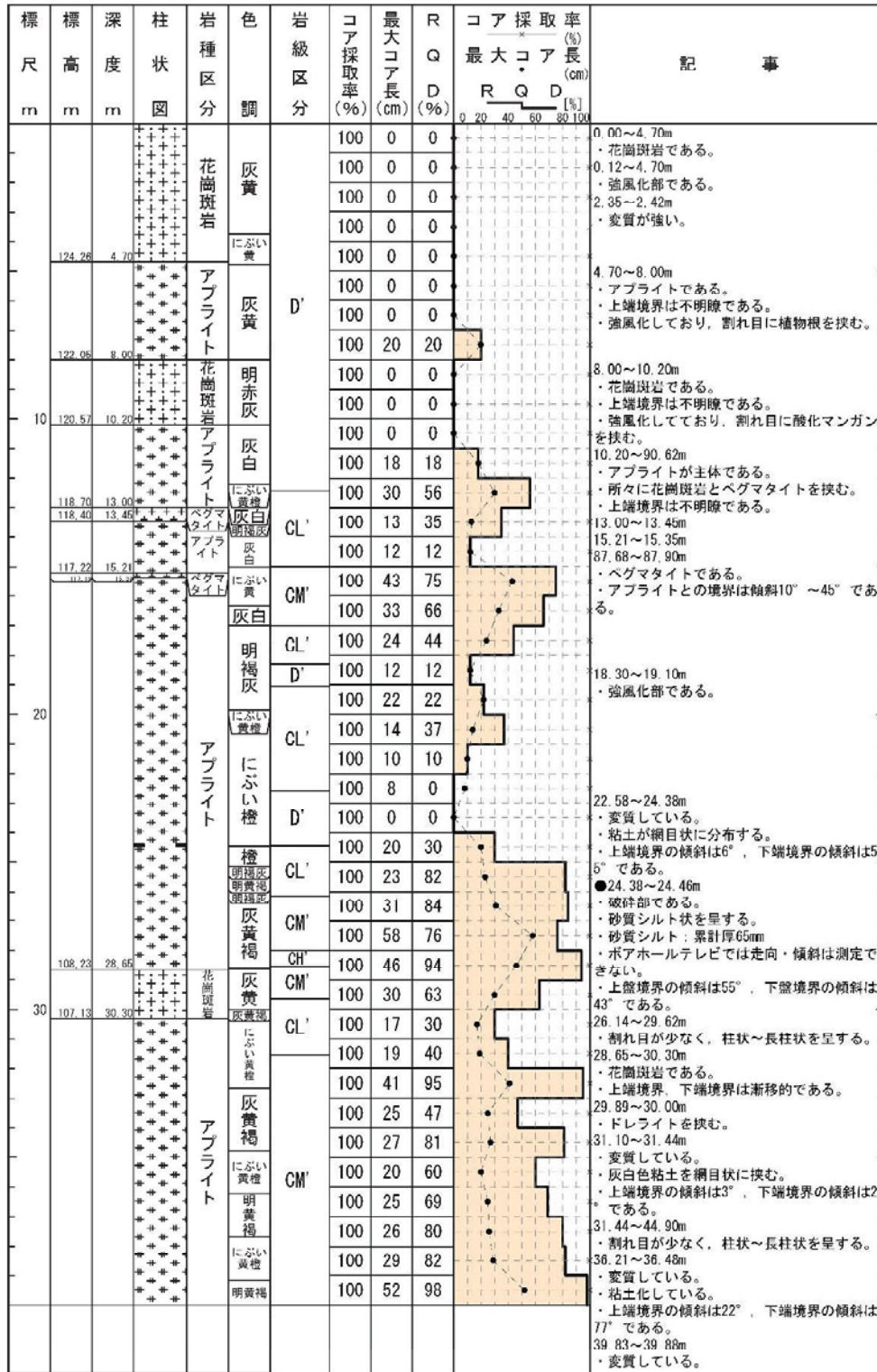
## 柱状図(90.00m～120.00m)



3-25(分類d)①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)

H19-No. 2

孔口標高	T.P. 127.40m	掘削長	220.00m
------	--------------	-----	---------



第7.4.4.174図 (1) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.2孔)

6-7-4-1032

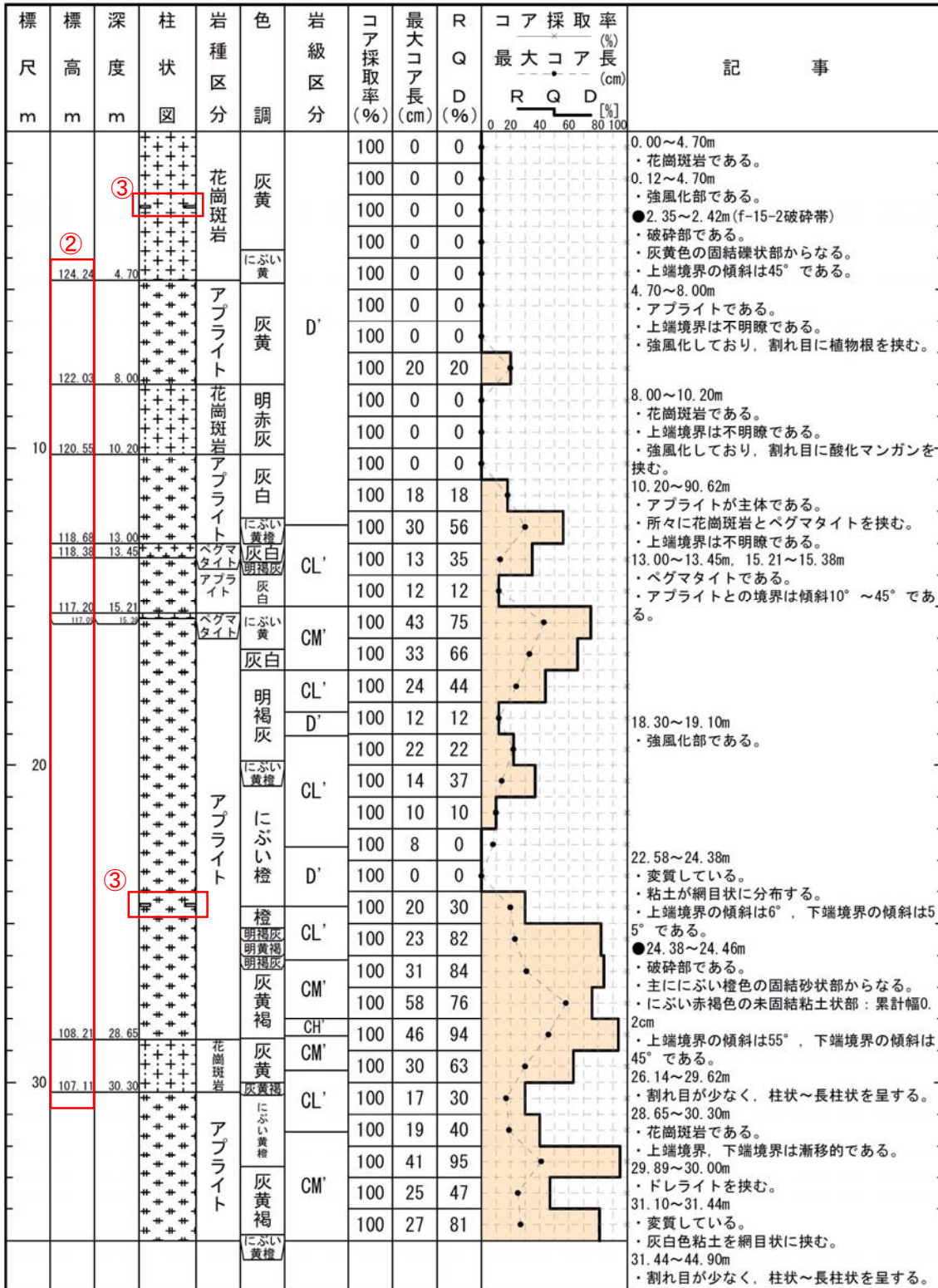


# H19-No.2

## 柱状図(0.00m~35.00m)

H19-No. 2

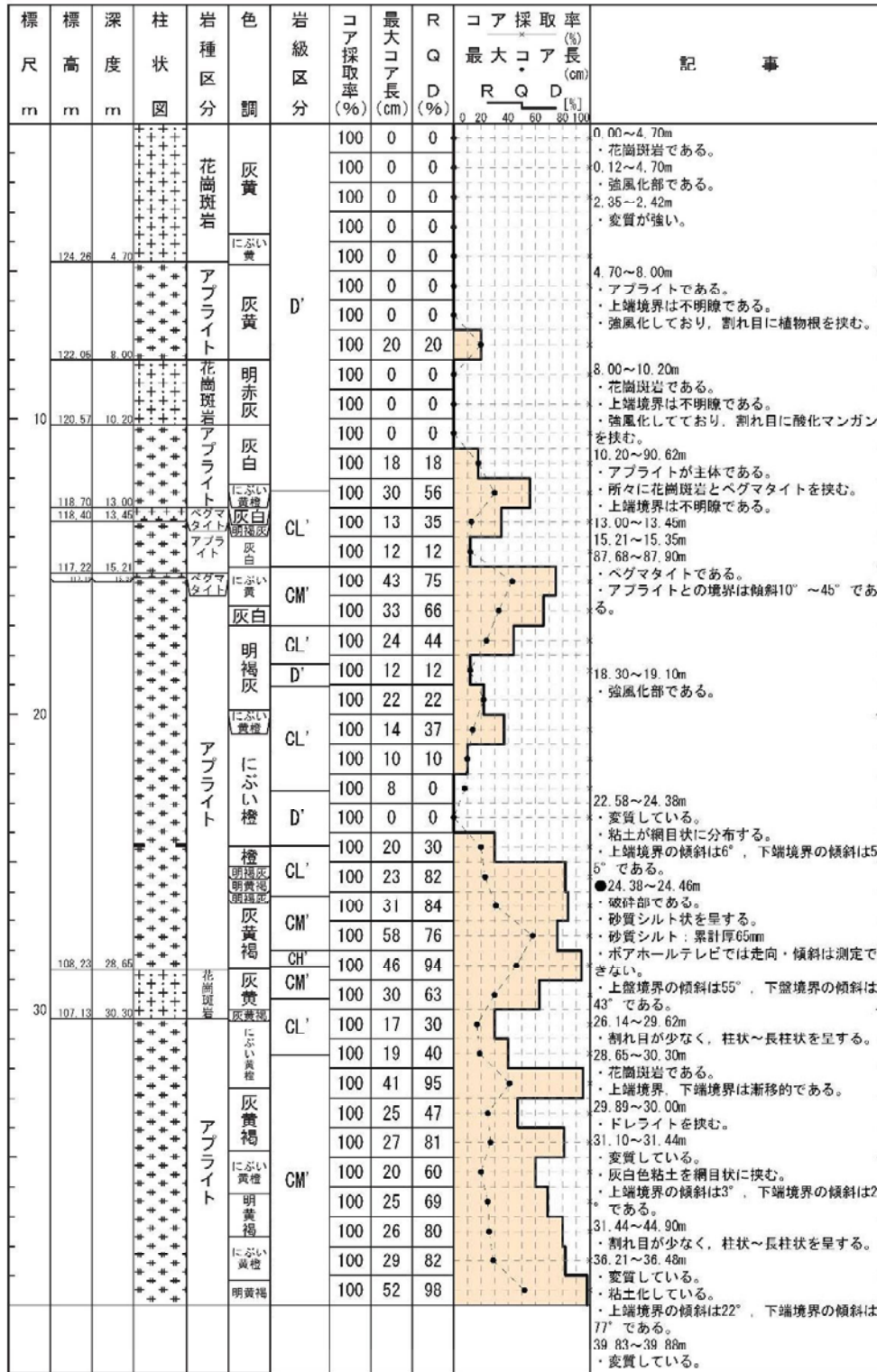
孔 口 標 高	T.P. 127.38m	掘 削 長	220.00m
---------	--------------	-------	---------



- 3-26(分類b)①  
誤記の修正。
- 3-27(分類b)②  
孔口標高を正しい値にしたため。
- 3-28, 3-29(分類d)③  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)

H19-No. 2

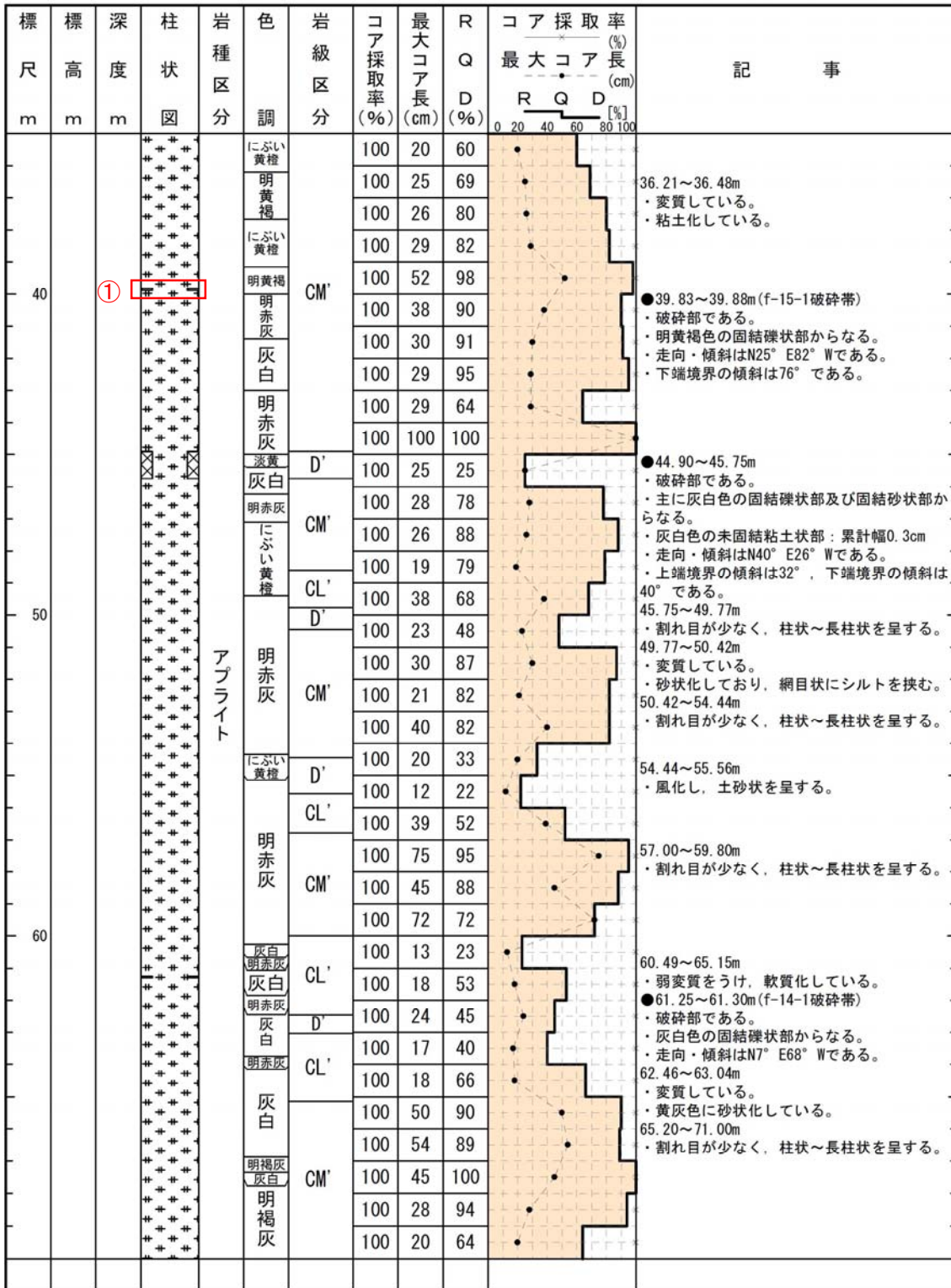
孔口標高	T.P. 127.40m	掘削長	220.00m
------	--------------	-----	---------



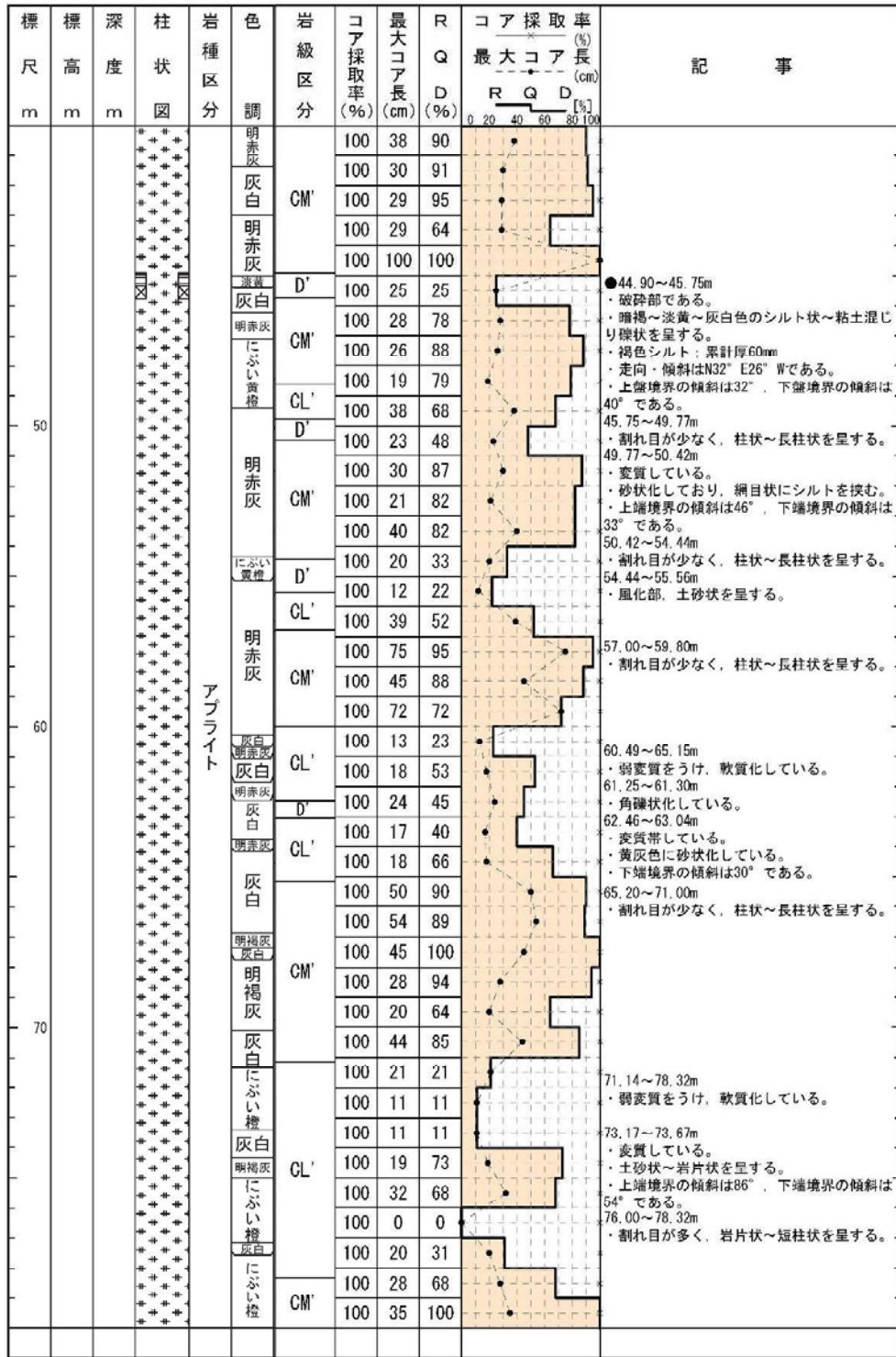
6-7-4-1032

第7.4.4.174図 (1) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.2孔)

柱状図(35.00m~70.00m)



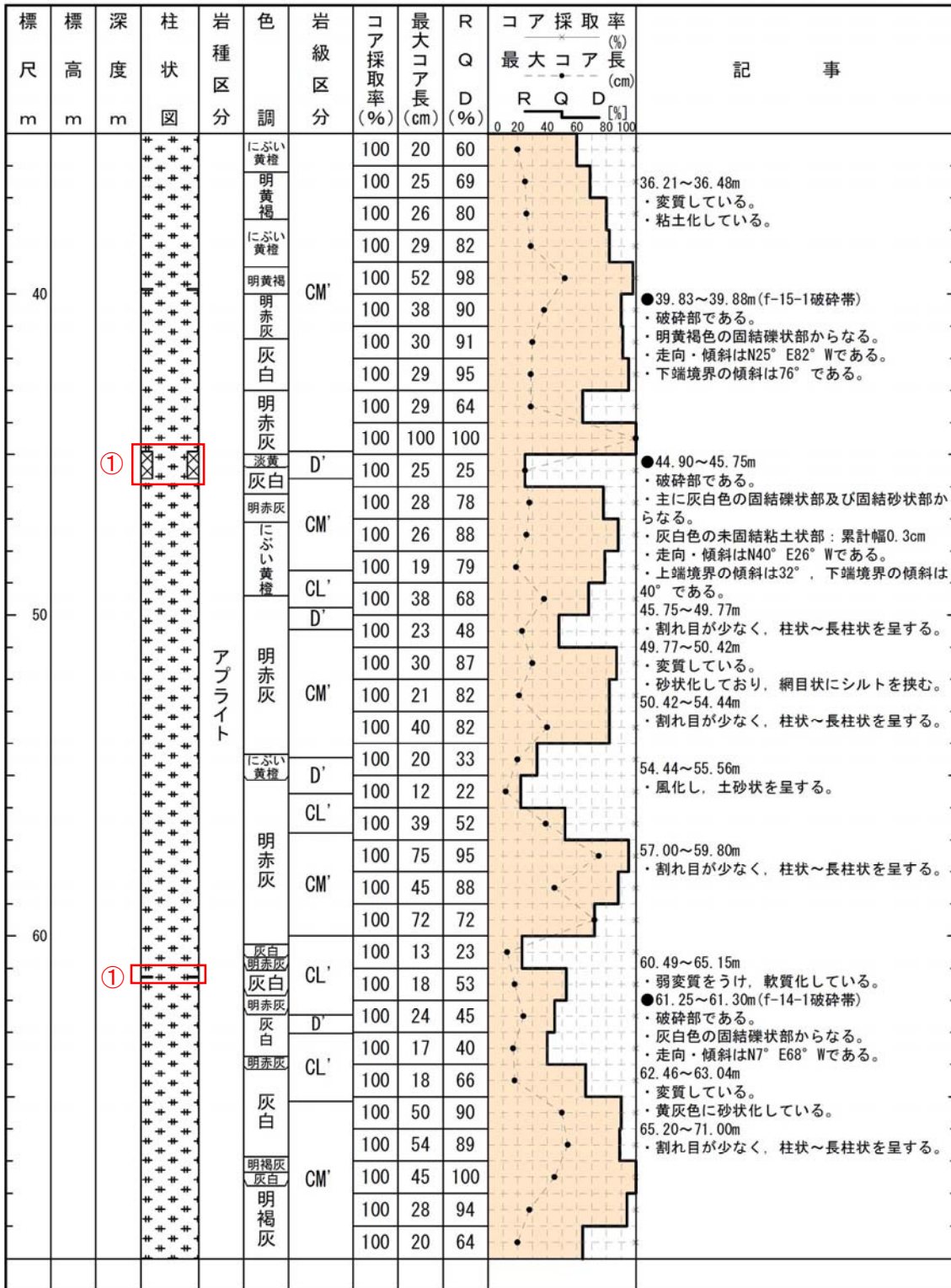
3-30(分類d)①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)



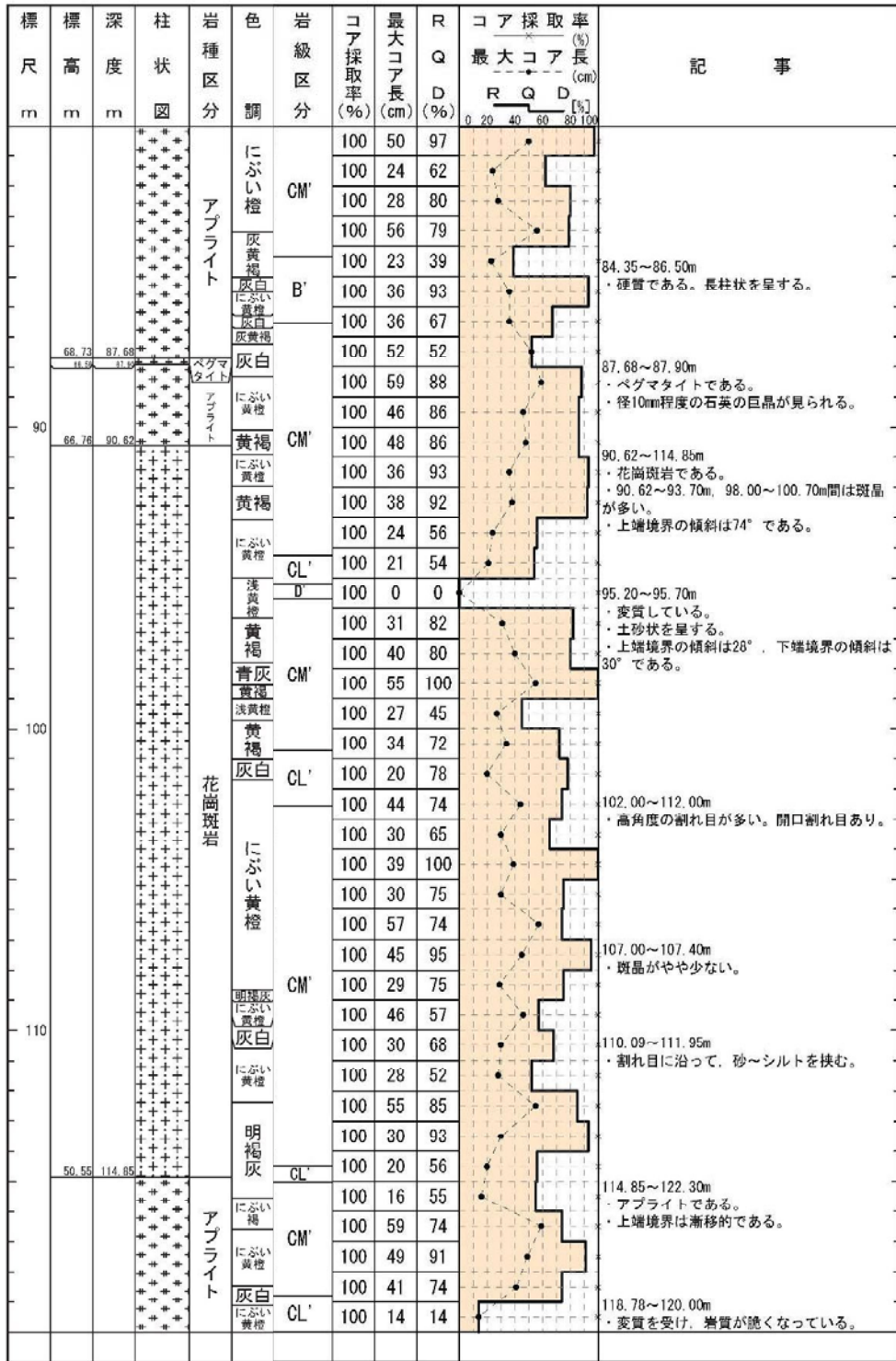
6-7-4-1033

第7.4.4.174図(2) D-1破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.2孔)

柱状図(35.00m~70.00m)



3-31, 3-32(分類d)①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破砕部模様の変更)

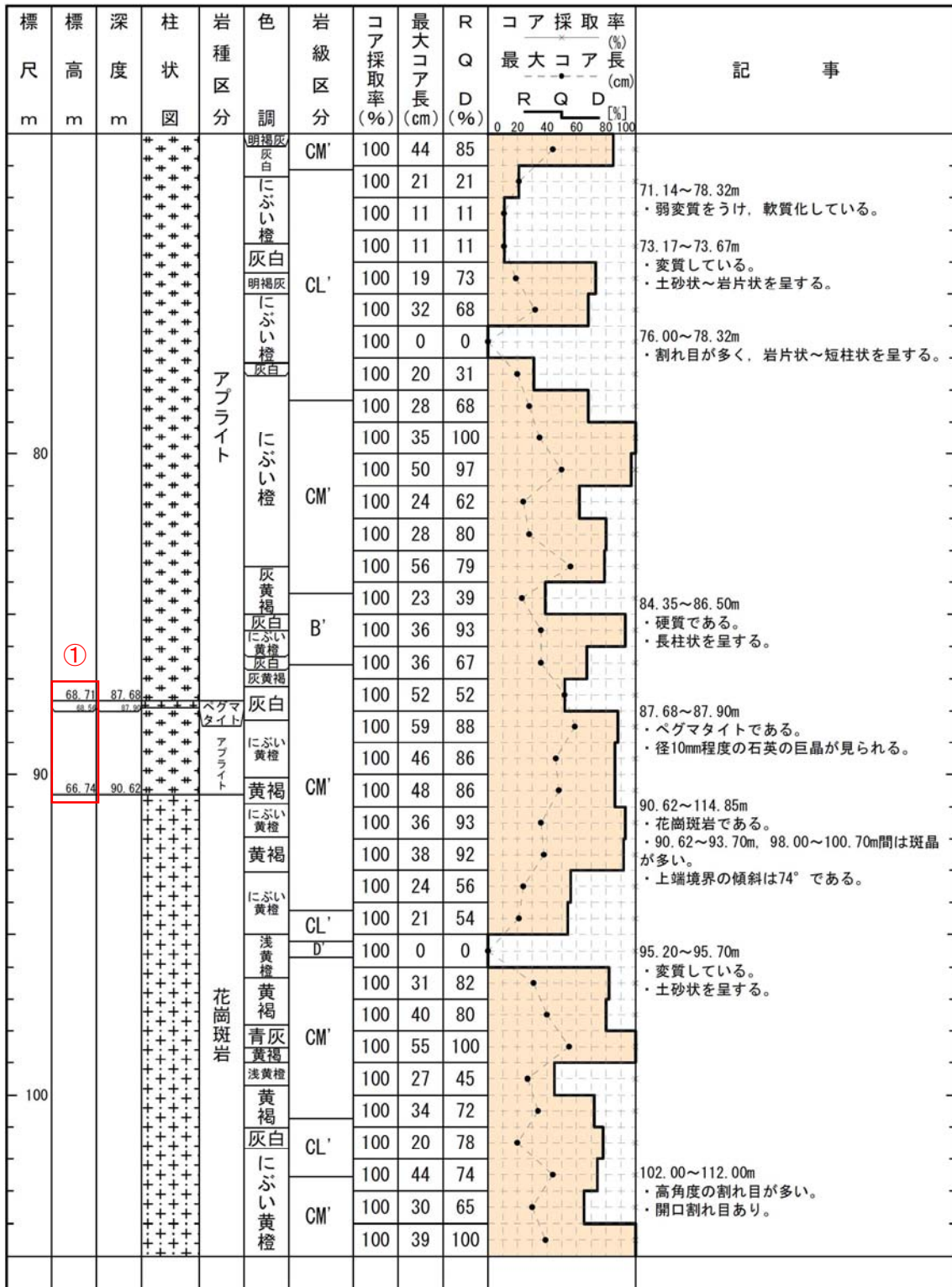


6-7-4-1034

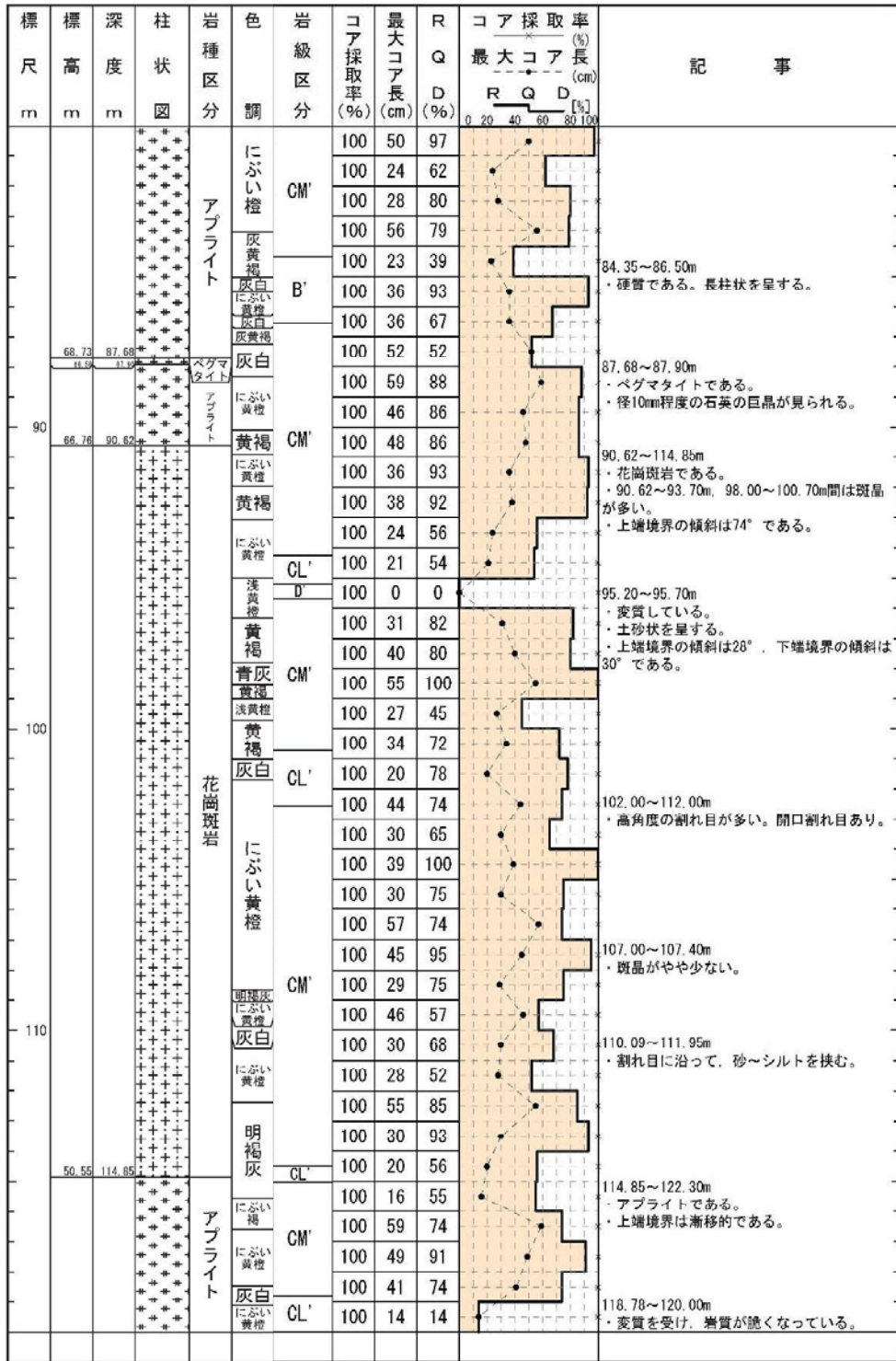
第7.4.4.174図(3) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.2孔)

# H19-No.2

## 柱状図(70.00m~105.00m)

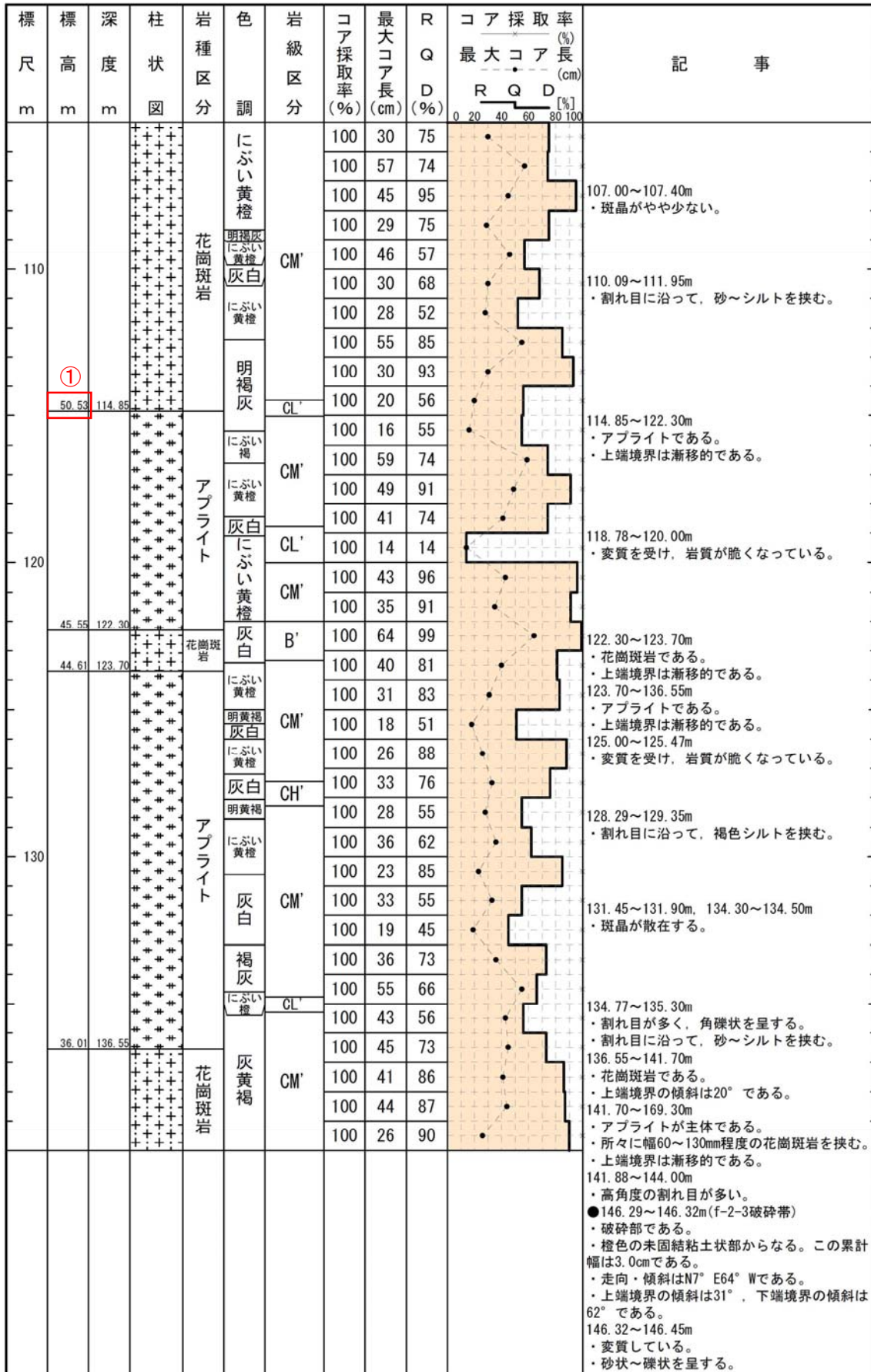


3-27(分類b)①  
 ① 孔口標高を正しい値にしたため。



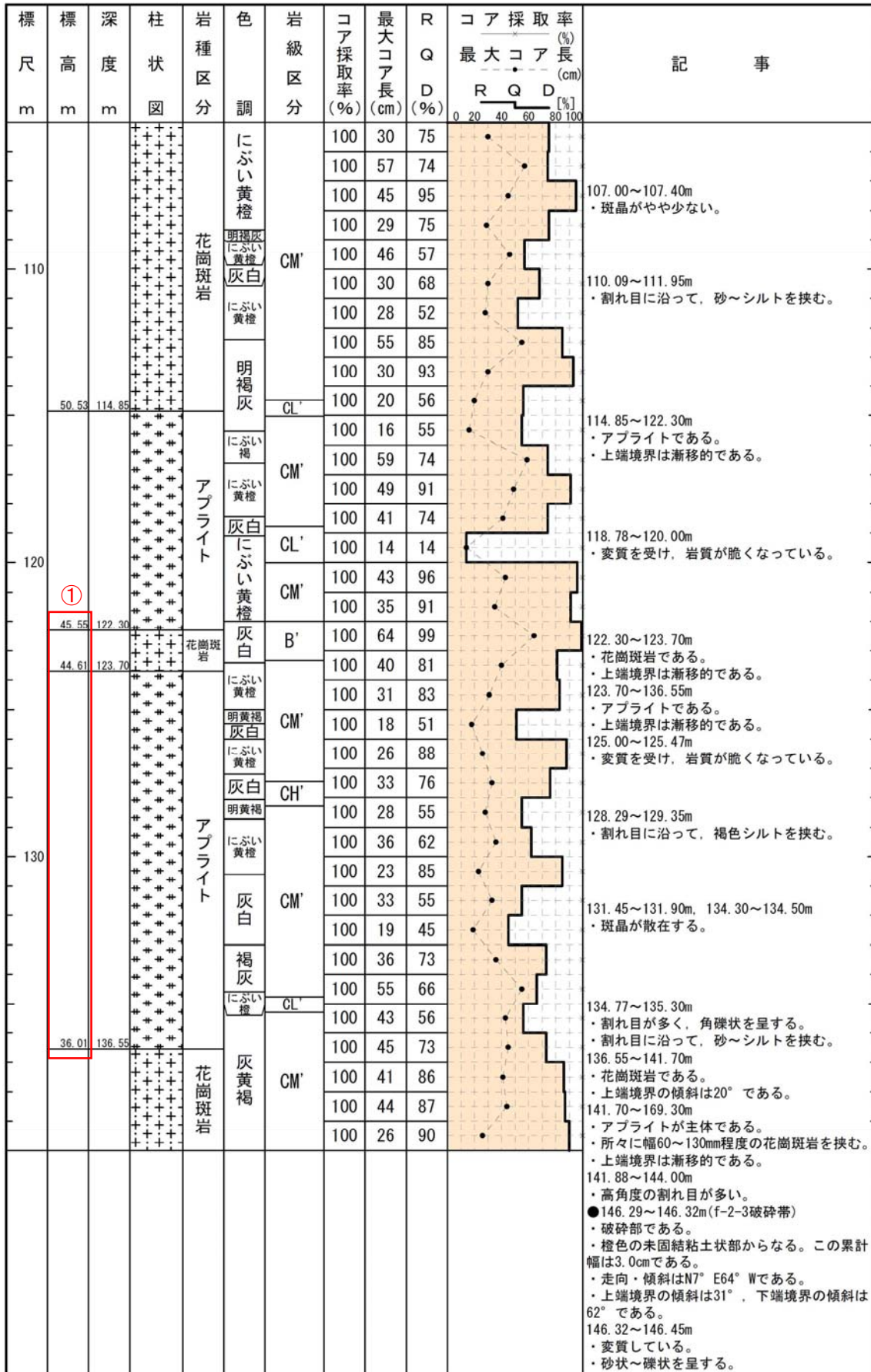


柱状図(105.00m~140.00m)



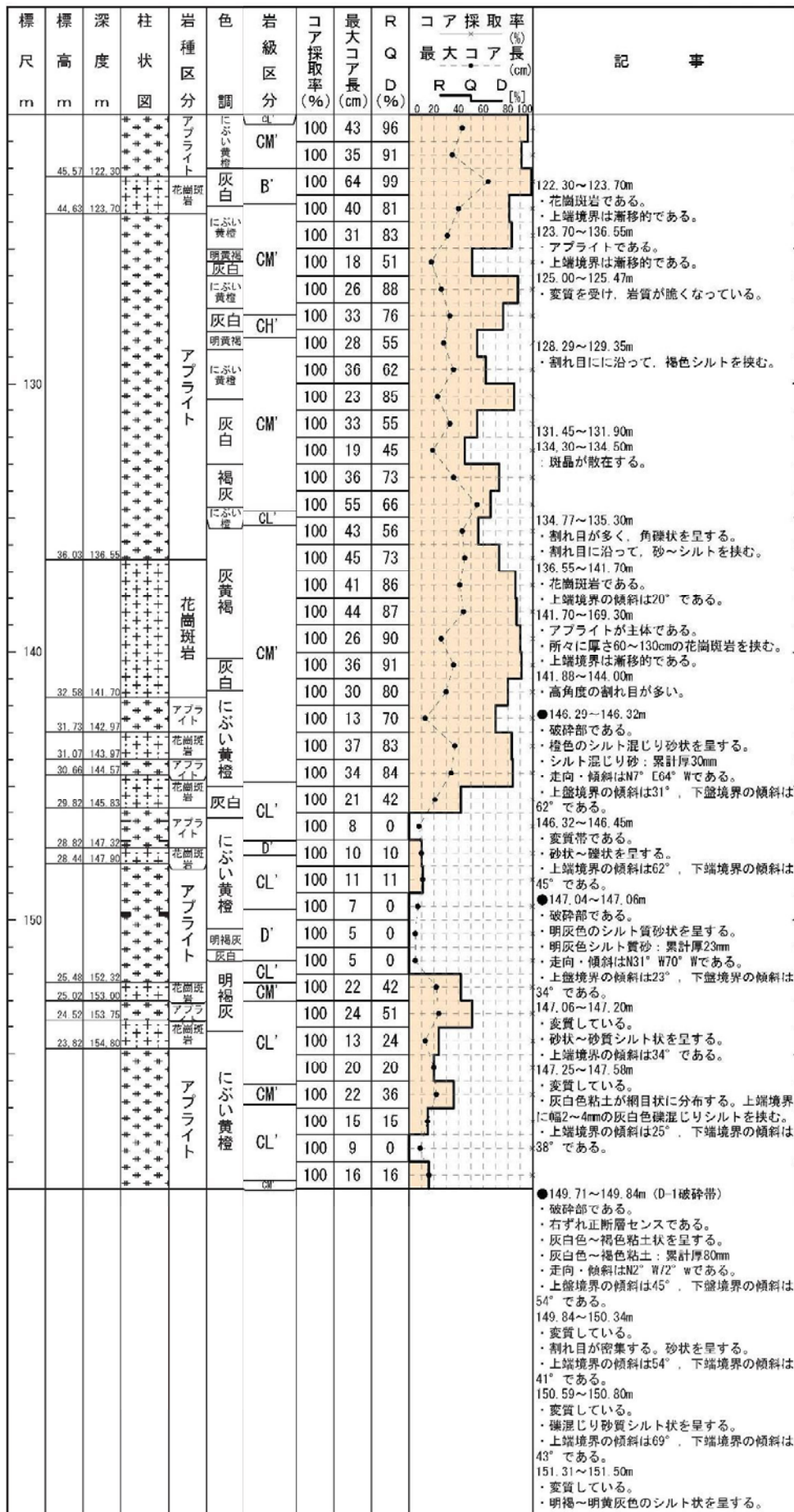


柱状図(105.00m~140.00m)



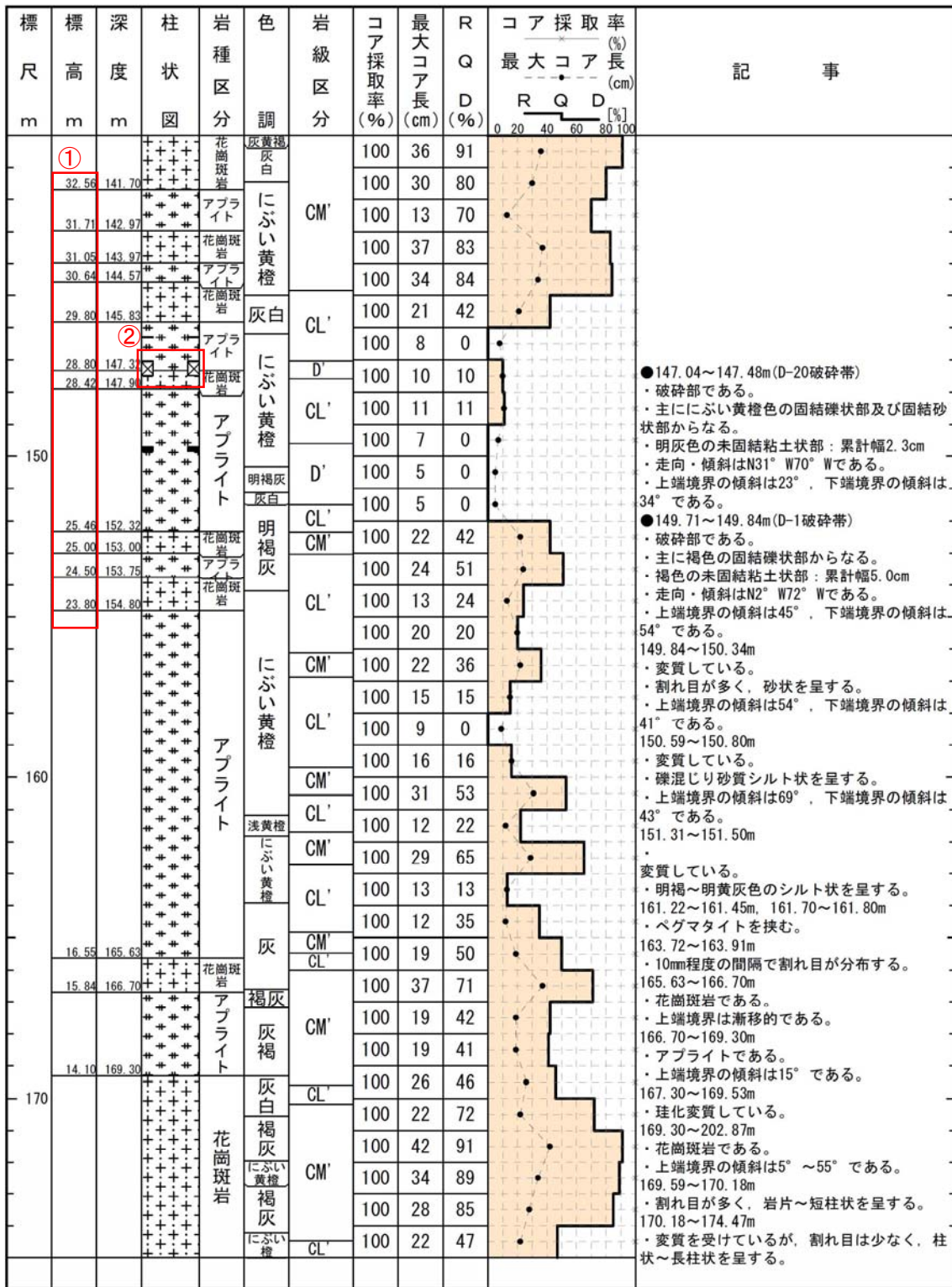
3-27(分類b)①  
 孔口標高を正しい値にしたため。

参考3-76

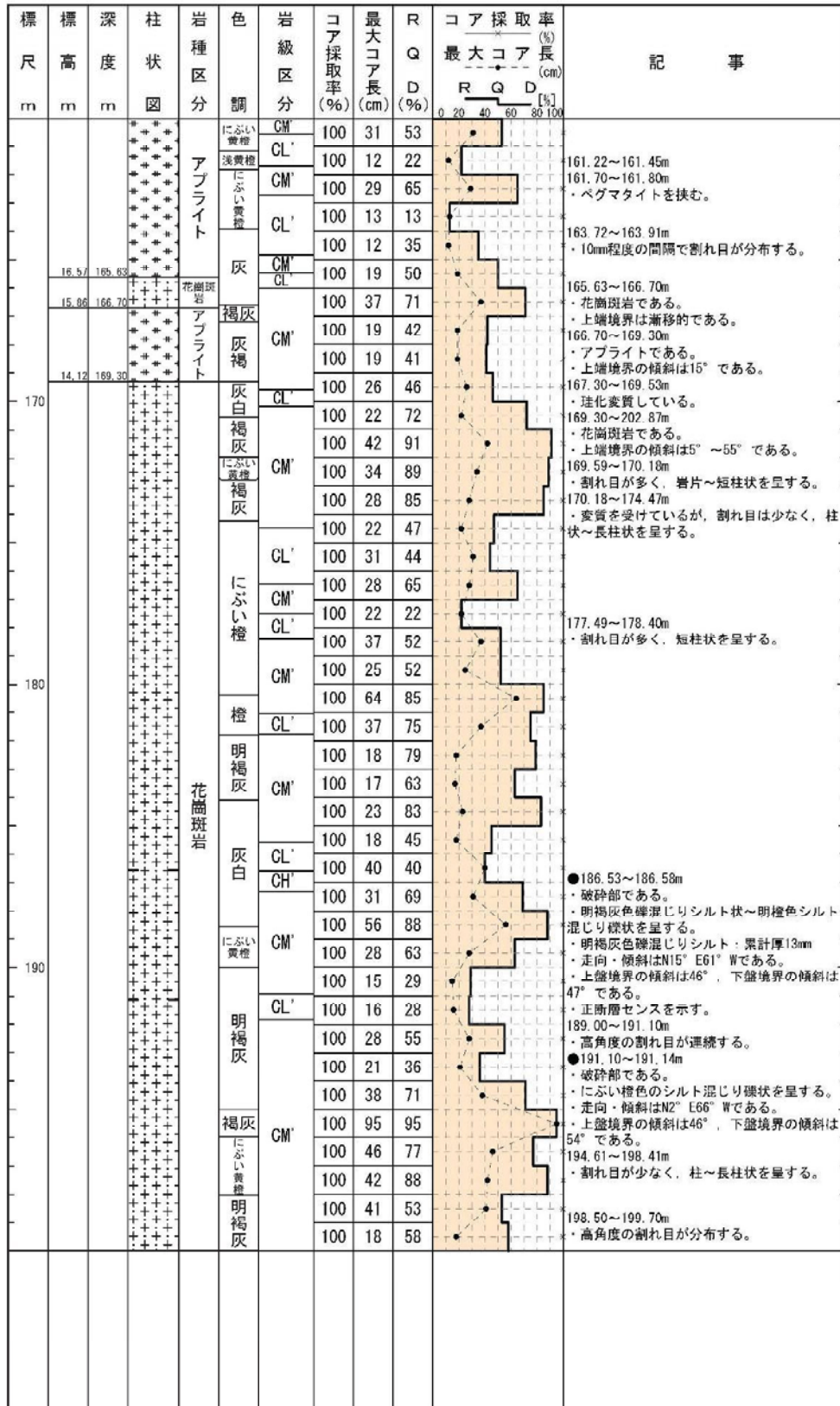


第7.4.4.174図 (4) D-1破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.2孔)

柱状図(140.00m~175.00m)



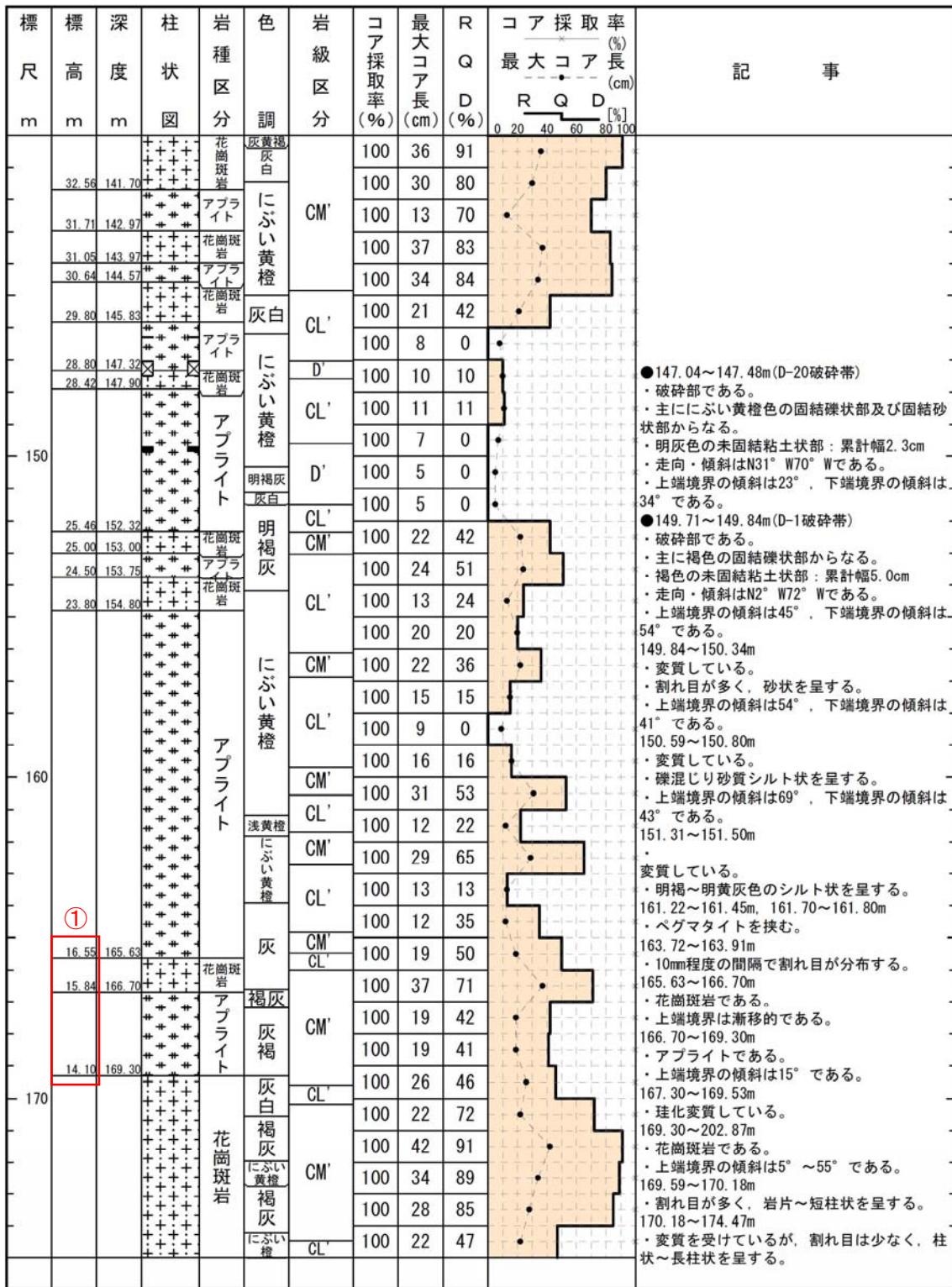
3-27(分類b)①  
 孔口標高を正しい値にしたため。  
 3-33(分類d)②  
 記事欄の記載変更に伴う変更。(破砕部模様の変更)



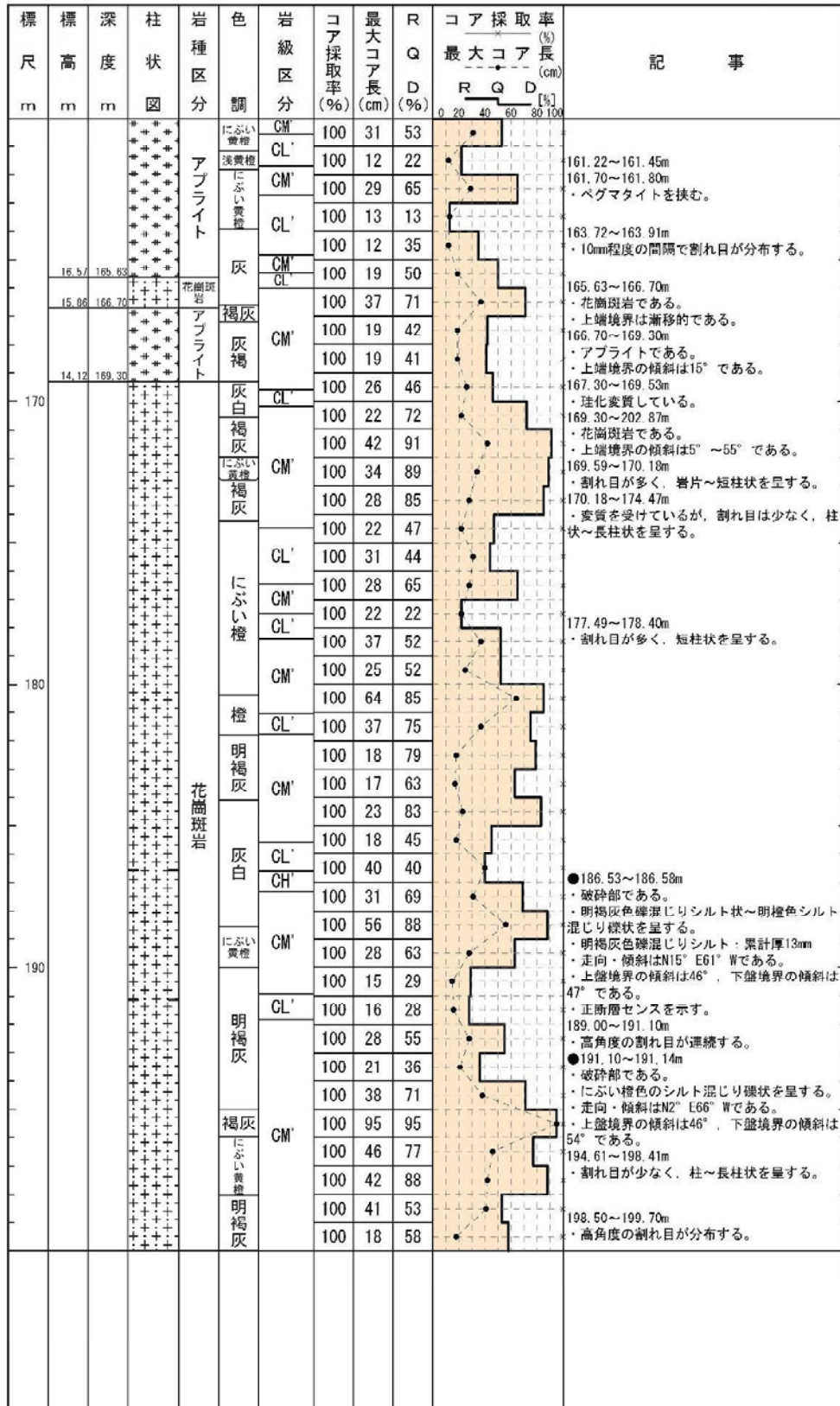
6-7-4-1036

第7.4.4.174図 (5) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.2孔)

柱状図(140.00m~175.00m)



3-27(分類b)①  
 ① 孔口標高を正しい値にしたため。

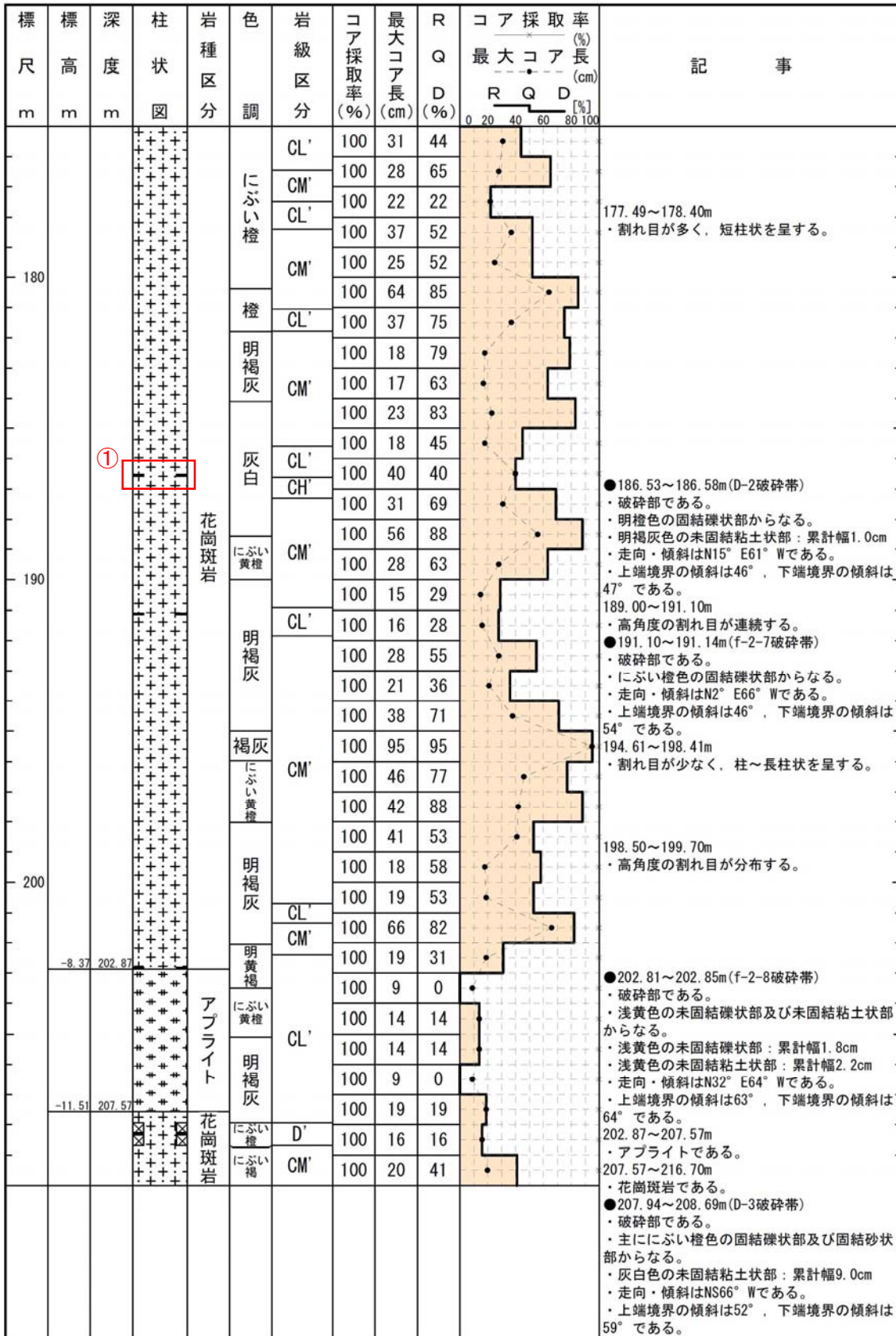


6-7-4-1036

第7.4.4.174図 (5) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.2孔)



柱状図(175.00m~210.00m)



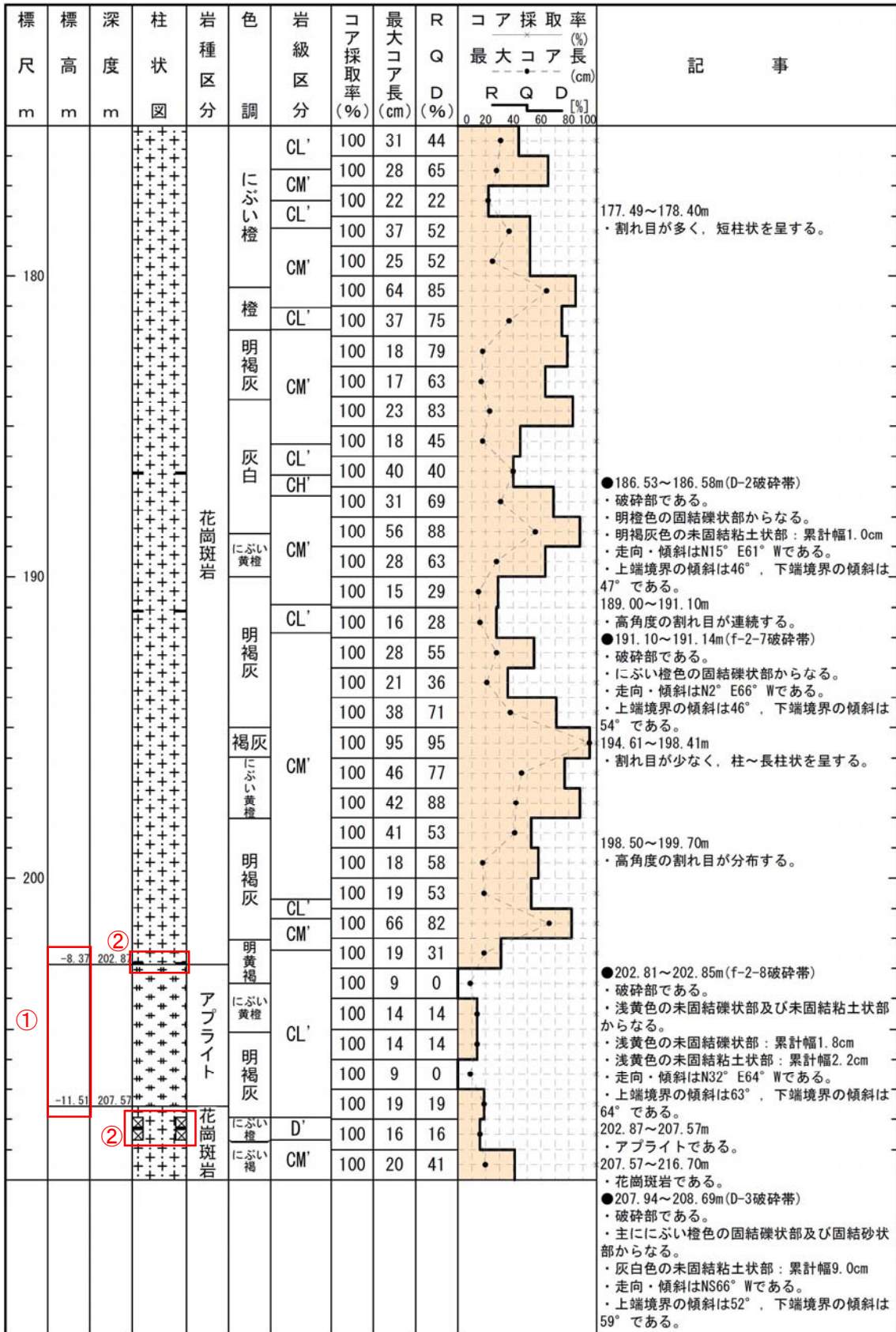
3-34(分類d)①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%) 最大コア 長 (cm)	記 事
210	-8.35 202.87		+	花崗斑岩	明褐灰	CM'	100	19	53		<ul style="list-style-type: none"> <li>●202.81~202.85m ・破砕部である。</li> <li>・浅黄色の礫混じりシルト状~シルト混じり礫状を呈する。</li> <li>・浅黄色礫混じりシルト：累計厚25mm</li> <li>・走向・傾斜はN32° E64° Wである。</li> <li>・上盤境界の傾斜は63°、下盤境界の傾斜は64°である。</li> <li>●202.87~207.57m ・アプライトである。</li> <li>●207.57~216.70m ・花崗斑岩である。</li> <li>●207.94~208.69m ・破砕部である。</li> <li>・灰白色の礫混じりシルト状~にぶい橙色の砂状を呈する。</li> <li>・灰白色礫混じりシルト：累計厚90mm</li> <li>・走向・傾斜はNS66° Wである。</li> <li>・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は59°である。</li> <li>●212.00~212.07m ・破砕部である。</li> <li>・黒色の礫混じりシルト質砂状を呈する。</li> <li>・黒色シルト質砂：累計厚40mm</li> <li>・走向・傾斜はN6° W63° Wである。</li> <li>・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は41°である。</li> <li>●215.42~215.46m ・破砕部である。</li> <li>・灰白色の礫混じりシルト状を呈する。</li> <li>・灰白色礫混じりシルト：累計厚35mm</li> <li>・走向・傾斜はN9° W69° Wである。</li> <li>・下盤境界の傾斜は55°である。</li> <li>・逆断層的構造が見られる。条線方向は30度右である。</li> <li>●216.15~216.24m ・破砕部である。</li> <li>・褐色のシルト混じり砂~礫状を呈する。</li> <li>・走向・傾斜はN26° W61° Wである。</li> <li>・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は63度である。</li> <li>・下盤での条線方向は50度右である。</li> <li>216.70~220.00m ・アプライトである。</li> <li>・上盤境界は不明瞭である。</li> </ul>
						CL'	100	66	82		
						CM'	100	19	31		
				アプライト	にぶい黄橙	CL'	100	9	0		
						CL'	100	14	14		
						CL'	100	14	14		
	花崗斑岩	にぶい褐	GM'	D'	100	19	19				
				GM'	100	16	16				
				GM'	100	20	41				
			GM'	100	19	73					
			CL'	100	18	18					
			GM'	100	24	68					
	アプライト	にぶい黄橙	GM'	GM'	100	21	21				
				GM'	100	6	0				
				GM'	100	17	27				
			CL'	100	31	42					
			GM'	100	21	67					
			CL'	100	28	65					
				明褐灰	CL'	100	17	27			
					CL'	100	17	27			

6-7-4-1037

第7.4.4.174図 (6) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.2孔)

柱状図(175.00m~210.00m)



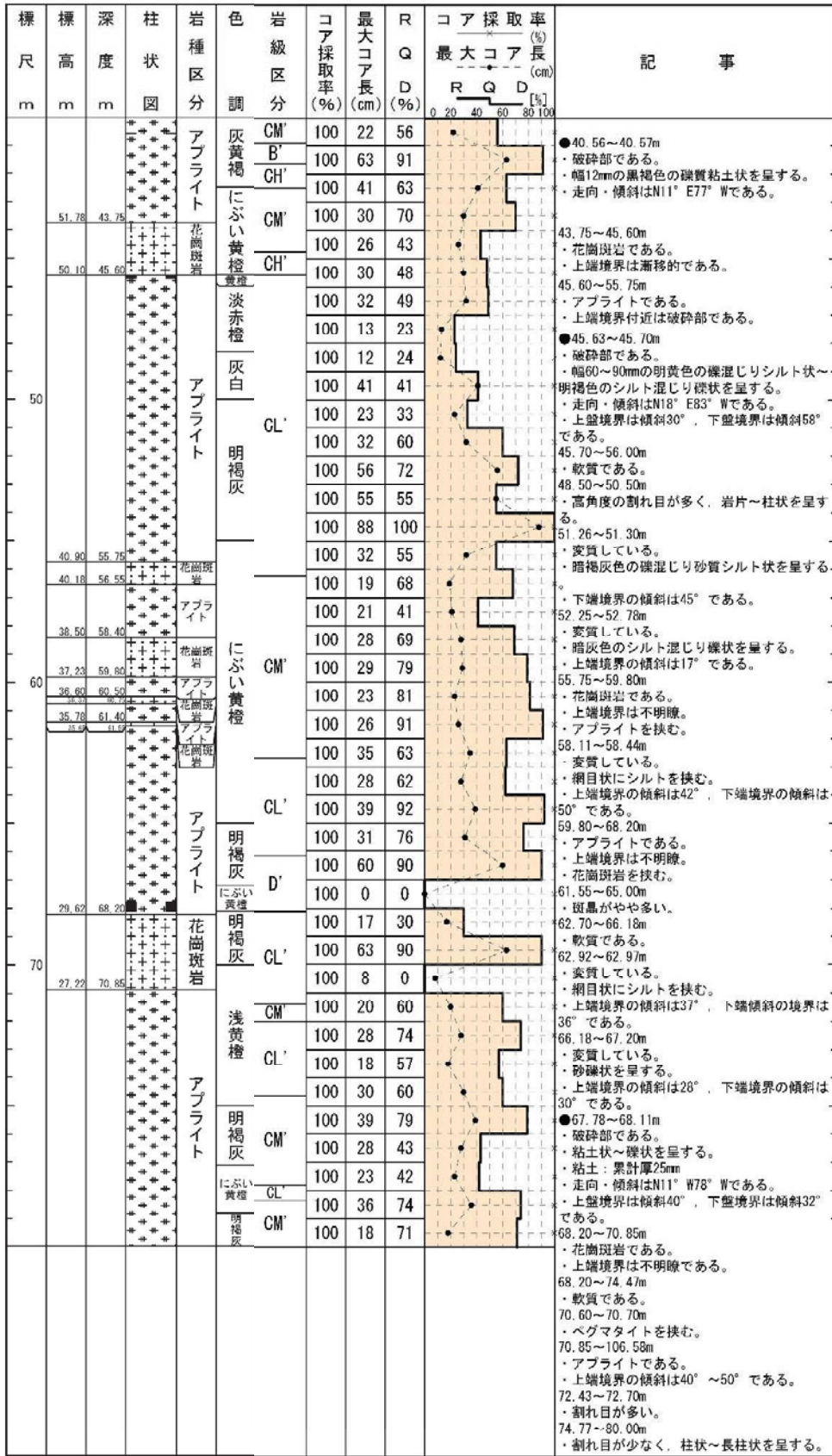
3-27(分類b)①  
 ① 孔口標高を正しい値にしたため。  
 3-35, 3-36(分類d)②  
 ② 記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%) 最大コア 長 (cm)	記 事	
												R
210	-8.35	202.87	+	花崗斑岩	明褐灰	CM'	100	19	53		<ul style="list-style-type: none"> <li>●202.81~202.85m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・浅黄色の礫混じりシルト状~シルト混じり礫状を呈する。</li> <li>・浅黄色礫混じりシルト：累計厚25mm</li> <li>・走向・傾斜はN32° E64° Wである。</li> <li>・上盤境界の傾斜は63°、下盤境界の傾斜は64°である。</li> <li>●202.87~207.57m</li> <li>・アプライトである。</li> <li>●207.57~216.70m</li> <li>・花崗斑岩である。</li> <li>●207.94~208.69m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・灰白色の礫混じりシルト状~にぶい橙色の砂状を呈する。</li> <li>・灰白色礫混じりシルト：累計厚90mm</li> <li>・走向・傾斜はNS66° Wである。</li> <li>・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は59°である。</li> <li>●212.00~212.07m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・黒色の礫混じりシルト質砂状を呈する。</li> <li>・黒色シルト質砂：累計厚40mm</li> <li>・走向・傾斜はN6° W63° Wである。</li> <li>・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は41°である。</li> <li>●215.42~215.46m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・灰白色の礫混じりシルト状を呈する。</li> <li>・灰白色礫混じりシルト：累計厚35mm</li> <li>・走向・傾斜はN9° W69° Wである。</li> <li>・下盤境界の傾斜は55°である。</li> <li>・逆断層的構造が見られる。条線方向は30度右である。</li> <li>●216.15~216.24m</li> <li>・破砕部である。</li> <li>・褐色のシルト混じり砂~礫状を呈する。</li> <li>・走向・傾斜はN26° W61° Wである。</li> <li>・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は63度である。</li> <li>・下盤での条線方向は50度右である。</li> <li>216.70~220.00m</li> <li>・アプライトである。</li> <li>・上盤境界は不明瞭である。</li> </ul>	
						CL'	100	66	82			
						CM'	100	19	31			
	-11.49	207.57	+	アプライト	明褐灰	CL'	CM'	100	9	0		
							CL'	100	14	14		
							CL'	100	14	14		
	-17.60	216.70	+	花崗斑岩	にぶい褐	GM'	D'	100	19	19		
							GM'	100	16	16		
							GM'	100	20	41		
	-19.81	220.00	+	アプライト	明褐灰	CL'	GM'	100	19	73		
							CL'	100	18	18		
							GM'	100	24	68		
								GM'	100	21		21
								CL'	100	6		0
								CL'	100	17		27
							CL'	100	31	42		
							CM'	100	21	67		
							CL'	100	28	65		
							CL'	100	17	27		
							CM'	100	21	67		
							CL'	100	28	65		
							CL'	100	17	27		

6-7-4-1037

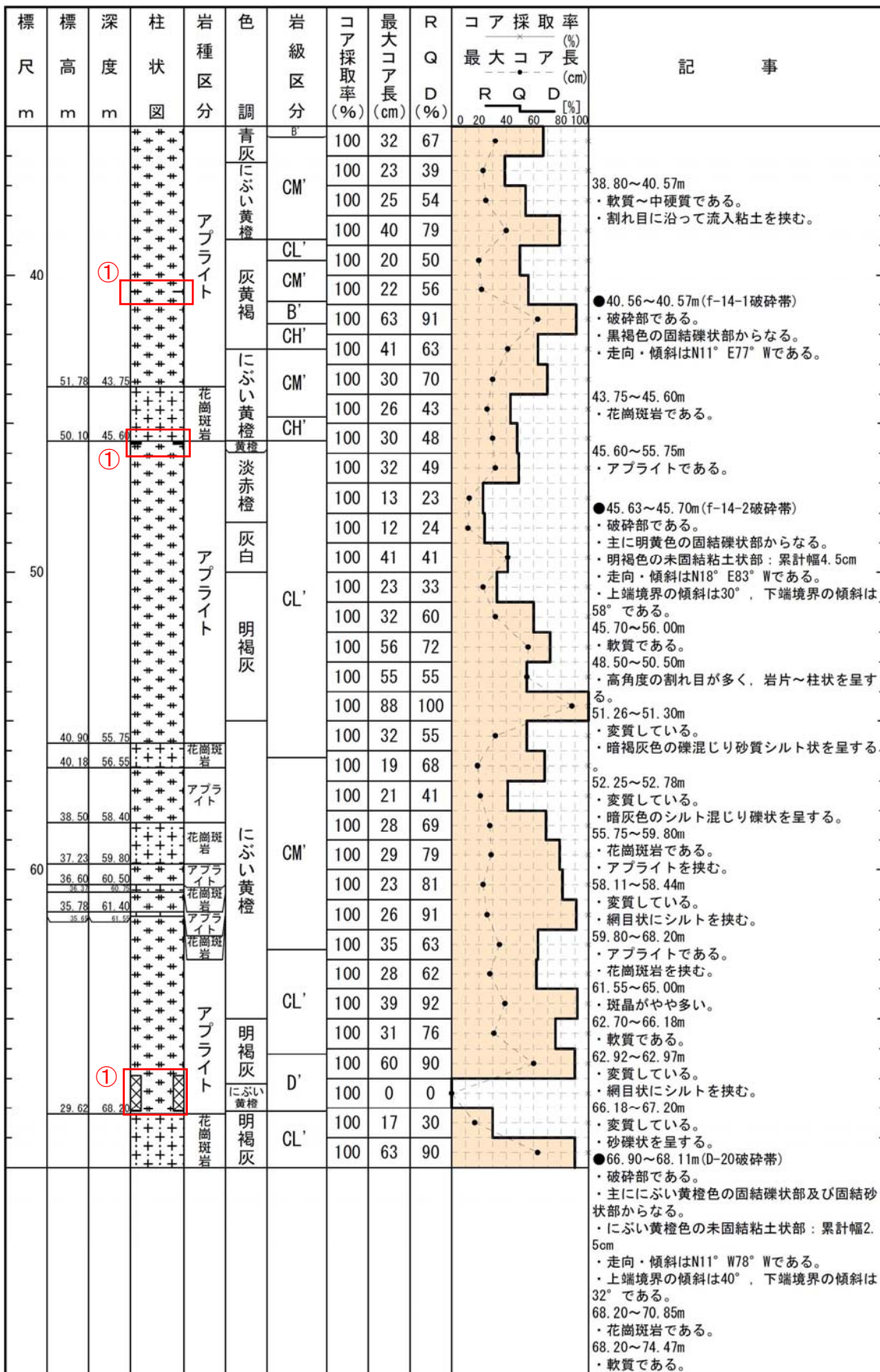
第7.4.4.174図 (6) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.2孔)





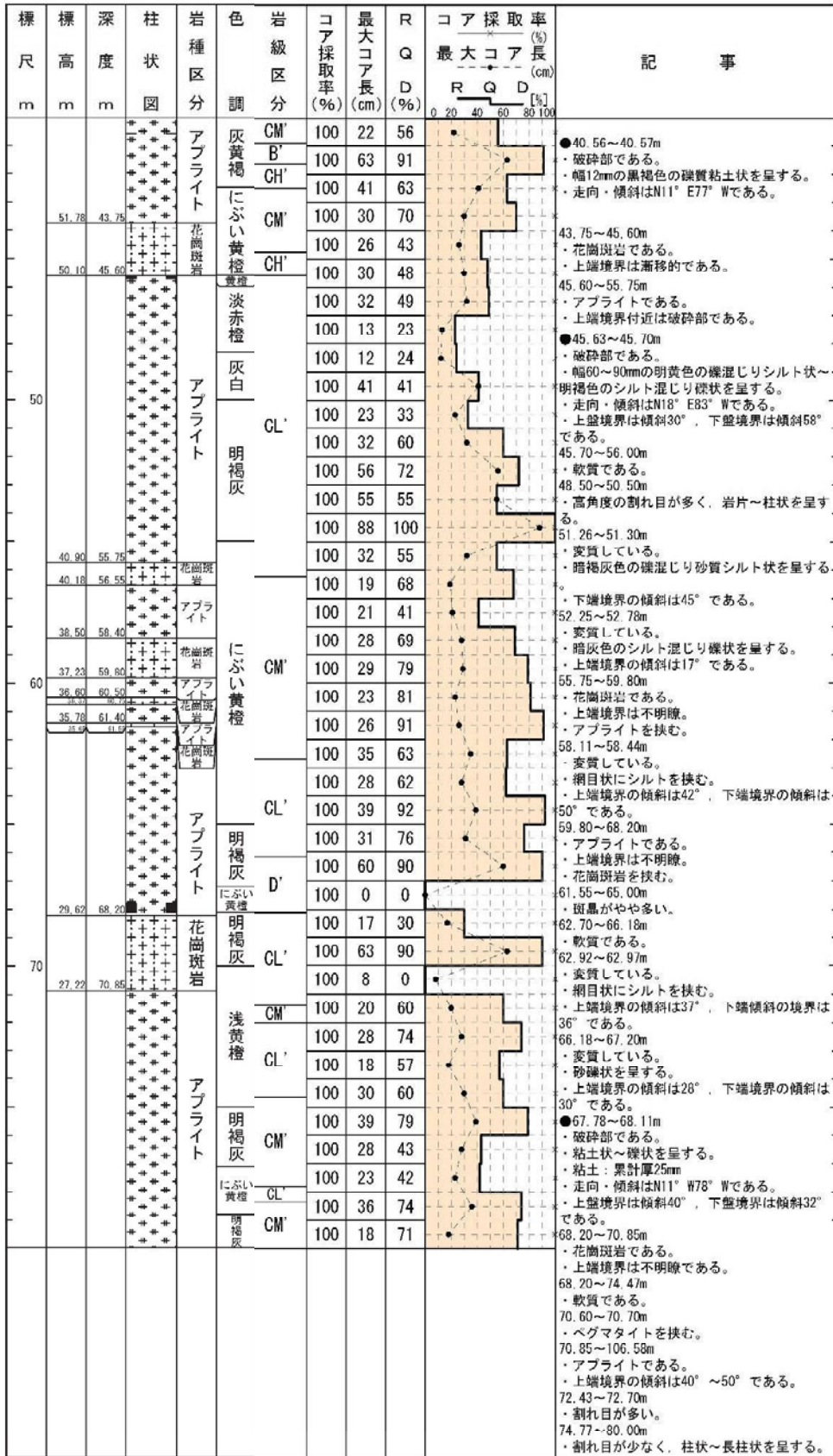
第7.4.4.175図 (2) D-1 破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.14孔)

柱状図(35.00m~70.00m)



3-38~3-40(分類d)①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)

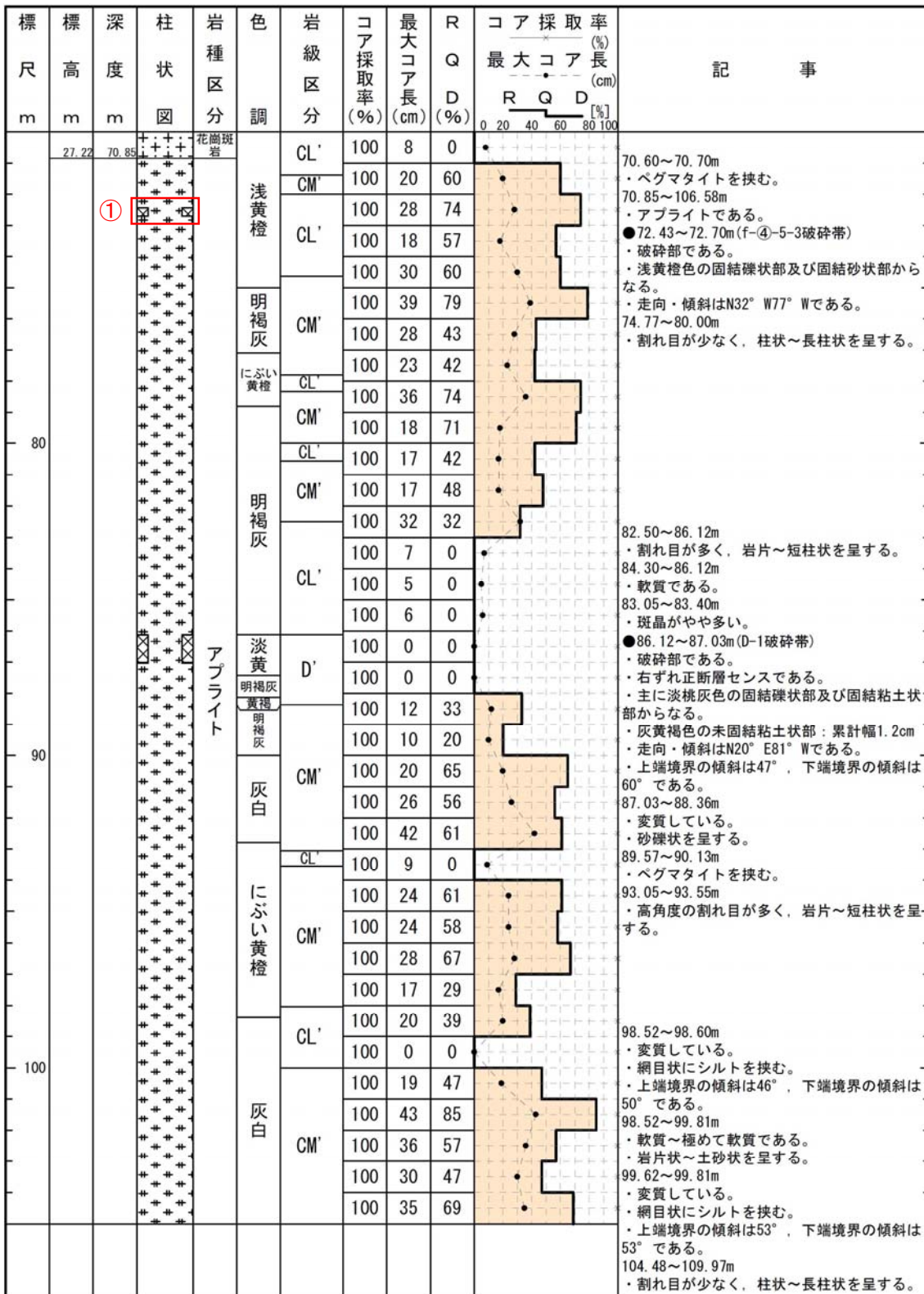
参考3-98



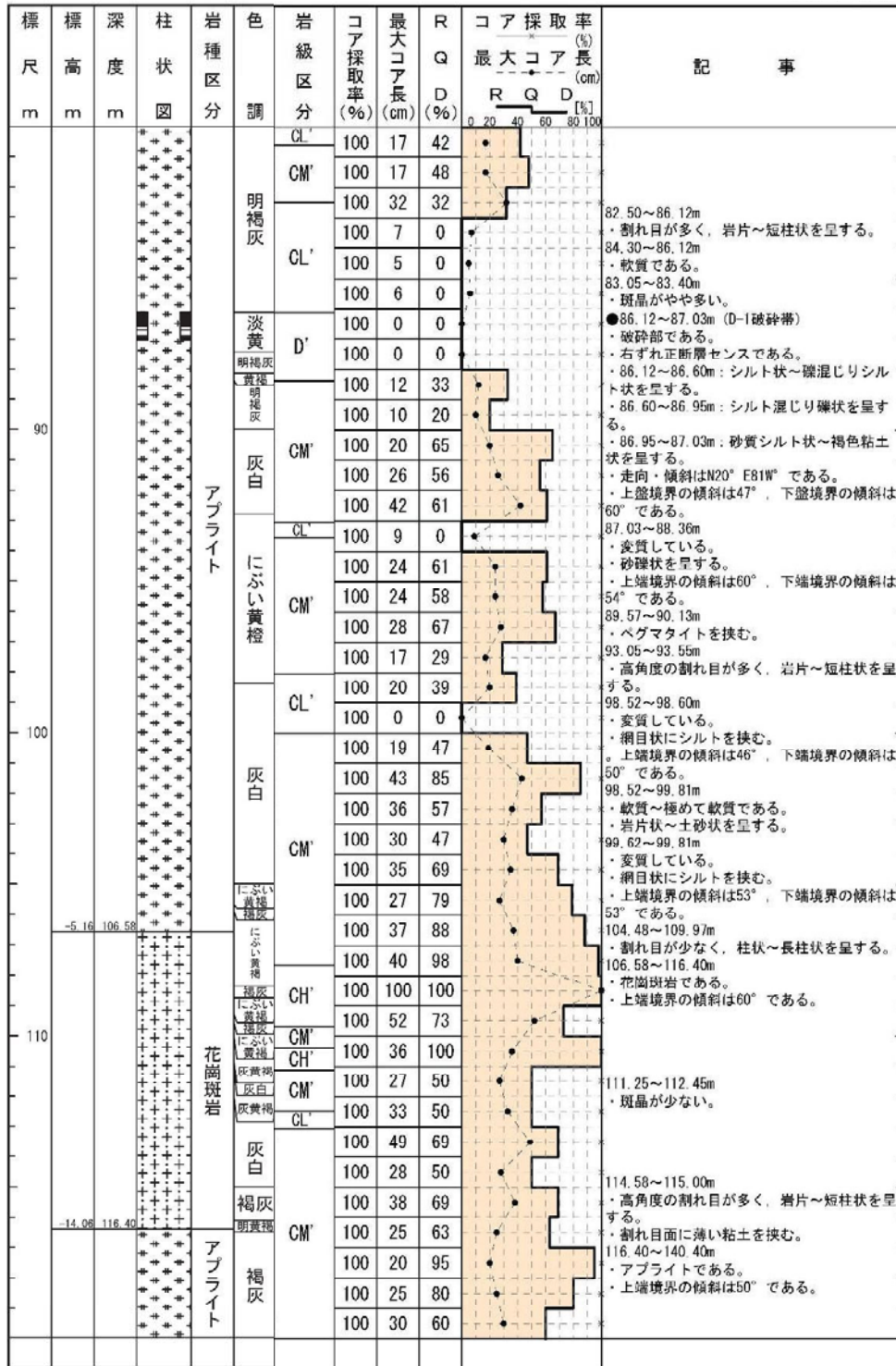
第7.4.4.175図 (2) D-1 破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.14孔)



柱状図(70.00m~105.00m)

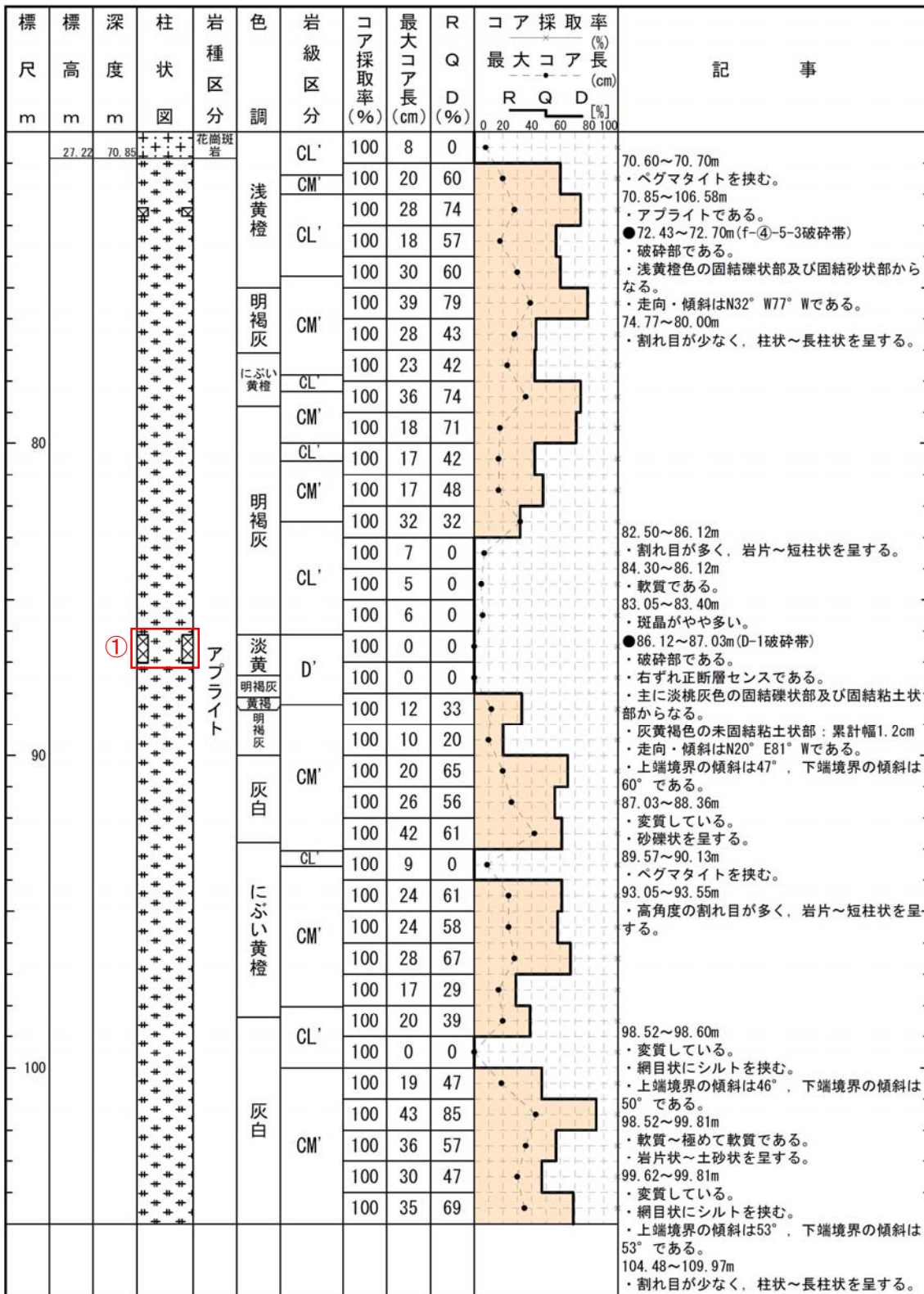


3-41(分類d)①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)



第7.4.4.175図 (3) D-I 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.14孔)

柱状図(70.00m~105.00m)



3-42(分類d)①  
記事欄の記載変更に伴う変更。(破碎部模様の変更)

H20-②-1

孔口標高	I.P.	69.01m	掘削長	65.00m
------	------	--------	-----	--------

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事
										最大 コア 長 (cm)	R	Q	
				原種土	淡橙	D'	100	0	0				0.00~0.07m ・腐植土である。
	66.71	2.30		アフライト	淡黄橙	D'	100	0	0				0.07~0.05m ・アフライトが主体である。
	64.39	2.09		花崗斑岩		CL'	100	17	32				2.30~2.65m 2.90~3.20m 3.95~4.34m ・花崗斑岩である。 ・アフライトとの境界は漸移的である。
	65.06	3.95		アフライト	明褐灰	CM'	100	13	13				0.07~2.01m ・極めて軟質である。
	64.67	4.34		アフライト	淡橙	D'	100	22	22				0.07~14.79m ・傾斜25°及び60°程度の割れ目が見られる。
	61.84	7.17		アフライト	橙	CL'	100	12	12				・割れ目に沿って褐色化し、マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
	61.32	7.69		ベグマタイト	浅黄橙	CL'	100	12	22				2.01~10.94m ・軟質である。
	60.96	8.05		アフライト	浅黄橙	CL'	100	22	36				7.17~7.65m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
	59.34	9.67		花崗斑岩	灰白	CM'	100	36	46				・上端境界の傾斜は22°、下端境界の傾斜は17°である。
	58.95	10.06		花崗斑岩	灰白	CL'	100	11	22				7.71~8.81m ・傾斜40°~75°程度、幅1mm以下の石英脈を多数挟む。
	58.07	10.94		ベグマタイト	橙	CM'	100	32	61				8.05~10.94m ・花崗斑岩である。 ・アフライトとの境界は漸移的である。
	57.88	11.11		ベグマタイト	明赤褐	CM'	100	14	40				9.67~10.06m ・黒雲母花崗岩を挟む。
				花崗斑岩	明黄褐	CL'	100	36	55				10.94~11.21m ・ベグマタイトである。
				花崗斑岩	浅黄橙	CL'	100	39	60				・径5~50mm程度の石英、長石からなる。
				花崗斑岩	にぶい黄橙	CM'	100	42	53				10.94~14.79m ・中硬質である。
				花崗斑岩	明褐	CH'	100	31	68				11.21~32.25m ・花崗斑岩である。
				花崗斑岩	褐灰	CH'	100	48	77				14.79~18.26m ・軟質である。
				花崗斑岩	明褐灰	CM'	100	27	47				14.79~18.69m ・傾斜70°程度の割れ目が見られる。
				花崗斑岩	にぶい橙	CM'	100	23	56				・割れ目に沿って褐色化し、マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
				花崗斑岩	にぶい橙	CH'	100	31	55				18.26~29.70m ・硬質である。
				花崗斑岩	にぶい橙	CM'	100	38	95				18.69~29.55m ・傾斜20°及び70°程度の割れ目が見られる。
				花崗斑岩	にぶい橙	CM'	100	38	71				・割れ目節理に沿って褐色化し、一部灰白色粘土を伴う。
				花崗斑岩	にぶい橙	CH'	100	36	77				24.61m ・傾斜80°程度、幅1~2mm程度の石英脈を挟む。
				花崗斑岩	にぶい橙	CH'	100	27	70				26.62m ・傾斜76°程度、幅1~2mm程度の石英脈を挟む。
				花崗斑岩	にぶい橙	CH'	100	30	77				29.55~39.55m ・傾斜45°及び75°程度の割れ目が見られる。
	36.76	32.25		アフライト	橙	CM'	100	16	42				・割れ目に沿って褐色化し、マンガンを伴うことが多い。
	35.53	33.48		アフライト	橙	CM'	100	22	33				29.70~33.90m ・中硬質である。
				花崗斑岩	にぶい橙	CH'	100	23	82				32.01m ・傾斜66°程度、幅5~10mm程度の石英脈を挟む。マンガンを伴う。
				花崗斑岩	明褐灰	CH'	100	37	80				32.22m ・傾斜67°程度、幅10mm程度のマンガン脈を挟む。
				花崗斑岩	明褐灰	CH'	100	37	80				32.25~33.48m ・アフライトである。 ・上位の花崗斑岩との境界は漸移的である。
				花崗斑岩	明褐灰	CH'	100	37	80				33.48~65.00m ・花崗斑岩が主体である。 ・上位のアフライトとの境界は傾斜78°程度である。
				花崗斑岩	明褐灰	CH'	100	37	80				33.90~44.37m ・硬質である。

第7.4.4.176図(1) D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図(H20-No.②-1孔)